

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	1学期	1	2		
	休講	1年				
	家族を問う		1	2		
	閉講	1年				
	人間と文化	1学期	1	2		
	休講	1年				
	ことばの科学 (読替科目：ことばの科学)	漆原 朗子	1学期	1	2	15
			1年			
	国際学入門 (読替科目：国際学入門)	伊野 憲治	1学期	1	2	16
			1年			
	教養としての平和学	閉講		1	2	
			1年			
	可能性としての歴史	休講	2学期	2	2	
			2年			
	家族の再生	閉講		2	2	
		2年				
文化と政治 (読替科目：現代社会と文化)	神原 ゆうこ	2学期	2	2	19	
		2年				
言語と認知 (読替科目：言語と認知)	漆原 朗子 他	1学期	2	2	20	
		2年				
共生社会論 (読替科目：共生社会論)	伊野 憲治	2学期	2	2	21	
		2年				
戦争と平和 (読替科目：戦争論)	戸蒔 仁司	2学期	2	2	23	
		2年				
生活世界の哲学 (読替科目：生活世界の哲学)	伊原木 大祐	1学期	1	2	17	
		1年				
共同体と身体 (読替科目：共同体と身体)	伊原木 大祐	2学期	2	2	22	
		2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目：メンタル・ヘルスI)	寺田 千栄子	1学期	1	2	76
			1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII (読替科目：メンタル・ヘルスII) 寺田 千栄子	2学期	1	2	77
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 高西 敏正	1学期	1	2	78
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 徳永 政夫	1学期	1	2	79
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 加倉井 美智子	1学期	1	2	80
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	2	81
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	2	82
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	2	83
		1年			
	自己管理論 (読替科目：自己管理論) 山本 浩二	2学期	1	2	84
		1年			
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 眞鍋 和博	1学期	1	2	101	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 石川 敬之	1学期	1	2	102	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	103	
	1年				
コミュニケーションと思考法 (読替科目：コミュニケーション実践) 眞鍋 和博	2学期	1	2	104	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 (読替科目：プロフェッショナルの仕事I) 見館 好隆	1学期	2	2	105	
	2年				
大学論・学問論 閉講		1	2		
	1年				
法律の読み方 (読替科目：法律の読み方) 小野 憲昭	2学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査 (読替科目：社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	60
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)) 黒田 次郎	1学期	1	1	85
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 山崎 将幸	1学期	1	1	86
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (テニス)) 黒田 次郎	1学期	1	1	87
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	88
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	89
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 山本 浩二	1学期	1	1	90
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	1学期	1	1	91
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 山崎 将幸	2学期	1	1	92
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 黒田 次郎	2学期	1	1	93	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 黒田 次郎	2学期	1	1	94	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	95	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 美山 泰教	2学期	1	1	96	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 山崎 将幸	2学期	1	1	97	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	98	
	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	99
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	100
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 徳永 政夫 他	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	25
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 廣川 祐司	1学期	1	2	26
		1年			
	教養基礎演習I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	1	2	27
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 徳永 政夫 他	2学期	1	2	28
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	29
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 神原 ゆうこ	2学期	1	2	30
		1年			
教養基礎演習II (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習II (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	1	2	31	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 廣川 祐司	2学期	1	2	32	
	1年				
教養基礎演習II (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習II (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	1	2	33	
	1年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) (読替科目: 教養演習AI (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	34	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習AⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	2	2	35
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 神原 ゆうこ	2学期	2	2	36
		2年			
	教養演習AⅡ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習AⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	2	2	37
		2年			
	教養演習AⅡ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習AⅡ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	2	2	38
		2年			
	教養演習BⅠ 神原 ゆうこ	1学期	3	2	39
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習BⅠ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	40
		3年			
	教養演習BⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	3	2	41
		3年			
	教養演習BⅡ (読替科目:教養演習BⅡ) 神原 ゆうこ	2学期	3	2	42
		3年			
教養演習BⅡ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習BⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	3	2	43	
	3年				
教養演習BⅡ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BⅡ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	3	2	44	
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ (読替科目:プロジェクト演習Ⅰ) 見館 好隆	1学期	2	2	107	
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ (読替科目:プロジェクト演習Ⅱ) 見館 好隆	2学期	3	2	108	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	44
		1年			
	地球の生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	45
	1年				
	現代人のこころ (読替科目:現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	46
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	私たちと宗教 (読替科目: 私たちと宗教) 佐藤 真人	2学期	1	2	48
		1年			
	思想と現代 (読替科目: 思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	49
		1年			
	ものがたりと人間 閉講		1	2	
		1年			
	文化と表象 (読替科目: 文化と表象) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	50
		1年			
	言語とコミュニケーション (読替科目: 言語とコミュニケーション) 漆原 朗子 他	2学期	1	2	51
		1年			
	文学を読む (読替科目: 文学を読む) 生住 昌大 他	2学期	1	2	52
		1年			
	戦争と人間 閉講		1	2	
		1年			
	現代正義論 (読替科目: 現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	53
		1年			
	民主主義とは何か (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	54
		1年			
	人権論 (読替科目: 人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	55
		1年			
ジェンダー論 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	56	
	1年				
障がい学 (読替科目: 障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	57	
	1年				
共生の作法 (読替科目: 共生の作法) 今泉 恵子 他	1学期	1	2	58	
	1年				
北九州学 (読替科目: 環境都市としての北九州) 日高 京子 他	2学期	1	2	47	
	1年				
企業と社会 (読替科目: 企業と社会) 山下 剛	1学期	1	2	61	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つながりの人間学 (読替科目: サービスラーニング入門I) 石川 敬之	1学期	1	2	106
	1年				
	現代社会と倫理 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	62
	1年				
	現代社会の諸問題 (読替科目: 現代社会と新聞ジャーナリズム) 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	63
	1年				
	現代の国際情勢 (読替科目: 現代の国際情勢) 尹 明憲 他	1学期	1	2	64
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	1
	1年				
	国際紛争と国連 休講	2学期	1	2	
	1年				
	民族・エスニシティ問題 (読替科目: エスニシティと多文化社会) 久木 尚志 他	1学期	1	2	69
	1年				
	開発と統治 (読替科目: 開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	65
	1年				
	グローバル化する経済 (読替科目: グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	66
	1年				
	テロリズム論 (読替科目: テロリズム論) 戸蒔 仁司	2学期	1	2	67
	1年				
国際社会と日本 (読替科目: 国際社会と日本) 阿部 容子 他	2学期	1	2	68	
1年					
歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I) 八百 啓介	1学期	1	2	70	
1年					
歴史の読み方II (読替科目: 歴史の読み方II) 赤司 友徳	1学期	1	2	71	
1年					
そのとき世界は (読替科目: そのとき世界は) 伊野 憲治	2学期	1	2	72	
1年					
戦後の日本経済 (読替科目: 戦後の日本経済) 土井 徹平	2学期	1	2	73	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史		1	2	
	閉講	1年			
	ものとの人間の歴史 (読替科目：ものとの人間の歴史)	1学期	1	2	74
	中野 博文 他	1年			
	人物と時代の歴史 (読替科目：人物と時代の歴史)	1学期	1	2	75
	山崎 勇治 他	1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目：情報社会への招待)	2学期	1	2	18
	中尾 泰士	1年			
	データ処理 (読替科目：データ処理)	1学期	1	2	109
	廣渡 栄寿	群			
	データ処理 (読替科目：データ処理)	2学期	1	2	110
	佐藤 貴之	1学期未修得者再履			
	情報表現	1学期	2	2	
	休講	2年			
	情報表現 (読替科目：情報表現)	2学期	2	2	111
	中尾 泰士	2年			
	情報表現 (読替科目：情報表現)	2学期	2	2	112
	棚次 奎介	2年			
	情報表現 (読替科目：情報表現)	2学期	2	2	113
	浅羽 修丈	2年			
プログラミング基礎	2学期	2	2		
閉講	2年				
■外国語教育科目	英語I (群 1-A) (読替科目：英語I (律政群 1-A))	1学期	1	1	114
	下條 かおり	群 1 - A			
	英語I (群 1-B) (読替科目：英語I (律政群 1-B))	1学期	1	1	115
	葛西 宏信	群 1 - B			
	英語I (群 1-C) (読替科目：英語I (律政群 1-C))	1学期	1	1	116
	永末 康介	群 1 - C			
	英語I (群 1-D) (読替科目：英語I (律政群 1-D))	1学期	1	1	117
	吉田 禎子	群 1 - D			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語I (群 1-E) (読替科目 : 英語I (律政群 1-E)) 安丸 雅子	1学期	1	1	118
		群 1 - E			
	英語I (群 1-F) (読替科目 : 英語I (律政群 1-F)) 船方 浩子	1学期	1	1	119
		群 1 - F			
	英語I (律政群 1-G) (読替科目 : 英語I (律政群 1-G)) 酒井 秀子	1学期	1	1	120
		律政群 1 - G			
	英語I (律政群 1-I) (読替科目 : 英語I (律政群 1-I)) 木梨 安子	1学期	1	1	121
		律政群 1 - I			
	英語II (群 1-A) (読替科目 : 英語II (律政群 1-A)) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	122
		群 1 - A			
	英語II (群 1-B) (読替科目 : 英語II (律政群 1-B)) 永末 康介	2学期	1	1	123
		群 1 - B			
	英語II (群 1-C) (読替科目 : 英語II (律政群 1-C)) 葛西 宏信	2学期	1	1	124
		群 1 - C			
	英語II (群 1-D) (読替科目 : 英語II (律政群 1-D)) 吉田 禎子	2学期	1	1	125
		群 1 - D			
	英語II (群 1-E) (読替科目 : 英語II (律政群 1-E)) 安丸 雅子	2学期	1	1	126
		群 1 - E			
	英語II (群 1-F) (読替科目 : 英語II (律政群 1-F)) 下條 かおり	2学期	1	1	127
		群 1 - F			
英語II (律政群 1-G) (読替科目 : 英語II (律政群 1-G)) 酒井 秀子	2学期	1	1	128	
	律政群 1 - G				
英語II (律政群 1-I) (読替科目 : 英語II (律政群 1-I)) 木梨 安子	2学期	1	1	129	
	律政群 1 - I				
英語III (群 1-A) (読替科目 : 英語III (律政群 1-A)) デール・ステイール	1学期	1	1	130	
	群 1 - A				
英語III (群 1-B) (読替科目 : 英語III (律政群 1-B)) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	131	
	群 1 - B				
英語III (群 1-C) (読替科目 : 英語III (律政群 1-C)) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	132	
	群 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語III (群 1-D) (読替科目 : 英語III (律政群 1-D)) ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	133
		群 1 - D			
	英語III (群 1-E) (読替科目 : 英語III (律政群 1-E)) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	134
		群 1 - E			
	英語III (群 1-F) (読替科目 : 英語III (律政群 1-F)) マイケル・バーグ	1学期	1	1	135
		群 1 - F			
	英語III (律政群 1-G) (読替科目 : 英語III (律政群 1-G)) デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	136
		律政群 1 - G			
	英語III (律政群 1-I) (読替科目 : 英語III (律政群 1-I)) 伊藤 晃	1学期	1	1	137
		律政群 1 - I			
	英語IV (群 1-A) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-A)) デール・ステイール	2学期	1	1	138
		群 1 - A			
	英語IV (群 1-B) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-B)) ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	1	139
		群 1 - B			
	英語IV (群 1-C) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-C)) ロバート・マーフィ	2学期	1	1	140
		群 1 - C			
	英語IV (群 1-D) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-D)) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	141
		群 1 - D			
	英語IV (群 1-E) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-E)) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	142
		群 1 - E			
英語IV (群 1-F) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-F)) シェーン・ドイル	2学期	1	1	143	
	群 1 - F				
英語IV (律政群 1-G) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-G)) デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	144	
	律政群 1 - G				
英語IV (律政群 1-I) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-I)) 伊藤 晃	2学期	1	1	145	
	律政群 1 - I				
英語V (群 2-A) (読替科目 : 英語V (律政群 2-A)) ダニー・ミン	1学期	2	1	146	
	群 2 - A				
英語V (群 2-B) (読替科目 : 英語V (律政群 2-B)) 村田 希巳子	1学期	2	1	147	
	群 2 - B				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語V (群 2 - C) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - C)) 酒井 秀子	1学期	2	1	148	
			群 2 - C			
	英語V (群 2 - D) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - D)) 吉田 禎子	1学期	2	1	149	
			群 2 - D			
	英語V (群 2 - E) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - E)) 漆原 朗子	1学期	2	1	150	
			群 2 - E			
	英語V (群 2 - F) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - F)) 安丸 雅子	1学期	2	1	151	
			群 2 - F			
	英語V (律政群 2 - G) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - G)) 木梨 安子	1学期	2	1	152	
			律政群 2 - G			
	英語V (律政群 2 - I) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - I)) 大塚 由美子	1学期	2	1	153	
			律政群 2 - I			
	英語VI (群 2 - A) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - A)) 薬師寺 元子	2学期	2	1	154	
			群 2 - A			
	英語VI (群 2 - B) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - B)) 村田 希巳子	2学期	2	1	155	
			群 2 - B			
	英語VI (群 2 - C) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - C)) 酒井 秀子	2学期	2	1	156	
			群 2 - C			
	英語VI (群 2 - D) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - D)) 吉田 禎子	2学期	2	1	157	
		群 2 - D				
英語VI (群 2 - E) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - E)) 漆原 朗子	2学期	2	1	158		
		群 2 - E				
英語VI (群 2 - F) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - F)) 安丸 雅子	2学期	2	1	159		
		群 2 - F				
英語VI (律政群 2 - G) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - G)) 木梨 安子	2学期	2	1	160		
		律政群 2 - G				
英語VI (律政群 2 - I) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - I)) 大塚 由美子	2学期	2	1	161		
		律政群 2 - I				
英語VII (群 2 - A) (読替科目 : 英語VII (律政群 2 - A)) シェーン・ドイル	1学期	2	1	162		
		群 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VII (群 2-B) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-B)) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	163
		群 2 - B			
	英語VII (群 2-C) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-C)) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	164
		群 2 - C			
	英語VII (群 2-D) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-D)) ジャマール・ミラー	1学期	2	1	165
		群 2 - D			
	英語VII (群 2-E) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-E)) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	166
		群 2 - E			
	英語VII (群 2-F) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-F)) アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	167
		群 2 - F			
	英語VII (律政群 2-G) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-G)) マーニー・セイディ	1学期	2	1	168
		律政群 2 - G			
	英語VII (律政群 2-I) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-I)) 薬師寺 元子	1学期	2	1	169
		律政群 2 - I			
	英語VIII (群 2-A) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-A)) シェーン・ドイル	2学期	2	1	170
		群 2 - A			
	英語VIII (群 2-B) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-B)) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	171
		群 2 - B			
	英語VIII (群 2-C) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-C)) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	172
		群 2 - C			
英語VIII (群 2-D) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-D)) ジャマール・ミラー	2学期	2	1	173	
	群 2 - D				
英語VIII (群 2-E) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-E)) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	174	
	群 2 - E				
英語VIII (群 2-F) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-F)) アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	175	
	群 2 - F				
英語VIII (律政群 2-G) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-G)) マーニー・セイディ	2学期	2	1	176	
	律政群 2 - G				
英語VIII (律政群 2-I) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-I)) 薬師寺 元子	2学期	2	1	177	
	律政群 2 - I				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	中国語I (読替科目：中国語I) 有働 彰子	1学期	1	1	178
		済営人律政群 1年			
	中国語II (読替科目：中国語II) 有働 彰子	2学期	1	1	179
		済営人律政群 1年			
	中国語III (読替科目：中国語III) ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	180
		済営人律政群 1年			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	181
		済営人律政群 1年			
	中国語V (読替科目：中国語V) 有働 彰子	1学期	2	1	182
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI (読替科目：中国語VI) 有働 彰子	2学期	2	1	183
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII (読替科目：中国語VII) 張 瑾	1学期	2	1	184
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII (読替科目：中国語VIII) 張 瑾	2学期	2	1	185
		英済営人律政群 2年			
	朝鮮語I (読替科目：朝鮮語I) 金 貞淑	1学期	1	1	186
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II (読替科目：朝鮮語II) 金 貞淑	2学期	1	1	187
		済営律政群 1年			
朝鮮語III (読替科目：朝鮮語III) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	188	
	済営律政群 1年				
朝鮮語IV (読替科目：朝鮮語IV) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	189	
	済営律政群 1年				
朝鮮語V (読替科目：朝鮮語V) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	190	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VI (読替科目：朝鮮語VI) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	191	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VII (読替科目：朝鮮語VII) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	192	
	済営比人律政群 2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	朝鮮語VIII (読替科目：朝鮮語VIII) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	193
	済営比人律政群 2年				
■専門基幹科目	地域学入門 夜のみ開講科目	1学期	1	2	
	1年				
	コミュニテイ論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	1	2	
	1年				
	市民活動概論 西田 心平	2学期	1	2	2
	1年				
	キャリア学概論 (読替科目：キャリア学概論) 見館 好隆	2学期	1	2	195
	1年				
	市民活動実践論 閉講	1学期	2	2	
	2年				
	北九州社会論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
	2年				
	地域文化論 (読替科目：地域文化論) 廣川 祐司	1学期	2	2	196
	2年				
	危機管理論 (読替科目：危機管理論) 戸蒔 仁司	2学期	2	2	333
	2年				
	キャリア形成論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2	
	2年				
	システム活用 (読替科目：システムマネジメント) 廣渡 栄寿	2学期	2	2	194
	2年				
まちづくり計画 (読替科目：都市計画の基礎) 片岡 寛之	2学期	2	2	334	
2年					
地域創生実習I (コミュニテイ) (読替科目：地域創生実習I (コミュニテイ)) 坂本 毅啓 他	1・2学期 (ペア)	2	2	197	
2年					
地域創生実習I (コミュニテイ) (読替科目：地域創生実習II (コミュニテイ)) 坂本 毅啓 他	1・2学期 (ペア)	2	2	209	
2年					
地域創生実習I (学び支援) (読替科目：地域創生実習I (学び支援)) 廣渡 栄寿	1・2学期 (ペア)	2	2	198	
2年					

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生実習I (学び支援) (読替科目: 地域創生実習II (学び支援)) 廣渡 栄寿	1・2学期 (ペア)	2	2	210
		2年			
	地域創生実習I (広報) (読替科目: 地域創生実習I (広報)) 眞鍋 和博	1・2学期 (ペア)	2	2	199
		2年			
	地域創生実習I (広報) (読替科目: 地域創生実習II (広報)) 眞鍋 和博	1・2学期 (ペア)	2	2	211
		2年			
	地域創生実習I (小倉) (読替科目: 地域創生実習I (小倉)) 片岡 寛之	1・2学期 (ペア)	2	2	200
		2年			
	地域創生実習I (小倉) (読替科目: 地域創生実習II (小倉)) 片岡 寛之	1・2学期 (ペア)	2	2	212
		2年			
	地域創生実習I (門司) (読替科目: 地域創生実習I (門司)) 西田 心平	1・2学期 (ペア)	2	2	201
		2年			
	地域創生実習I (門司) (読替科目: 地域創生実習II (門司)) 西田 心平	1・2学期 (ペア)	2	2	213
		2年			
	地域創生実習I (猪倉) (読替科目: 地域創生実習I (猪倉)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	202
		2年			
	地域創生実習I (猪倉) (読替科目: 地域創生実習II (猪倉)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	214
		2年			
地域創生実習I (まちあるき) (読替科目: 地域創生実習I (まちあるき)) 小林 敏樹	1・2学期 (ペア)	2	2	203	
	2年				
地域創生実習I (まちあるき) (読替科目: 地域創生実習II (まちあるき)) 小林 敏樹	1・2学期 (ペア)	2	2	215	
	2年				
地域創生実習I (421Lab.) (読替科目: 地域創生実習I (421Lab.)) 石川 敬之	1・2学期 (ペア)	2	2	204	
	2年				
地域創生実習I (421Lab.) (読替科目: 地域創生実習II (421Lab.)) 石川 敬之	1・2学期 (ペア)	2	2	216	
	2年				
地域創生実習I (モビリティ) (読替科目: 地域創生実習I (モビリティ)) 内田 晃	1・2学期 (ペア)	2	2	205	
	2年				
地域創生実習I (モビリティ) (読替科目: 地域創生実習II (モビリティ)) 内田 晃	1・2学期 (ペア)	2	2	217	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生実習I (ガーベラ) (読替科目: 地域創生実習I (ガーベラ)) 真鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	206
		2年			
	地域創生実習I (ガーベラ) (読替科目: 地域創生実習II (ガーベラ)) 真鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	218
		2年			
	地域創生実習I (キタプロ) (読替科目: 地域創生実習I (キタプロ)) 真鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	207
		2年			
	地域創生実習I (キタプロ) (読替科目: 地域創生実習II (キタプロ)) 真鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	219
		2年			
	地域創生実習I (食) (読替科目: 地域創生実習I (食)) 真鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	208
		2年			
	地域創生実習I (食) (読替科目: 地域創生実習II (食)) 真鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	2	2	220
		2年			
	地域創生実習II (コミュニテイ) (読替科目: 地域創生実習III (コミュニテイ)) 坂本 毅啓 他	1・2学期 (ペア)	3	2	221
		3年			
	地域創生実習II (コミュニテイ) (読替科目: 地域創生実習IV (コミュニテイ)) 坂本 毅啓 他	1・2学期 (ペア)	3	2	233
		3年			
	地域創生実習II (学び支援) (読替科目: 地域創生実習III (学び支援)) 廣渡 栄寿	1・2学期 (ペア)	3	2	222
		3年			
	地域創生実習II (学び支援) (読替科目: 地域創生実習IV (学び支援)) 廣渡 栄寿	1・2学期 (ペア)	3	2	234
		3年			
地域創生実習II (広報) (読替科目: 地域創生実習III (広報)) 真鍋 和博	1・2学期 (ペア)	3	2	223	
	3年				
地域創生実習II (広報) (読替科目: 地域創生実習IV (広報)) 真鍋 和博	1・2学期 (ペア)	3	2	235	
	3年				
地域創生実習II (小倉) (読替科目: 地域創生実習III (小倉)) 片岡 寛之	1・2学期 (ペア)	3	2	224	
	3年				
地域創生実習II (小倉) (読替科目: 地域創生実習IV (小倉)) 片岡 寛之	1・2学期 (ペア)	3	2	236	
	3年				
地域創生実習II (門司) (読替科目: 地域創生実習III (門司)) 西田 心平	1・2学期 (ペア)	3	2	225	
	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生実習II (門司) (読替科目 : 地域創生実習IV (門司)) 西田 心平	1・2学期 (ペア)	3	2	237
		3年			
	地域創生実習II (猪倉) (読替科目 : 地域創生実習III (猪倉)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	226
		3年			
	地域創生実習II (猪倉) (読替科目 : 地域創生実習IV (猪倉)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	238
		3年			
	地域創生実習II (まちあるき) (読替科目 : 地域創生実習III (まちあるき)) 小林 敏樹	1・2学期 (ペア)	3	2	227
		3年			
	地域創生実習II (まちあるき) (読替科目 : 地域創生実習IV (まちあるき)) 小林 敏樹	1・2学期 (ペア)	3	2	239
		3年			
	地域創生実習II (421Lab.) (読替科目 : 地域創生実習III (421Lab.)) 石川 敬之	1・2学期 (ペア)	3	2	228
		3年			
	地域創生実習II (421Lab.) (読替科目 : 地域創生実習IV (421Lab.)) 石川 敬之	1・2学期 (ペア)	3	2	240
		3年			
	地域創生実習II (モビリティ) (読替科目 : 地域創生実習III (モビリティ)) 内田 晃	1・2学期 (ペア)	3	2	229
		3年			
地域創生実習II (モビリティ) (読替科目 : 地域創生実習IV (モビリティ)) 内田 晃	1・2学期 (ペア)	3	2	241	
	3年				
地域創生実習II (ガーベラ) (読替科目 : 地域創生実習III (ガーベラ)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	230	
	3年				
地域創生実習II (ガーベラ) (読替科目 : 地域創生実習IV (ガーベラ)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	242	
	3年				
地域創生実習II (キタプロ) (読替科目 : 地域創生実習III (キタプロ)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	231	
	3年				
地域創生実習II (キタプロ) (読替科目 : 地域創生実習IV (キタプロ)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	243	
	3年				
地域創生実習II (食) (読替科目 : 地域創生実習III (食)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	232	
	3年				
地域創生実習II (食) (読替科目 : 地域創生実習IV (食)) 眞鍋 和博 他	1・2学期 (ペア)	3	2	244	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	スポーツボランティア実習I (読替科目: スポーツ・ボランティア実習I) 徳永 政夫 他	1・2学期(ペア)	2	2	245
		2年			
	スポーツボランティア実習I (読替科目: スポーツ・ボランティア実習II) 徳永 政夫 他	1・2学期(ペア)	2	2	246
		2年			
	スポーツボランティア実習II (読替科目: スポーツ・ボランティア実習III) 徳永 政夫 他	1・2学期(ペア)	3	2	247
		3年			
	スポーツボランティア実習II (読替科目: スポーツ・ボランティア実習IV) 徳永 政夫 他	1・2学期(ペア)	3	2	248
		3年			
	障害者スポーツ実習I (読替科目: 障害者スポーツ実習I) 山本 浩二	1・2学期(ペア)	2	2	249
		2年			
	障害者スポーツ実習I (読替科目: 障害者スポーツ実習II) 山本 浩二	1・2学期(ペア)	2	2	250
		2年			
	障害者スポーツ実習II (読替科目: 障害者スポーツ実習III) 山本 浩二	1・2学期(ペア)	3	2	251
		3年			
	障害者スポーツ実習II (読替科目: 障害者スポーツ実習IV) 山本 浩二	1・2学期(ペア)	3	2	252
		3年			
地域創生基礎演習A (読替科目: 地域創生基礎演習A) 真鍋 和博	1学期	1	2	254	
	1年				
地域創生基礎演習B(コミュニティ) (読替科目: 地域創生基礎演習B(コミュニティ)) 坂本 毅啓 他	2学期	1	2	255	
	1年				
地域創生基礎演習B(学び支援) (読替科目: 地域創生基礎演習B(学び支援)) 廣渡 栄寿	2学期	1	2	256	
	1年				
地域創生基礎演習B(広報) (読替科目: 地域創生基礎演習B(広報)) 真鍋 和博	2学期	1	2	257	
	1年				
地域創生基礎演習B(小倉) (読替科目: 地域創生基礎演習B(小倉)) 片岡 寛之	2学期	1	2	258	
	1年				
地域創生基礎演習B(門司) (読替科目: 地域創生基礎演習B(門司)) 西田 心平	2学期	1	2	259	
	1年				
地域創生基礎演習B(猪倉) (読替科目: 地域創生基礎演習B(猪倉)) 真鍋 和博 他	2学期	1	2	260	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生基礎演習B (まちあるき) (読替科目：地域創生基礎演習B (まちあるき)) 小林 敏樹	2学期	1	2	261
		1年			
	地域創生基礎演習B (421Lab.) (読替科目：地域創生基礎演習B (421Lab.)) 石川 敬之	2学期	1	2	262
		1年			
	地域創生基礎演習B (読替科目：地域創生基礎演習B) 徳永 政夫	2学期	1	2	263
		1年			
	地域創生基礎演習B (読替科目：地域創生基礎演習B) 山本 浩二	2学期	1	2	264
		1年			
	地域創生基礎演習B (モビリティ) (読替科目：地域創生基礎演習B (モビリティ)) 内田 晃	2学期	1	2	265
		1年			
	地域創生基礎演習B (ガーベラ) (読替科目：地域創生基礎演習B (ガーベラ)) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	266
		1年			
	地域創生基礎演習B (キタブロ) (読替科目：地域創生基礎演習B (キタブロ)) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	267
		1年			
	地域創生基礎演習B (食) (読替科目：地域創生基礎演習B (食)) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	268
	1年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 寺田 千栄子	1学期	2	2	269	
	2年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 廣渡 栄寿	1学期	2	2	270	
	2年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 佐藤 貴之	1学期	2	2	271	
	2年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 片岡 寛之	1学期	2	2	272	
	2年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 西田 心平	1学期	2	2	273	
	2年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 廣川 祐司	1学期	2	2	274	
	2年				
地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 石川 敬之	1学期	2	2	275	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 徳永 政夫	1学期	2	2	276
		2年			
	地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 山本 浩二	1学期	2	2	277
		2年			
	地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 眞鍋 和博	1学期	2	2	278
		2年			
	地域創生基礎演習C (読替科目：地域創生基礎演習C) 内田 晃	1学期	2	2	279
		2年			
	地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 寺田 千栄子	2学期	2	2	280
		2年			
	地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 廣渡 栄寿	2学期	2	2	281
		2年			
	地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 佐藤 貴之	2学期	2	2	282
		2年			
	地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 片岡 寛之	2学期	2	2	283
		2年			
	地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 西田 心平	2学期	2	2	284
		2年			
	地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 廣川 祐司	2学期	2	2	285
		2年			
地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 石川 敬之	2学期	2	2	286	
	2年				
地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 徳永 政夫	2学期	2	2	287	
	2年				
地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 山本 浩二	2学期	2	2	288	
	2年				
地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 眞鍋 和博	2学期	2	2	289	
	2年				
地域創生基礎演習D (読替科目：地域創生基礎演習D) 内田 晃	2学期	2	2	290	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	相談援助演習 1 夜のみ開講科目	1学期	2	2	
	2年				
	相談援助演習 2 夜のみ開講科目	2学期	2	2	
	2年				
	相談援助演習 3 夜のみ開講科目	1学期	3	2	
	3年				
	相談援助演習 4 夜のみ開講科目	2学期	3	2	
	3年				
	相談援助演習 5 夜のみ開講科目	1学期	4	2	
	4年				
	相談援助実習 (読替科目：相談援助実習) 坂本 毅啓 他	集中	3	6	253
	3年				
	相談援助実習指導 1 夜のみ開講科目	1学期 (ベア)	3	2	
	3年				
	相談援助実習指導 2 夜のみ開講科目	2学期	3	1	
	3年				
	地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 廣渡 栄寿	1学期	3	2	291
	3年				
	地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 佐藤 貴之	1学期	3	2	292
	3年				
地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 石川 敬之	1学期	3	2	293	
3年					
地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 徳永 政夫	1学期	3	2	294	
3年					
地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 山本 浩二	1学期	3	2	295	
3年					
地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 寺田 千栄子	1学期	3	2	296	
3年					
地域創生演習 A (読替科目：地域創生演習 A) 片岡 寛之	1学期	3	2	297	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門基幹科目	地域創生演習A (読替科目：地域創生演習A) 西田 心平	1学期	3	2	298
		3年			
	地域創生演習A (読替科目：地域創生演習A) 廣川 祐司	1学期	3	2	299
		3年			
	地域創生演習A (読替科目：地域創生演習A) 眞鍋 和博	1学期	3	2	300
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 廣渡 栄寿	2学期	3	2	301
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 佐藤 貴之	2学期	3	2	302
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 石川 敬之	2学期	3	2	303
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 徳永 政夫	2学期	3	2	304
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 山本 浩二	2学期	3	2	305
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 寺田 千栄子	2学期	3	2	306
		3年			
	地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 片岡 寛之	2学期	3	2	307
		3年			
地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 西田 心平	2学期	3	2	308	
	3年				
地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 廣川 祐司	2学期	3	2	309	
	3年				
地域創生演習B (読替科目：地域創生演習B) 眞鍋 和博	2学期	3	2	310	
	3年				
地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 廣渡 栄寿	1学期	4	2	311	
	4年				
地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 佐藤 貴之	1学期	4	2	312	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 徳永 政夫	1学期	4	2	313
		4年			
	地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 山本 浩二	1学期	4	2	314
		4年			
	地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 片岡 寛之	1学期	4	2	315
		4年			
	地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 西田 心平	1学期	4	2	316
		4年			
	地域創生演習C (読替科目：地域創生演習C) 廣川 祐司	1学期	4	2	317
		4年			
	地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 廣渡 栄寿	2学期	4	2	318
		4年			
	地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 佐藤 貴之	2学期	4	2	319
		4年			
	地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 徳永 政夫	2学期	4	2	320
		4年			
	地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 山本 浩二	2学期	4	2	321
		4年			
地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 片岡 寛之	2学期	4	2	322	
	4年				
地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 西田 心平	2学期	4	2	323	
	4年				
地域創生演習D (読替科目：地域創生演習D) 廣川 祐司	2学期	4	2	324	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 廣渡 栄寿	1・2学期(ペア)	4	4	325	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 佐藤 貴之	1・2学期(ペア)	4	4	326	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 徳永 政夫	1・2学期(ペア)	4	4	327	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 山本 浩二	1・2学期(ペア)	4	4	328
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 片岡 寛之	1・2学期(ペア)	4	4	329
		4年			
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 西田 心平	1・2学期(ペア)	4	4	330	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告) 廣川 祐司	1・2学期(ペア)	4	4	331	
	4年				
■専門科目	地域コーディネート論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	地域調査論 夜のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	NPO論 (読替科目：NPO論) 楢原 真二 他	1学期	1	2	351
		1年			
	政治過程論 (読替科目：政治過程論) 秦 正樹	2学期	1	2	352
		1年			
	公共政策論 (読替科目：公共政策論) 楢原 真二	1学期	2	2	354
		2年			
	地方自治論 (読替科目：地方自治論) 森 裕亮	1学期	2	2	355
		2年			
	政策過程論 (読替科目：政策過程論) 申 東愛	1学期	2	2	356
		2年			
	公共経営論 (読替科目：公共経営論) 狭間 直樹	2学期	2	2	360
		2年			
都市経営論 (読替科目：都市経営論) 田代 洋久	2学期	2	2	361	
	2年				
都市経済論 (読替科目：都市経済論) 田代 洋久	2学期	2	2	358	
	2年				
福祉政策論 (読替科目：福祉政策論) 狭間 直樹	1学期	2	2	357	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	都市環境論 (読替科目：都市環境論) 三宅 博之	1学期	2	2	359
	2年				
	景観まちづくり論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
	2年				
	福祉環境デザイン論 (読替科目：福祉環境デザイン論) 内田 晃	2学期	2	2	332
	2年				
	まちづくり実践論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	3	2	
	3年				
	ものづくりマネジメント論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
	2年				
	法学総論 (読替科目：法学総論) 山口 亮介	1学期	1	2	335
	1年				
	日本国憲法原論 (読替科目：日本国憲法原論) 中村 英樹	1学期	1	2	336
	1年				
	憲法人権論 (読替科目：憲法人権論) 石塚 壮太郎	2学期	1	2	337
	1年				
	民法総則 (読替科目：民法総則) 小野 憲昭	1学期(ペア)	1	4	338
	1年				
	民法概論I 夜のみ開講科目	1学期	2	2	
2年					
民法概論II 夜のみ開講科目	2学期	2	2		
2年					
社会法総論 (読替科目：社会法総論) 津田 小百合	2学期	2	2	341	
2年					
刑法犯罪論 (読替科目：刑法犯罪論) 土井 和重	2学期(ペア)	2	4	343	
2年					
刑法犯罪各論I (読替科目：刑法犯罪各論I) 大杉 一之	1学期	3	2	344	
3年					
刑法犯罪各論II (読替科目：刑法犯罪各論II) 大杉 一之	2学期	3	2	345	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門科目	法と犯罪I 閉講	1学期	3	2	3年	
	法と犯罪II 閉講	2学期	3	2	3年	
	憲法機構論 石塚 壮太郎	1学期	2	2	2年	3
	行政法総論 (読替科目：行政法総論) 福重 さと子	1学期 (ヘア)	2	4	2年	342
	行政争訟法 (読替科目：行政争訟法) 近藤 卓也	2学期	3	2	3年	349
	物権法 (読替科目：物権法) 福本 忍	2学期	2	2	2年	340
	家族法 (読替科目：親族法) 小野 憲昭	1学期	2	2	2年	339
	会社法I 夜のみ開講科目	1学期	3	2	3年	
	会社法II 夜のみ開講科目	2学期	3	2	3年	
	企業取引法I (読替科目：企業取引法I) 今泉 恵子	2学期	3	2	3年	346
企業取引法II (読替科目：企業取引法II) 前越 俊之	2学期	3	2	3年	347	
知的財産法 (読替科目：知的財産法) 木村 友久	1学期	3	2	3年	348	
情報公開・個人情報保護法 (読替科目：情報公開・個人情報保護法) 岡本 博志	2学期	3	2	3年	350	
現代日本経済入門A (読替科目：現代日本経済入門A) 近江 貴治	1学期	1	2	1年	366	
現代日本経済入門B (読替科目：現代日本経済入門B) 前田 淳	2学期	1	2	1年	367	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	経済学入門 A (読替科目：経済学入門 A) 牛房 義明	1学期	1	2	362
		1年			
	経済学入門 A (読替科目：経済学入門 A) 藤井 敦	1学期	1	2	363
		1年			
	経済学入門 B (読替科目：経済学入門 B) 後藤 尚久	1学期	1	2	364
		1年			
	経済学入門 B (読替科目：経済学入門 B) 前林 紀孝	1学期	1	2	365
		1年			
	マネジメント論基礎 (読替科目：マネジメント論基礎) 浦野 恭平	2学期	1	2	372
		1年			
	企業論基礎 (読替科目：企業論基礎) 松本 守	2学期	1	2	373
		1年			
	簿記論 I (読替科目：簿記論 I) 白石 和孝	1学期	1	2	374
		1年			
	簿記論 I (読替科目：簿記論 I) 岡部 勝成	1学期	1	2	375
		1年			
簿記論 II (読替科目：簿記論 II) 白石 和孝	2学期	1	2	376	
	1年				
簿記論 II (読替科目：簿記論 II) 岡部 勝成	2学期	1	2	377	
	1年				
統計学 I 林田 実	2学期	1	2	4	
	1年				
統計学 II 林田 実	1学期	1	2	5	
	1年				
数学 (読替科目：数学) 吉田 祐治	1学期	1	2	378	
	1年				
経営統計 (読替科目：経営統計) 吉田 祐治	2学期	1	2	379	
	1年				
地域経済 I (読替科目：地域経済 I) 佐藤 裕哉	1学期	2	2	368	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域経済II (読替科目：地域経済II) 田村 大樹	2学期	2	2	369
		2年			
	金融論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際経済論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	国際経済論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	経営戦略 (読替科目：経営戦略論) 浦野 恭平	2学期	2	2	386
		2年			
	産業組織論I 川崎 晃央	1学期	2	2	6
		2年			
	産業組織論II 川崎 晃央	2学期	2	2	7
		2年			
	財政学I (読替科目：財政学I) 前林 紀孝	1学期	3	2	370
		3年			
	財政学II (読替科目：財政学II) 前林 紀孝	2学期	3	2	371
		3年			
人事管理論 (読替科目：人的資源管理論) 福井 直人	1学期	2	2	390	
	2年				
生産マネジメントA 鳥取部 真己	1学期	3	2	8	
	3年				
生産マネジメントB 棚次 奎介	2学期	3	2	9	
	3年				
情報マネジメントA (読替科目：情報経営) 泉 英明	1学期	3	2	395	
	3年				
情報マネジメントB 休講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目	中小企業論 (読替科目：中小企業論) 別府 俊行	1学期	3	2	391
		3年			
	環境経済学 休講	2学期	3	2	
		3年			
	コンピュータシステム (読替科目：コンピュータシステム) 武藤 直彦	1学期	1	2	383
		1年			
	財務会計論I (読替科目：財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	384
		2年			
	財務会計論II (読替科目：財務会計論II) 西澤 健次	2学期	2	2	385
		2年			
	プログラミングI (読替科目：プログラミングI) 武藤 直彦	2学期	1	2	381
		1年			
	プログラミングII (新JAVA) (読替科目：プログラミングII (新JAVA)) 西山 宏	1学期	2	2	382
		2年			
	データ構造 (読替科目：データ構造) 隈本 覚	2学期	2	2	387
		2年			
	データ解析 (読替科目：企業データ分析) 齋藤 朗宏	1学期	2	2	392
		2年			
	データベース (読替科目：データベース) 池田 欽一	2学期	2	2	388
		2年			
システムデザイン (読替科目：情報デザイン) 佐藤 貴之	集中	2	2	380	
	2年				
情報管理 (読替科目：Webプログラミング) 池田 欽一	2学期	3	2	389	
	3年				
システム設計I (読替科目：システム分析) 江藤 宏	1学期	3	2	396	
	3年				
システム設計II (読替科目：システム設計) 平山 克己	2学期	3	2	397	
	3年				
情報ネットワーク (読替科目：情報ネットワーク) 隈本 覚	1学期	3	2	394	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門科目	オペレーションズ・リサーチ (読替科目：オペレーションズ・マネジメント) 齋藤 朗宏	1学期	3	2	393
	3年				
	現代社会と福祉 1 (読替科目：現代社会と福祉 1) 河嶋 静代	1学期	1	2	398
	1年				
	現代社会と福祉 2 (読替科目：現代社会と福祉 2) 小賀 久	2学期	1	2	399
	1年				
	福祉国家論 (読替科目：福祉国家論) 狭間 直樹	2学期	1	2	353
	1年				
	地域福祉の理論と方法 1 (読替科目：地域福祉の理論と方法 1) 深谷 裕	1学期	2	2	403
	2年				
	地域福祉の理論と方法 2 (読替科目：地域福祉の理論と方法 2) 岡本 政孝	1学期	2	2	404
	2年				
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度 1) 石塚 優	1学期	2	2	406
	2年				
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度 2) 石塚 優	2学期	2	2	407
	2年				
	児童福祉論 閉講	1学期	2	2	
	2年				
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 (読替科目：児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度) 河嶋 静代	1学期	2	2	405
2年					
障害者福祉論 閉講	2学期	2	2		
2年					
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度) 小賀 久	1学期	2	2	408	
2年					
相談援助の基盤と専門職 1 (読替科目：相談援助の基盤と専門職 1) 坂本 毅啓	1学期	1	2	400	
1年					
相談援助の基盤と専門職 2 (読替科目：相談援助の基盤と専門職 2) 深谷 裕	2学期	1	2	401	
1年					
介護概論 1 閉講	1学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門科目	介護概論 2	2学期	3	2	413
	閉講	3年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 (読替科目：低所得者に対する支援と生活保護制度)	2学期	2	2	413
	大西 清文	2年			
	保健医療サービス (読替科目：保健医療サービス)	2学期	2	2	415
	石塚 優	2年			
	権利擁護と成年後見制度 (読替科目：権利擁護と成年後見制度)	1学期	2	2	418
	小賀 久	2年			
	心理学概論 (読替科目：心理学概論)	2学期	1	2	419
	田中 信利 他	1年			
	観光社会学 (読替科目：観光社会学)	集中	1	2	428
	須藤 廣	1年			
	発達心理学 (読替科目：発達心理学)	1学期	2	2	420
	税田 慶昭	2年			
	老年心理学 (読替科目：老年心理学)	2学期	2	2	421
	石塚 優	2年			
	教育心理学 (読替科目：教育心理学)	2学期	2	2	422
	下地 貴樹	2年			
	スポーツ心理学 (読替科目：スポーツ心理学)	1学期	2	2	433
山崎 将幸	2年				
対人心理学 (読替科目：対人心理学)	1学期	3	2	423	
田島 司	3年				
カウンセリング論 (読替科目：カウンセリング論)	2学期	3	2	425	
田中 信利	3年				
コミュニケーション論 (読替科目：コミュニケーション論)	1学期	3	2	427	
森永 今日子	3年				
臨床心理学 (読替科目：臨床心理学)	1学期	3	2	424	
田中 信利	3年				
心理療法論 (読替科目：心理療法論)	2学期	3	2	426	
中島 俊介	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門科目	リハビリテーション論	1学期	3	2	
	夜のみ開講科目	3年			
	人体の構造と機能及び疾病 (読替科目:人体の構造と機能及び疾病)	1学期	2	2	414
	小野 二六一	2年			
	医学一般2	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	ボランティア活動論 (読替科目:ボランティア活動論)	1学期	1	2	429
	西田 心平	1年			
	ボランティア活動実践論	1学期	2	2	
	閉講	2年			
	ボランティア活動運営論	1学期	3	2	10
	西田 心平	3年			
	スポーツ指導論 (読替科目:スポーツ指導論)	1学期	1	2	430
	徳永 政夫	1年			
	障害者スポーツ指導論 (読替科目:障害者スポーツ指導論)	1学期	1	2	431
	小手川 郁人	1年			
	スポーツ・ボランティア指導論 (読替科目:スポーツ・ボランティア指導論)	2学期	1	2	432
	徳永 政夫	1年			
	スポーツ・ボランティア各論 (読替科目:スポーツ・ボランティア各論)	1学期	2	2	434
	下釜 純子	2年			
コミュニティスポーツ論	2学期	2	2		
休講 昼夜交互開講科目	2年				
障害者スポーツ各論 (読替科目:障害者スポーツ各論)	1学期	2	2	435	
小手川 郁人	2年				
身体適応論 (読替科目:身体適応論)	1学期	3	2	436	
高西 敏正	3年				
身体スポーツ論 (読替科目:身体スポーツ論)	2学期	3	2	437	
加倉井 美智子	3年				
トレーニング論 (読替科目:トレーニング論)	1学期	3	2	439	
梨羽 茂	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	健康科学 (読替科目：健康科学) 高西 敏正	2学期	3	2	438
	3年				
	社会調査の基礎 (読替科目：社会調査の基礎) 阪井 俊文	1学期	2	2	402
	2年				
	相談援助の理論と方法 1 (読替科目：相談援助の理論と方法 1) 河嶋 静代	1学期	2	2	409
	2年				
	相談援助の理論と方法 2 (読替科目：相談援助の理論と方法 2) 工藤 歩	2学期	2	2	410
	2年				
	相談援助の理論と方法 3 (読替科目：相談援助の理論と方法 3) 藤田 博久	1学期	2	2	411
	2年				
	福祉行財政と福祉計画 (読替科目：福祉行財政と福祉計画) 難波 利光	1学期	2	2	416
	2年				
	福祉サービスの組織と経営 (読替科目：福祉サービスの組織と経営) 中園 紀明	2学期	2	2	417
	2年				
社会保障 (読替科目：社会保障) 坂本 毅啓	1学期	2	2	412	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ことばの科学 (読替科目:ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	440
		1年			
国際学入門 (読替科目:国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	441	
	1年				
生活世界の哲学 (読替科目:生活世界の哲学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	442	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目:メンタル・ヘルスI) 寺田 千栄子	1学期	1	2	457
		1年			
	メンタル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 山本 浩二	2学期	1	2	458
		1年			
	社会調査 (読替科目:社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	449
		1年			
フィジカル・エクササイズI(バドミントン) (読替科目:フィジカル・エクササイズI(バドミントン)) 徳永 政夫	1学期	1	1	459	
	1年				
フィジカル・エクササイズII(バドミントン) 休講	2学期	1	1		
	1年				
■テーマ科目	地球の生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	444
		1年			
	現代人のこころ 休講	1学期	1	2	
	1年				
思想と現代 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	445	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文学を読む	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か (読替科目: 民主主義とは何か)	1学期	1	2	446
	中道 壽一	1年			
	人権論 (読替科目: 人権論)	1学期	1	2	447
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論 (読替科目: ジェンダー論)	1学期	1	2	448
	力武 由美	1年			
	障がい学	2学期	1	2	
	休講	1年			
	企業と社会 (読替科目: 企業と社会)	1学期	1	2	450
	山下 剛	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢 (読替科目: 現代の国際情勢)	1学期	1	2	451
	尹 明憲 他	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	
	休講	1年			
国際紛争と国連 (読替科目: 国際紛争と国連)	2学期	1	2	453	
二宮 正人	1年				
開発と統治 (読替科目: 開発と統治)	2学期	1	2	452	
三宅 博之 他	1年				
グローバル化する経済	1学期	1	2		
休講	1年				
国際社会と日本	2学期	1	2		
休講	1年				
歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I)	1学期	1	2	454	
赤司 友徳	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II 休講	1学期	1	2	455
	1年				
	そのとき世界は (読替科目: そのとき世界は) 伊野 憲治	2学期	1	2	456
	1年				
人物と時代の歴史 (読替科目: 人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	456	
1年					
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目: 情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	443
	1年				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 廣渡 栄寿	1学期	1	2	460
	群				
	データ処理 (読替科目: データ処理) 浅羽 修丈	2学期	1	2	461
1学期未修得者再履					
情報表現 (読替科目: 情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	462	
2年					
■外国語教育科目	ビジネス英語I (群1年) (読替科目: ビジネス英語I (群1年)) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	463
	群1年				
	ビジネス英語II (群1年) (読替科目: ビジネス英語II (群1年)) ダニー・ミン	2学期	1	1	464
	群1年				
ビジネス英語III (群2年) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	11	
群2年					
ビジネス英語IV (群2年) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	12	
群2年					
■専門基幹科目	地域学入門 (読替科目: 地域学入門) 真鍋 和博 他	1学期	1	2	465
	1年				
	コミュニテイ論 (読替科目: コミュニテイ論) 石塚 優	1学期	1	2	466
	1年				
市民活動概論 西田 心平	2学期	1	2	13	
1年					
キャリア学概論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	市民活動実践論 閉講	1学期	2	2	468
		2年			
	北九州社会論 (読替科目 : 北九州社会論) 神山 和久	2学期	2	2	468
		2年			
	地域文化論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2	468
		2年			
	危機管理論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	468
		2年			
	キャリア形成論 (読替科目 : キャリア形成論) 真鍋 和博	1学期	2	2	467
		2年			
	システム活用 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	467
		2年			
	まちづくり計画 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	467
		2年			
	地域創生実習I 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	2	2	467
		2年			
	地域創生実習II 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	3	2	467
		3年			
	スポーツボランティア実習I 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	2	2	467
		2年			
スポーツボランティア実習II 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	3	2	467	
	3年				
障害者スポーツ実習I 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	2	2	467	
	2年				
障害者スポーツ実習II 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	3	2	467	
	3年				
地域創生基礎演習 A 昼のみ開講科目	1学期	1	2	467	
	1年				
地域創生基礎演習 B 昼のみ開講科目	2学期	1	2	467	
	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 C	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	相談援助演習 3 (読替科目：相談援助演習 3)	1学期	3	2	476
	深谷 裕	3年			
	相談援助演習 4 (読替科目：相談援助演習 4)	2学期	3	2	477
	深谷 裕	3年			
	相談援助演習 5 (読替科目：相談援助演習 5)	1学期	4	2	478
	深谷 裕	4年			
	相談援助実習指導 1 (読替科目：相談援助実習指導 1)	1学期 (ペア)	3	2	474
	坂本 毅啓	3年			
	相談援助実習指導 2 (読替科目：相談援助実習指導 2)	2学期	3	1	475
	坂本 毅啓	3年			
	地域創生演習 A (夜間特別枠) (読替科目：地域創生演習 A (夜間特別枠))	1学期	3	2	469
	小林 敏樹	3年			
	地域創生演習 B (夜間特別枠) (読替科目：地域創生演習 B (夜間特別枠))	2学期	3	2	470
	小林 敏樹	3年			
	地域創生演習 C (夜間特別枠) (読替科目：地域創生演習 C (夜間特別枠))	1学期	4	2	471
	小林 敏樹	4年			
地域創生演習 D (夜間特別枠) (読替科目：地域創生演習 D (夜間特別枠))	2学期	4	2	472	
小林 敏樹	4年				
地域創生演習 D (読替科目：地域創生演習 D)	2学期	4	2	473	
深谷 裕	4年				
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告)	1・2学期 (ペア)	4	4	479	
小林 敏樹	4年				
卒業論文・卒業実践報告 (読替科目：卒業論文・卒業実践報告)	1・2学期 (ペア)	4	4	480	
深谷 裕	4年				
■専門科目	地域コーディネート論 (読替科目：地域コーディネート論)	2学期	1	2	481
	西田 心平	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域調査論 (読替科目：地域調査論) 小林 敏樹	1学期	2	2	482
		2年			
	NPO論 (読替科目：NPO論) 榎原 真二 他	1学期	1	2	492
		1年			
	政治過程論 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	公共政策論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地方自治論 (読替科目：地方自治論) 森 裕亮	1学期	2	2	493
		2年			
	政策過程論 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	公共経営論 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	都市経営論 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	都市経済論 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	福祉政策論 (読替科目：福祉政策論) 狭間 直樹	1学期	2	2	494
		2年			
都市環境論 休講	1学期	2	2		
	2年				
景観まちづくり論 (読替科目：景観まちづくり論) 片岡 寛之	2学期	2	2	483	
	2年				
福祉環境デザイン論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2		
	2年				
まちづくり実践論 (読替科目：まちづくり実践論) 南 博	1学期	3	2	485	
	3年				
ものづくりマネジメント論 (読替科目：ものづくりマネジメント論) 吉村 英俊	2学期	2	2	484	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	法学総論 (読替科目：法学総論) 山口 亮介	1学期	1	2	486
		1年			
	日本国憲法原論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	憲法人権論 (読替科目：憲法人権論) 中村 英樹	2学期	1	2	487
		1年			
	民法総則 昼のみ開講科目	1学期(ペア)	1	4	
		1年			
	民法概論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	民法概論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	社会法総論 (読替科目：社会法総論) 石田 信平	2学期	2	2	488
		2年			
	刑法犯罪論 昼のみ開講科目	2学期(ペア)	2	4	
		2年			
	刑法犯罪各論I 昼のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	刑法犯罪各論II 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
法と犯罪I 閉講	1学期	3	2		
	3年				
法と犯罪II 閉講	2学期	3	2		
	3年				
憲法機構論 昼のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				
行政法総論 (読替科目：行政法総論) 近藤 卓也	1学期(ペア)	2	4	489	
	2年				
行政争訟法 昼のみ開講科目	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	物権法	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	家族法	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	会社法I (読替科目：会社法I)	1学期	3	2	490
	高橋 衛	3年			
	会社法II (読替科目：会社法II)	2学期	3	2	491
	高橋 衛	3年			
	企業取引法I	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	企業取引法II	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	知的財産法	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	現代日本経済入門A	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代日本経済入門B	2学期	1	2	
	休講	1年			
経済学入門A (読替科目：経済学入門A)	1学期	1	2	495	
魏 芳	1年				
経済学入門B (読替科目：経済学入門B)	1学期	1	2	496	
畔津 憲司	1年				
マネジメント論基礎 (読替科目：マネジメント論基礎)	2学期	1	2	501	
遠藤 雄二	1年				
企業論基礎 (読替科目：企業論基礎)	2学期	1	2	502	
中間 信博	1年				
簿記論I (読替科目：簿記論I)	1学期	1	2	503	
池口 慶一	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	簿記論II	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	統計学I	2学期	1	2	14
	林田 実	1年			
	統計学II	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	数学	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	経営統計	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	地域経済I (読替科目：地域経済I)	1学期	2	2	499
	佐藤 裕哉	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	金融論I (読替科目：金融論I)	1学期	2	2	497
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	国際経済論I (読替科目：国際経済論I)	1学期	2	2	498
	末永 勝昭	2年			
国際経済論II	2学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				
経営戦略	2学期	2	2		
休講	2年				
産業組織論I	1学期	2	2		
休講	2年				
産業組織論II	2学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				
財政学I	1学期	3	2		
休講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	財政学II	2学期	3	2	505
	昼のみ開講科目	3年			
	人事管理論 (読替科目：人的資源管理論)	1学期	2	2	505
	福井 直人	2年			
	生産マネジメントA	1学期	3	2	505
	昼のみ開講科目	3年			
	生産マネジメントB	2学期	3	2	505
	昼のみ開講科目	3年			
	情報マネジメントA	1学期	3	2	505
	昼のみ開講科目	3年			
	情報マネジメントB	2学期	3	2	505
	昼のみ開講科目	3年			
	中小企業論 (読替科目：中小企業論)	1学期	3	2	506
	別府 俊行	3年			
	環境経済学 (読替科目：環境経済学)	2学期	3	2	500
	牛房 義明	3年			
	コンピュータシステム (読替科目：コンピュータシステム)	1学期	1	2	504
	泉 英明	1年			
	財務会計論I	1学期	2	2	504
	休講	2年			
財務会計論II	2学期	2	2	504	
昼のみ開講科目	2年				
プログラミングI	2学期	1	2	504	
昼のみ開講科目	1年				
プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	504	
昼のみ開講科目	2年				
データ構造	2学期	2	2	504	
昼のみ開講科目	2年				
データ解析	1学期	2	2	504	
昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	データベース	2学期	2	2	
	休講	2年			
	システムデザイン	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	情報管理	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	システム設計I (読替科目：システム分析)	1学期	3	2	507
	江藤 宏	3年			
	システム設計II	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	
	休講	3年			
	オペレーションズ・リサーチ	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	現代社会と福祉 1 (読替科目：現代社会と福祉 1)	1学期	1	2	508
	河嶋 静代	1年			
	現代社会と福祉 2 (読替科目：現代社会と福祉 2)	2学期	1	2	509
	坂本 毅啓	1年			
	福祉国家論	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
地域福祉の理論と方法 1 (読替科目：地域福祉の理論と方法 1)	1学期	2	2	513	
深谷 裕	2年				
地域福祉の理論と方法 2	2学期	2	2		
休講	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2		
休講	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2		
休講	2年				
児童福祉論	1学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	
	休講	2年			
	障害者福祉論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度)	1学期	2	2	514
	高崎 陽子	2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 (読替科目：相談援助の基盤と専門職 1)	1学期	1	2	510
	坂本 毅啓	1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 (読替科目：相談援助の基盤と専門職 2)	2学期	1	2	511
	深谷 裕	1年			
	介護概論 1	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	介護概論 2	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 (読替科目：低所得者に対する支援と生活保護制度)	2学期	2	2	518
	柴田 滋	2年			
	保健医療サービス	1学期	2	2	
	休講	2年			
	権利擁護と成年後見制度 (読替科目：権利擁護と成年後見制度)	1学期	2	2	522
	小鉢 由美	2年			
心理学概論	2学期	1	2		
休講	1年				
観光社会学	2学期	1	2		
休講	1年				
発達心理学 (読替科目：発達心理学)	1学期	2	2	523	
税田 慶昭	2年				
老年心理学	2学期	2	2		
休講	2年				
教育心理学	2学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専門科目	スポーツ心理学	1学期	2	2		
	昼のみ開講科目	2年				
	対人心理学	1学期	3	2		
	休講	3年				
	カウンセリング論	2学期	3	2		
	休講	3年				
	コミュニケーション論	1学期	3	2		
	休講	3年				
	臨床心理学 (読替科目：臨床心理学)	田中 信利	1学期	3	2	524
			3年			
	心理療法論 (読替科目：心理療法論)	寺田 千栄子	2学期	3	2	525
			3年			
	リハビリテーション論 (読替科目：リハビリテーション論)	山本 浩二	1学期	3	2	526
			3年			
	人体の構造と機能及び疾病 (読替科目：人体の構造と機能及び疾病)	島 京子	1学期	2	2	519
			2年			
	医学一般2	閉講	2学期	3	2	
			3年			
	ボランティア活動論	昼のみ開講科目	1学期	1	2	
			1年			
ボランティア活動実践論	閉講	1学期	2	2		
		2年				
ボランティア活動運営論	昼のみ開講科目	1学期	3	2		
		3年				
スポーツ指導論	昼のみ開講科目	1学期	1	2		
		1年				
障害者スポーツ指導論	昼のみ開講科目	2学期	1	2		
		1年				
スポーツ・ボランティア指導論	昼のみ開講科目	2学期	1	2		
		1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	スポーツ・ボランティア各論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	コミュニテイスports論 (読替科目:コミュニテイスports論)	2学期	2	2	527
	山本 浩二	2年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	身体適応論 (読替科目:身体適応論)	1学期	3	2	528
	高西 敏正	3年			
	身体スポーツ論	2学期	3	2	
	休講	3年			
	トレーニング論 (読替科目:トレーニング論)	1学期	3	2	529
	梨羽 茂	3年			
	健康科学	2学期	3	2	
	休講	3年			
	社会調査の基礎 (読替科目:社会調査の基礎)	1学期	2	2	512
	阪井 俊文	2年			
	相談援助の理論と方法1 (読替科目:相談援助の理論と方法1)	2学期	2	2	515
	高崎 陽子	2年			
	相談援助の理論と方法2 (読替科目:相談援助の理論と方法2)	2学期	2	2	516
	工藤 歩	2年			
相談援助の理論と方法3	1学期	2	2		
休講	2年				
福祉行財政と福祉計画 (読替科目:福祉行財政と福祉計画)	1学期	2	2	520	
難波 利光	2年				
福祉サービスの組織と経営 (読替科目:福祉サービスの組織と経営)	2学期	2	2	521	
中園 紀明	2年				
社会保障 (読替科目:社会保障)	2学期	2	2	517	
坂本 毅啓	2年				

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

市民活動概論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、国家の統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）について大枠を定めている。

この講義のねらいは、次の3つである。

- ①統治の基本原則（国民主権や権力分立など）、
- ②国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③国家機関相互の関係や、全体の構造を把握すること。

また、現実の政治動向や海外の情勢などへの関心も喚起するような内容とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。
 詳しくは、初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 野中俊彦ほか著『憲法（第5版）』（有斐閣、2012年）
- 安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 -国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会① -立法権と国会
- 第5回 国会② -国会の組織と活動
- 第6回 国会③ -国会および議院の権能
- 第7回 国会④ -国会議員の権能
- 第8回 内閣① -行政権と内閣
- 第9回 内閣② -内閣の組織と権能
- 第10回 内閣③ -議院内閣制
- 第11回 国法の諸形式
- 第12回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第13回 裁判所② -裁判を受ける権利
- 第14回 地方自治と財政
- 第15回 象徴天皇制

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジュメの予習・復習、教科書等の該当箇所を読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。
 事前に「学習支援フォルダ」にレジュメをアップすることがあるので、各自印刷して持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 地方自治

統計学I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題
- 15 統計的推定と検定のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、演習をしておくこと。

事後学習：SASプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実 (2013) 『サイコロを振って、統計学!』 創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔 (2011) 『コア・テキスト 統計学』 新世社
 鍋谷清治、丸山文行、河田敬義 『大学演習数理統計』 裳華房 (本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、t変数
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変数の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、演習をしておくこと。
 事後学習：SASプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description
 産業組織論を学ぶうえで必要な最低限のミクロ経済学の理論及びゲーム理論を確認したうえで、産業組織論で用いられる基本的な理論モデルについて解説する。

教科書 /Textbooks
 『経営の経済学』（第3版） 丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション・産業組織論とは
- 第2回：需要の特性1（価格効果，弾力性）
- 第3回：需要の特性2（消費の外部性）
- 第4回：費用の基礎概念
- 第5回：規模の経済・範囲の経済・経験の経済
- 第6回：独占の基礎理論
- 第7回：独占の応用理論
- 第8回：ゲーム理論1（同時手番ゲーム）
- 第9回：ゲーム理論2（逐次手番ゲーム）
- 第10回：寡占と競争1（クールノー競争）
- 第11回：寡占と競争2（ベルトラン競争）
- 第12回：寡占と競争3（垂直的製品差別化モデル）
- 第13回：寡占と競争4（水平的製品差別化モデル）
- 第14回：寡占と競争5（一般的な製品差別化モデル）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
 復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直しておくこと

履修上の注意 /Remarks
 ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。
 講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

産業組織論の基本的なツールを用いて、様々な応用問題についてのモデルの紹介、並びにモデル分析について解説を行う。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版） 丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション・基本モデルの復習
- 第2回：競争戦略の分類
- 第3回：価格戦略1（価格差別）
- 第4回：価格戦略2（二部料金制）
- 第5回：製品戦略1（バンドリング）
- 第6回：製品戦略2（垂直的製品差別化）
- 第7回：製品戦略3（水平的製品差別化）
- 第8回：流通と販売促進1（流通のコントロール）
- 第9回：流通と販売促進2（二重マージン）
- 第10回：流通と販売促進3（流通サービスの調整）
- 第11回：流通と販売促進4（小売店舗数の調整）
- 第12回：プラットフォーム1（基礎概念）
- 第13回：プラットフォーム2（ツーサイド・プライシング）
- 第14回：プラットフォーム3（プラットフォームの選択）
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
- 復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直ししておくこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメントA 【昼】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

本講義では、現在の製造業の戦略とものづくりマネジメント、そしてそれにいたる歴史を概略的に学び、その理解のうえでグローバル化のなかでの日本のものづくりの課題を展望します。

本講義の受講を通じて、生産マネジメント分野への関心を高め、生産マネジメントにおける基礎知識と基礎的な分析力を習得し、サービス業を含めた企業のオペレーション上の問題解決を行う基礎的な能力を身につけることを狙いとします。

教科書 /Textbooks

必要に応じてレジュメ等を配布する予定です。事前・事後学習のために、参考書を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤本隆宏・中沢 孝夫 『グローバル化と日本のものづくり』放送大学教育振興会,2011.
- 嶋口充輝・黒岩健一郎・内田和成 『1からの戦略論』碩学社,2009.
- 藤本隆宏 『生産マネジメント入門(1)生産システム編』日本経済新聞社,2001.
- 藤本隆宏 『生産マネジメント入門(2)生産資源・技術管理編』日本経済新聞社,2001.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【生産マネジメント】
- 2回 生産方式の歴史的発展(1) 【産業革命】 【科学的管理法】
- 3回 生産方式の歴史的発展(2) 【フォード方式】 【ベルトコンベアー】
- 4回 生産方式の歴史的発展(3) 【モダンタイムス】 【人間関係論】
- 5回 戦略と生産(1) 【コストリーダーシップ】 【差異化】 【集中】
- 6回 戦略と生産(2) 【市場シェア】 【リーダー】 【ニッチャー】
- 7回 戦略と生産(3) 【機械化】 【オートメーション化】
- 8回 戦略と生産(4) 【トヨタ生産方式】 【JIT】 【リーン生産方式】
- 9回 生産活動のグローバル化(1) 【グローバル化】 【海外生産】
- 10回 生産活動のグローバル化(2) 【グローバル人材】
- 11回 新たな生産方式 【屋台生産方式】 【セル生産方式】
- 12回 サービス業と生産マネジメント(1) 【IE】 【ロジスティクス】 【カイゼン】
- 13回 サービス業と生産マネジメント(2) 【3M】 【5現主義】
- 14回 生産と人材(1) 【ブルーカラー】 【派遣・請負】
- 15回 生産と人材(2) 【熟練】 【OJT】 【Off-JT】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予定されている講義内容に対して、参考図書を用いて事前学習を行ってください。また、講義内容で理解が進まなかった点についても、参考図書の該当部分を用いて事後学習を行ってください。講義中に紹介した関連事項について、経営戦略や組織論など経営学関連科目について、さらに発展的な事後学習を行うことで、本講義への理解がさらに深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

経営工学は、日本では生産分野を中心に展開されてきたが、経営への適用にも注目して、その対象範囲の広がりを理解する。経営工学の代表的手法を概説した上で、実際の問題の最適解法を、演習課題を通して論理的に身につける。

教科書 /Textbooks

毎回電子ファイルを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○秋庭雅夫他「経営工学概論」朝倉書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【生産・資源・マネジメント】
- 2回 競争と協調における思考法 【システム】【目標】
- 3回 意思決定と最適化 【様々な状況に応じた意思決定の在り方と最適化手法】
- 4回 ゲーム理論(1) 【目標達成のための純粋戦略】
- 5回 ゲーム理論(2) 【目標達成のための混合戦略】
- 6回 生産計画(1) 【線形計画問題の定式化】
- 7回 生産計画(2) 【解法としてのシンプレックス法】
- 8回 生産計画(3) 【応用問題を考える】
- 9回 生産計画(4) 【動的計画法とその適用】
- 10回 工程管理(1) 【ネットワーク図】【臨界パス】
- 11回 工程管理(2) 【不確定な工期】【工期短縮】
- 12回 在庫管理(1) 【需要が確定している場合の管理法】
- 13回 在庫管理(2) 【需要が不確定な場合の管理法】
- 14回 損益分岐点分析 【変動費】【固定費】【限界利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況：20% 課題：60% 小テスト：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として、授業数日前に授業内容を提供する。事前に読んでおくと理解が進む。授業時に考えてもらう課題についても、多くの場合翌週提出となるので、授業時間外を積極的に活用して課題に取り組み、納得の上、次の授業に出席することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

情報教室を利用する。電子ファイルの提供と提出を行うのでUSBメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数式を多用します。できるだけ丁寧に説明しますが、数学の心得があると確実に理解は進みます。

キーワード /Keywords

論理的思考、最適化

ボランティア活動運営論【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動運営の現状と概念を整理・確認し、地域社会での位置づけや活動の意義について考えます。ボランティア活動を狭義ではなく、広義に捉えたNPO(公益団体)として課題を定義することにより、組織運営の課題を理解・分析するとともに、地域・社会における生活の質を高める多様な課題(子育て支援・対策、高齢者支援・対策、雇用対策、環境保全・対策、新エネルギー・省エネルギー促進方策、商店街活性化対策、自治会加入促進対策等)の解決に結びつくことを考えてみたいと思います。地域・社会の多様な課題の解決に向きあうには組織の自立した持続的な運営と、代表者としての取り組み姿勢・資質が不可欠であり、その要素の実現に必要な条件について考えます。住みよい地域・社会の実現には、ボランティア活動を慈善的な活動から発展的な発想により、持続的な自立したボランティア活動へと成長し、継続的に地域・社会と関わることで、人の意識変革を促し、人間力を高め、地域力を高める必要があります。さらに、組織運営における発想の拡大により、地域・社会の課題を解決する新しい社会ビジネス手法「コミュニティビジネス(市民事業)」「ソーシャルビジネス(社会起業)」の概要を理解することにより、生活の質を高めることを目的とする公共サービスの担い手としての社会的意義について考えてみたいと思います。

この講義での到達目標の具体的な内容は以下の通りです。

- ① ボランティア活動の全体理解を得て、社会での位置づけや意義を学ぶと共に、組織運営の課題を分析する。
- ② ボランティア活動・NPO・NPO法人の社会的な役割を理解し、組織運営の違いを理解する。
- ③ 地域・社会の課題を分析することにより、ボランティア活動に求められる社会的な意義を理解する。
- ④ 人間力・地域力を高める目的を担う、コミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)の概論を理解し、地域・社会との関係性を考察することにより、社会性と経済性との調和による新しい地域・社会環境をイメージする。
- ⑤ 新しい生活支援サービス形態と称される「公共サービス」としての関係性を理解する。
- ⑥ 対話授業を取り入れることにより、授業での主体性を高め、協調性を基本とする「ボランティア活動に取り組む姿勢」を高める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ボランティア活動の現状理解と、社会的な意義
- 2回 ボランティア活動とNPO(任意団体)・NPO法人の概念整理
- 3回 ボランティア活動とNPO(任意団体)の組織運営の課題分析
- 4回 特定非営利活動法人(NPO法人)の組織運営の課題分析
- 5回 ボランティア活動の自立化によるコミュニティビジネス(市民事業)への成長
- 6回 地域・社会の課題発見 その1
- 7回 地域・社会の課題発見 その2
- 8回 人間力(教育的影響)の現状理解と課題分析
- 9回 地域力(社会的影響)の現状理解と課題分析
- 10回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その1
- 11回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その2
- 12回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その1
- 13回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その2
- 14回 地域での雇用創出を目的とする、ソーシャルビジネス(社会起業)概要の理解
- 15回 ボランティア活動からコミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)への発展的可能性と、地域・社会からの期待(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(80%)、授業レポート(5%)、対話討議を含む授業での積極性(15%)を評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

ボランティア活動運営論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席することが前提である。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. 身近なボランティア活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語Ⅲ (群 2 年) 【夜】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
			○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語Ⅳ(群2年)【夜】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (ビジネス英語Ⅲ). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動概論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				○	○	○	○					

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題1
- 15 推定と検定に関する標準問題2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、演習をしておくこと。
 事後学習：SASプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 7回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。しかし、授業中に指示した資料に目を通し、以下の参考文献を含め関連する文献は、図書館などを活用して、各人の興味にあわせて読んでおくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者（または代替課題の未提出者）、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もあります。ただし、自分で情報を集め、吟味する能力は問われます。講義で自分が学んだことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとする意識が大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生、および「異文化理解の基礎」（昨年度開講、本年度開講なし）を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体の哲学
- 3回 日本的身体のイメージ
- 4回 古代ギリシャの身体観1【プラトン】
- 5回 古代ギリシャの身体観2【ソポクレス】
- 6回 古代ギリシャの身体観3【通時的概観】
- 7回 キリスト的共同体の身体
- 8回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 9回 身体・家族・社会1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会3【シユレーパー症例】
- 12回 身体・家族・社会4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)安全性と有効性
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)野外炊飯
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)テント設営
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50 %
議論への参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (オリエンテーション)
- 第2回：北九州市の観光について
- 第3回：北九州市の歴史・文化1 門司
- 第4回：北九州市の歴史・文化2 小倉
- 第5回：北九州市の歴史・文化3 若戸
- 第6回：北九州市の歴史・文化4 八幡
- 第7回：北九州市と文学
- 第8回：北九州の観光素材1 世界遺産・近代化遺産
- 第9回：北九州の観光素材2 産業観光・工場夜景
- 第10回：北九州の観光素材3 北九州フィルムコミッション
- 第11回：企業と観光
- 第12回：観光案内ボランティア1
- 第13回：観光案内ボランティア2
- 第14回：観光案内ボランティア3
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：40%
- ・ 理解度確認テスト：30%
- ・ レポート：30%

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に各回の詳細テーマを提示しますので、事前にテーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光資源や制度、取組みについて復習し、考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

キーワード /Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

レポートの書き方と入門：

本演習では、「調べ物をしてレポートの書く」ということがよくわからない学生（主として1年生）向けに、レポートの書き方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、比較的最近出版されたとなった文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、論点の見つけ方、関連資料の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

演習で用いるテキストは第1回目の出席者の興味関心にあわせて、第1回目の演習で決定します。候補は次の2冊です。

『風評被害』（関谷直也・光文社新書）

『民族とネイション』（塩川伸明・岩波新書）

たとえば、欧州難民問題やヨーロッパ社会の右傾化は、日本でも報道されます。これらについて知りたいと思ったとき、単に情報を調べるだけという段階から一歩進むため、問題を理解するための土台として、報道によって作られるイメージの問題（前者）やそもそも民族やナショナリズムとは何か（後者）という議論を扱いたいと思います。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか（編）2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会

○専修大学出版企画委員会（編）2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

○白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは？今学期のテキストについての相談
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本をどう活用するのか？
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマのを見つけかた
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 レポート最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部 of 学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・毎年この演習は1学期に開講していましたが、今年度は2学期開講で、レポートの書き方に特化したものとします。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード /Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ行き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
- 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告内容50%
- 議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意 /Remarks

伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIを履修済みであることが望ましい。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

国籍・国境について考える：

本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べるのが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれませんが、どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『<群島>の歴史社会学』石原俊著・弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第3回 映像からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 最終レポート報告会

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成・ 関連文献の読書・ レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業でテキストなどを決定するので、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ(教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ)を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養演習 A I 復習。
- 第3回：教養演習 A I 復習。
- 第4回：視聴およびディスカッション。
- 第5回：視聴およびディスカッション。
- 第6回：視聴およびディスカッション。
- 第7回：視聴およびディスカッション。
- 第8回：視聴およびディスカッション。
- 第9回：視聴およびディスカッション。
- 第10回：視聴およびディスカッション。
- 第11回：視聴およびディスカッション。
- 第12回：視聴およびディスカッション。
- 第13回：視聴およびディスカッション。
- 第14回：視聴およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回 ~ 14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

国籍・国境について考える：

本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べるのが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれませんが、どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
(候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『<群島>の歴史社会学』石原俊著・弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
- 第3回 映像からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 最終レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成・ 関連文献の読書・ レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業でテキストなどを決定するので第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) A I、A II、B I履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地球の生いたち
			GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方 【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1 【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2 【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回目：生きている地球3 【プレートテクトニクスとプルームテクトニクス】
- 5回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球地球史を記録する地層と化石1 【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球地球史を記録する地層と化石2 【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
- 8回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
- 9回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
- 10, 11回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
 - 10回目：カンブリア爆発の特徴と原因
 - 11回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
- 12回目：繰り返す大量絶滅1 【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
- 13回目：繰り返す大量絶滅2 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
- 14回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
- 15回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に關係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき關係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス、グループ分け
2. 心理学とは NHK大心理学実験 研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有 GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル (アサーション、説得的コミュニケーション)
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】

※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作上げるものです。詳細は講義中に説明します。

※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合(講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等)による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

グループ課題(レポートおよびポスター)作成のために必要。

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。

主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。

主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2016年改訂版 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 7回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 8回 施設見学・環境ミュージアム
- 9回 小テスト(日高)
- 10回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 11回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 施設見学・エコタウン
- 14回 環境問題に関するシンポジウム(外部講師)
- 15回 環境問題と学生の取り組み(421Lab・村江)

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。

- ・環境ミュージアム見学は11月23日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は各自で見学すること。
- ・環境首都検定は12月3日（日）
- ・エコタウン（バスツアー）は12月27日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。

* 授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、北九州市

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
- 末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
- 末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 6回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 7回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 8回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拜・本覚思想）
- 9回 神道について1（日本の神と祭り）
- 10回 神道について2（神道の成立）
- 11回 神道について3（神仏習合の教説）
- 12回 神道について3（神仏習合の諸相）
- 13回 日本宗教の特色1（神道と仏教の共存）
- 14回 日本宗教の特色2（神仏隔離と近代の神仏分離）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 30%

私たちと宗教【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を自分で読んでいくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトルの哲学】
- 6回 実存の思想(5)【サルトルの文学】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 実存の思想(7)【補足】
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【フロイト以後】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
		文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
			言語とコミュニケーション LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(漆原)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(漆原)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 (予定)外部講師による特別講義
- 第11回 認知発達とコミュニケーション(松田)
- 第12回 ヒューマンエラーとアフォーダンス(松田)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(漆原)

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 2学期 /Semester 授業形態 講義 /Class Format クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む
			LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度の「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文学理論の歴史概観(畑中佳恵)
- 第3回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」(畑中佳恵)
- 第4回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」(畑中佳恵)
- 第5回 イギリス文学への誘い(木原謙一)
- 第6回 イギリス文学のメッセージ性・まとめ(木原謙一)
- 第7回 日本上代文学への誘い(藤崎祐二)
- 第8回 日本上代文学のメッセージ性(藤崎祐二)
- 第9回 まとめ(藤崎祐二)
- 第10回 日本近世文学への誘い(村上義明)
- 第11回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ(村上義明)
- 第12回 日本現代詩への誘い(稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ(稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い(河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習(作品を読む、作者について調べる、など)と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /1 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題（生命倫理と法）]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

現代正義論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・グローバル化と民主主義
- 第2回 「デモス」と「クラティア」について
- 第3回 二つの民主主義伝統について
- 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
- 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
- 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入り替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor カ武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ボトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する(特に提出する必要はない)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という概念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
 そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
 すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
 そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
 そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 法と道徳について
- 第 3 回 殺人する自由はあるか？一人権保障の限界
- 第 4 回 行政活動と法治主義
- 第 5 回 国際社会と法-国際行政の観点から
- 第 6 回 犯罪とは何か
- 第 7 回 刑罰とは何か
- 第 8 回 性差別と暴力~セクシャル・ ハラスメントとドメスティック・ バイオレンス
- 第 9 回 家族とは何か
- 第10回 担保とは何か
- 第11回 契約とは何か
- 第12回 商取引における不正競争と法
- 第13回 企業形態と法
- 第14回 民事訴訟とは何か
- 第15回 社会保障の必要性と社会保険について考えよう

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がますます深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'17』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回「財・サービスの提供機関」としての企業① 【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
- 第3回「財・サービスの提供機関」としての企業② 【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
- 第4回「株式会社」としての企業① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第5回「株式会社」としての企業② 【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
- 第6回「大企業」としての企業① 【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
- 第7回「大企業」としての企業② 【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
- 第8回2-7回のまとめ
- 第9回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象(1) 【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第10回「家」としての日本企業② 人事における日本企業特有の現象(2) 【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
- 第11回「家」としての日本企業③ 株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第12回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第13回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第14回「社会的器官」としての日本企業 【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 中間テスト・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値（6）【FLO】
- 9回 問題事例の検討（1）【優生学】
- 10回 問題事例の検討（2）【殺人行為】
- 11回 問題事例の検討（3）【まとめ】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【貧困問題】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

授業の概要 /Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやSNSが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う (社会部記者)
- 【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材 (社会部デスク)
- 【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 【第6回】デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (メディアラボ部員)
- 【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える (報道センター記者)
- 【第14回】働く現場とは / (生活特報部デスク)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか (北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」(メディアを読み解く力)ならびに現代社会を解読する力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウェイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 北 現代アメリカ合衆国の社会(1) 【人種】
- 第7回 北 現代アメリカ合衆国の社会(2) 【移民】
- 第8回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第9回 松田 総合商社と海外プロジェクト 【プロジェクトファイナンス、世界銀行】
- 第10回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第11回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第12回 李 日韓関係の展開(1) 【脱植民地化】【脱帝国化】【残された問題】
- 第13回 李 日韓関係の展開(2) 【安全保障】【(脱)冷戦】【朝鮮半島問題】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回)100%

現代の国際情勢【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発券・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第6回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第7回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【こども食堂】	担当：原田・三宅
第8回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【学生】	担当：原田・三宅
第9回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第11回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回	グループワーク(アクティビティ作り) を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【貿易保護政策】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【アベノミクス】【金融市場】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 ビジネスと会計ルールのグローバル化(1)【大企業と財務報告】
- 11回 ビジネスと会計ルールのグローバル化(2)【国際会計基準IFRS】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは学習支援フォルダにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			エスニシティと多文化社会
			IRL001F

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 前近代東アジアの伝統世界
- 3回 日本の近代と国民国家の問題点
- 4回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 5回 新渡戸稲造の『武士道』
- 6回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 7回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 8回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 9回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 10回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 11回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 12回 「国語」とは何か
- 13回 網野善彦と日本史の多様性
- 14回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 赤司 友徳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II HIS005 F

授業の概要 /Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、またボーイスカウト、NHK設立にも貢献した、多彩な経歴を持つ人物である。後藤の卓抜した先見性と行動力、リーダーシップは戦前から現代に至るまで人気があり、高く評価されてきた。本講義では、後藤新平というその卓抜した人物の評伝を通して、日本の近代史についてより深く理解し、歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。また小説に描かれた後藤新平もあわせて読むことで、歴史小説と歴史研究との違いも考察するきっかけとしたい。

教科書 /Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年〔復刻版〕
 - 北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
 - 郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』学陽書房、2013年
- この他は講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 修業時代
- 第3回 愛知県病院長兼医学校長時代
- 第4回 衛生局時代(1)
- 第5回 衛生局時代(2)
- 第6回 台湾民政長官時代
- 第7回 南満州鉄道総裁時代
- 第8回 第2次桂内閣時代
- 第9回 第3次桂内閣時代
- 第10回 寺内正毅内閣時代
- 第11回 第一次世界大戦後の欧米歴訪
- 第12回 東京市長時代
- 第13回 対ヨッフエ交渉
- 第14回 関東大震災と帝都復興
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)と平常点(授業への参加態度、コメント等で20%)で総合的に評価する。

歴史の読み方II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義の前までに、参考文献に挙げた郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』（学陽書房、2013年）の指定された範囲を読んで来るのが望ましい。また授業の中で適宜参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用することが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の世界。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と世界。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1960年代の世界。
- 第10回：1960年代のミャンマー。
- 第11回：1980年代の世界。
- 第12回：1980年代のミャンマー。
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえて本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション - 歴史を学ぶ意義 -
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長期」と文化形成
- 第5回 2. 「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
 - 1. 戦後の人口問題
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口集中 - 農村から都市へ -
- 第9回 4. 「高度経済成長」と北九州
- 第10回 IV. 「幸せ」のモデル化とキャリア形成
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第11回 2. モデルのモデル - テレビを通じた文化の伝播 -
- 第12回 3. 「理想的」家族像の形成
- 第13回 4. 「勤勉性」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第14回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

戦後の日本経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウエイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
 この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks
 授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 はキーワード)
 1回 オリエンテーション
 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
 4回 (講義) ストレッチの理論
 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム (1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム (2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム (3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習(ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習(ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第1位、「主体性」が7年連続で第2位となり、以下、第3位「協調性」、第4位「チャレンジ精神」であり、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

1. コミュニケーション能力
2. 幅広い視野・柔軟性
3. 失敗を恐れない志向性

<進め方と目標>

3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性

- 1回 全体ガイダンス【1】【2】【3】
- 2回 社会で求められる力【1】【2】【3】
- 3回 インターンシップや地域活動(先輩登壇)【1】【2】【3】
- 4回 傾聴【1】
- 5回 アサーション・トレーニング【1】
- 6回 アイデンティティ【1】【2】【3】
- 7回 働くということ(社会人登壇)【1】【2】【3】
- 8回 クリエイティブシンキング【1】【2】【3】
- 9回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】【2】【3】
- 10回 企業団体研究1【1】【2】
- 11回 企業団体研究2【1】【2】
- 12回 計画された偶発性【1】【2】【3】
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】
- 15回 本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート(2回)：12%
最終レポート(相互評価)：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※真鍋和博先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュボトム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2016年度> 株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス(一風堂) / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウェザーニューズ / 旭酒造株式会社(瀬祭)

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会(NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構(JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社(JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社(JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ(山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「サービス・ラーニング」への実際の参加を前提としています。したがって、「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動をしてもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は必須とします。受講にあたっては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って望むことを求めます。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンバスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っ決めてスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】

TOEICの新しい出題形式に対応した学習を通じて、限られた時間の中で最大限のスコアアップを目指します。自然な英語表現を用いたTOEIC LISTENING AND READING TESTに即した問題を解く中で、英語力を伸ばしてもらいたいと思います。

【授業の概要】

TOEIC LISTENING AND READING TESTのスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、教科書の問題に解答します。解答後、講師が解説を行います。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3
北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert 編著 朝日出版社 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

進度は学習者のベースによって変更される可能性があります。

- 第1回 講義概要・ TOEIC テストについて
- 第2回 Unit 1 Eating Out 文法：動詞(1)
- 第3回 Unit 2 Travel 文法：動詞(2)
- 第4回 Unit 3 Amusement 文法：品詞
- 第5回 Unit 4 Meetings 文法：分詞
- 第6回 Unit 5 Personnel 文法：不定詞と動名詞(1)
- 第7回 Unit 6 Shopping 文法：不定詞と動名詞(2)
- 第8回 Unit 7 Advertisement 文法：仮定法
- 第9回 Unit 8 Daily Life 文法：受動態
- 第10回 Unit 9 Office Work 文法：代名詞
- 第11回 Unit 10 Business 文法：数量詞
- 第12回 Unit 11 Traffic 文法：接続詞
- 第13回 Unit 12 Finance and Banking 文法：前置詞
- 第14回 Unit 13 Media 文法：語彙
- 第15回 Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度 10%、小テスト 40%、期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料を復習に利用してください。
教科書の音声は無料でストリーミング配信されていますので、予習・復習に利用してください。

履修上の注意 /Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書（病院の領収書など）を見せてください。
遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。
初回講義時に必ずテキストを買って持ってきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

英語I (律政群 1-B) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文を通して、文法能力・語彙力に加えて特に読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事(1)
- 3回 自分の好きな仕事(2)
- 4回 少子高齢化(1)
- 5回 少子高齢化(2)
- 6回 英語とのつきあい方(1)
- 7回 環境(1)
- 8回 環境(2)
- 9回 オリンピック(1)
- 10回 オリンピック(2)
- 11回 少子高齢化(3)
- 12回 これからの教育(1)
- 13回 これからの教育(2)
- 14回 英語とのつきあい方(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

英語I (律政群 1-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 I
			ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書 /Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」CD付
SEIBIDO ￥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	テキスト、授業の目的、学習法の説明		
2回	Unit 1 Airport 空港	(WH疑問文・基礎)	【フライトの予約】	【旅客のマナー】
3回	Unit 1 Airport	(動詞の形)	【ビジネスEメール】	【フライトの案内表示】
4回	Unit 2 Train Station 鉄道の駅	(WH疑問文・応用)	【道を尋ねる】	【鉄道博物館案内】
5回	Unit 2 Train Station	(準動詞)	【乗客の安全対策】	【ツアーのスケジュール表】
6回	Unit 3 Department Store デパート	(一般動詞)	【客と店員の会話】	【ネット通販】
7回	Unit 3 Department Store	(5文型)	【セールのチラシ】	【デパートのセール案内】
8回	Unit 4 Restaurant	(選択疑問文)	【食生活に関する話】	【料理の歴史の話】
9回	Unit 4 Restaurant	(関係詞と接続詞)	【顧客へのお知らせ】	【レストランのメニュー】
10回	Unit 5 Hotel ホテル	(否定疑問文)	【フロントでの会話】	【ホテルの紹介】
11回	Unit 5 Hotel	(助動詞と仮定法)	【改装のお知らせ】	【ホテルの予約依頼の携帯メール】
12回	Unit 6 Hospital 病院	(付加疑問文)	【予定の変更】	【医師のアドバイス】
13回	Unit 6 Hospital	(前置詞と冠詞)	【外来受付時間変更】	【病院での昇進に関するチャット】
14回	Unit 7 Bank 銀行	(間接疑問文)	【客と行員の会話】	【ネットバンキングI】
15回	Unit 7 Bank	(否定と比較)	【ネットバンキングII】	【新商品の案内】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・50点 小テスト・・40点 日常の授業への取り組み・・10%
最終評価にはTOEICが反映されます。反映方法は、初回の授業時に文書を配布して説明します。

英語I (律政群 1-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語I (律政群 1-E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Stepping Stones for the TOEIC Test” 『TOEICテスト 着実にスコアアップ』
(光富省吾共著) 朝日出版社 ¥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 TOEIC出題形式および傾向と対策
- 3回 Unit 2 Travel & Airports、文法：名詞・代名詞・冠詞
- 4回 Unit 3 Sightseeing & Hotels、文法：形容詞・副詞
- 5回 Unit 4 Dining & Restaurants、文法：時制(1)
- 6回 Unit 5 Sports & Entertainment、文法：時制(2)
- 7回 Unit 6 Fashion & Shopping、文法：助動詞
- 8回 Unit 7 School & Culture、文法：他動詞・自動詞
- 9回 Unit 8 Review Test 1
- 10回 Unit 9 Transportation & Commuting、文法：不定詞・動名詞
- 11回 Unit 10 Family Life & Home、文法：現在分詞・過去分詞・受動態
- 12回 Unit 11 Computers & the Internet、文法：仮定法
- 13回 Unit 12 Offices & Office Supplies、文法：関係詞
- 14回 Unit 13 Jobs & Recruitment、文法：接続詞
- 15回 Unit 14 Business, Accounting & Banking、文法：前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
ただし最終評価にはTOEICを受験したかどうかが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (律政群 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成をはかる。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身に着ける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 1』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニング問題(part 1~ 4)の概要
- 3回 リーディング問題(part 5~ 7)の概要
- 4回 part 1(写真問題), part 5 (短文穴埋め問題)の学習
- 5回 part 2(応答問題), part 5 (短文穴埋め問題)の学習
- 6回 part 3(会話問題), part 5 (短文穴埋め問題)の学習
- 7回 part 4 ()part 5 (説明文問題), part 5 (短文穴埋め問題)の学習
- 8回 リスニングの復習
- 9回 part 5 (短文穴埋め問題)の総復習
- 10回 part 6 (長文穴埋め問題)の学習
- 11回 part 7 (読解問題)の学習：シングルパッセージ
- 12回 part 7 (読解問題)の学習：ダブルパッセージ
- 13回 part 7 (読解問題)の学習：トリプルパッセージ
- 14回 リーディングの復習
- 15回 総復習

英語I (律政群 1-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 40% , 復習テスト 10% , 単語テスト 10% , 日常の授業への取り組み (小テスト , 課題及び宿題を含む) 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます . 反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習...ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので、テキストで学習して授業に臨んでください。単語テストを実施します。
事後学習...授業で指定されたテキストの範囲は、必ず学習しておいてください。復習テストを実施します。

履修上の注意 /Remarks

毎回、単語100語テストを行います。指定の範囲が
テキストの自学の範囲で、不明な点がありましたら、授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・読む」力を、TOEIC テスト用の練習問題を用いて向上させることにある。

TOEICテストは、コミュニケーションの手段として必要不可欠な「文法・語法・語彙・表現内容・発音」などの知識や理解がどのくらい身についているのかその習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、当授業では、TOEICテストの練習問題を通して、中・高で学習した基礎文法の復習からTOEICに用いられる必須単語の語彙力、英語長文の読解力及び聴解力の向上へと英語受信力がバランスよく着実に身につけていくよう学習を進めていく。

授業の流れは、基本的に次の2部構成で行う。1. 基礎文法復習 2. リスニング or リーディング学習(使用テキストのTOEIC問題は、リスニングとリーディングを隔週で学習する。)

教科書 /Textbooks

タイラー・バーデン 他著 『Preparation for the TOEIC Test』 南雲堂
※ 上記のテキストに加え、基礎文法学習用のプリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TOEIC目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
- 第2回 文型&動詞 / Lesson 1
- 第3回 文型&動詞 / Lesson 2
- 第4回 時制 / Lesson 3
- 第5回 時制 / Lesson 4
- 第6回 時制 / Lesson 5
- 第7回 準動詞 / Lesson 6
- 第8回 準動詞 / Lesson 7
- 第9回 準動詞 / Lesson 8
- 第10回 助動詞 / Lesson 9
- 第11回 助動詞 / Lesson 10
- 第12回 関係詞 / Lesson 11
- 第13回 関係詞 / Lesson 12
- 第14回 関係詞 / Lesson 13
- 第15回 Lesson 14 / Lesson 15

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってもらうこと。リスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。リーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語II (律政群 1 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文を通して、文法能力・語彙力に加えて特に読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事(1)
- 3回 自分の好きな仕事(2)
- 4回 少子高齢化(1)
- 5回 少子高齢化(2)
- 6回 英語とのつきあい方(1)
- 7回 環境(1)
- 8回 環境(2)
- 9回 オリンピック(1)
- 10回 オリンピック(2)
- 11回 少子高齢化(3)
- 12回 これからの教育(1)
- 13回 これからの教育(2)
- 14回 英語とのつきあい方(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

英語II (律政群 1-B) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

英語II (律政群 1-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。
なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 II
			ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書 /Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」 CD付
SEIBIDO ￥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション： テキスト、授業の目的、学習法の説明
- 2回 Unit 8 Workplace 職場 肯定文と否定文 【上司と部下の会話】【人事異動の連絡】
- 3回 Unit 8 Workplace 接頭辞共通 【コピー機の契約】【年次会議について】
- 4回 Unit 9 Fitness Club スポーツクラブ 提案への応答 【健康の話題】【健康プログラム】
- 5回 Unit 9 Fitness Club 接尾辞共通 【無料体験登録】【スポーツクラブへの問い合わせ】
- 6回 Unit 10 Sightseeing 観光 依頼への応答 【道を尋ねる】【観光案内】
- 7回 Unit 10 Sightseeing 派生語(複数の品詞) 【観光地の案内】【観光名所について】
- 8回 Unit 11 International Conference 国際会議 勧誘への応答【出張中の出来事】【講演】
- 9回 Unit 11 International Conference 派生語(形容詞) 【講演者の紹介】【国際会議のスケジュール】
- 10回 Unit 12 Computer Society コンピューター 感謝・謝罪への応答 【SNS広告】【スマホ VS ガラケ】
- 11回 Unit 12 Computer Society 類似語 【スマホの虹彩認証】【スマホの機能について】
- 12回 Unit 13 Employment 採用 意外な応答 1 【就活の話題】【就活アドバイス】
- 13回 Unit 13 Employment 同音異義語 【履歴書添状】【求人案内と応募メール】
- 14回 Unit 14 Job Training 研修 以外な応答 2 【新入社員の会話】【研修内容の説明】
- 15回 Unit 14 Job Training 綴りが似ている単語 【e-worker 研修】【社内研修プログラムとメール】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・50点 小テスト・40点 日常の授業への取り組み・10%
最終評価にはTOEICが反映されます。反映方法は初回の授業時に文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行う。

英語II (律政群 1-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 3回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 4回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 5回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 6回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 7回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 12回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 13回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語II (律政群 1-E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】

TOEICの新しい出題形式に対応した学習を通じて、限られた時間の中で最大限のスコアアップを目指します。自然な英語表現を用いたTOEIC LISTENING AND READING TESTに即した問題を解く中で、英語力を伸ばしてもらいたいと思います。

【授業の概要】

TOEIC LISTENING AND READING TESTのスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、教科書の問題に解答します。解答後、講師が解説を行います。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2
北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert 編著 朝日出版社 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

進度は学習者のペースによって変更される可能性があります。

- 第1回 講義概要・ TOEIC テストについて
- 第2回 Unit 1 Eating Out 文法：動詞(1)
- 第3回 Unit 2 Travel 文法：動詞(2)
- 第4回 Unit 3 Amusement 文法：品詞
- 第5回 Unit 4 Meetings 文法：分詞
- 第6回 Unit 5 Personnel 文法：不定詞と動名詞(1)
- 第7回 Unit 6 Shopping 文法：不定詞と動名詞(2)
- 第8回 Unit 7 Advertisement 文法：仮定法
- 第9回 Unit 8 Daily Life 文法：受動態
- 第10回 Unit 9 Office Work 文法：代名詞
- 第11回 Unit 10 Business 文法：数量詞・比較
- 第12回 Unit 11 Traffic 文法：接続詞
- 第13回 Unit 12 Finance and Banking 文法：前置詞
- 第14回 Unit 13 Media 文法：語彙
- 第15回 Unit 14 Health and Welfare

英語II (律政群 1-F) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度 10%、小テスト 40%、期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料を復習に利用してください。
教科書の音声は無料でストリーミング配信されていますので、予習・復習に利用してください。

履修上の注意 /Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書(病院の領収書など)を見せてください。
遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。
初回講義時に必ずテキストを買って持ってきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト 新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニングpart 1、リーディングpart 5の学習
- 3回 リスニングpart 2、リーディングpart 6の学習
- 4回 リスニングpart 3、リーディングpart 7の学習
- 5回 リスニングpart 4、リーディングpart 7②の学習
- 6回 リスニングの復習
- 7回 リーディング part 5、リスニングpart 2の学習
- 8回 リーディングpart 6、リスニングpart 3の学習
- 9回 リーディングpart 7、リスニングpart 4の学習
- 10回 リーディングpart 7、リスニングpart 2の学習
- 11回 リーディングpart 7、リスニングpart 3の学習
- 12回 リーディングpart 7、リスニングpart 4の学習
- 13回 リーディングpart 7、リスニングpart 2の学習
- 14回 リーディングの復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40% 復習テスト 10% 単語テスト 10% 日常の授業への取り組み状況 (小テスト、課題及び宿題を含む) 40%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (律政群 1-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習...ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので、毎回必ずテキストで学習して授業に臨んで下さい。単語テストを行います。
事後学習...授業で指定されたテキストの範囲は、必ず学習しておいてください。復習テストを行います。

履修上の注意 /Remarks

毎回単語100語テストを行います。
テキストの自学の範囲で、不明な点がありましたら、授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、基本文法の習得およびTOEIC問題の取り組みを通して、「聴く」「読む」力のさらなる養成を行う。

教科書 /Textbooks

吉塚 弘 他著 『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST- Revised Edition-』 成美堂
¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TOEIC個人目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
- 第2回 人称代名詞 / Unit 1 Restaurant
- 第3回 不定代名詞と再帰代名詞 / Unit 2 Entertainment
- 第4回 現在・過去の時制 / Unit 3 Business
- 第5回 現在完了 / Unit 4 Office
- 第6回 時・期間を表す前置詞 / Unit 5 Telephone
- 第7回 位置・場所を表す前置詞 / Unit 6 Letter & E-mail
- 第8回 数量形容詞 / Unit 7 Health
- 第9回 形容詞を作る接尾辞 / Unit 8 Bank & Post Office
- 第10回 副詞を作る接尾辞 / Unit 9 Travel (1)
- 第11回 分詞構文 / Unit 10 Travel (2)
- 第12回 比較 / Unit 11 Job Applications
- 第13回 受動態 / Unit 12 Shopping
- 第14回 関係詞 / Unit 13 Education
- 第15回 関係詞 / Unit 14 Education

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。1の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってもらうこと。2のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。3のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills for the purpose of developing topic oriented speeches. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic speaking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 1
Andrew E. Bennett
NAN'UN-DO

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional class materials will be provided by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Course Introduction
- 2 Reading Pass 1, Unit 1: Explain reading passage and do questions.
- 3 Reading Pass 1, Unit 1: Questions and Answers Present topic for 1st speech.
- 4 Group work to develop speeches.
- 5 Presentation of speeches.
- 6 Reading Pass 1, Unit 2: Explain reading passage and do questions.
- 7 Reading Pass 1, Unit 2: Questions and Answers Present topic for 2nd speech.
- 8 Group work to develop speeches.
- 9 Presentation of speeches.
- 10 Reading Pass 1, Unit 3: Explain reading passage and do questions.
- 11 Reading Pass 1, Unit 3: Test. Present topic for 3rd speech.
- 12 Group work to develop speeches.
- 13 Presentation of speeches. Present topic for 4th speech.
- 14 Group work to develop speeches.
- 15 Presentation of speeches.

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based primarily on classroom work and participation as well as quality of speeches. A mid-term test will also figure into the assessment.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must take individual responsibility for class and speech presentation preparation.

英語Ⅲ (律政群 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.
Excessive absences will not be tolerated.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and speaking.

キーワード /Keywords

composition, public speaking, competent answers, complete sentences

英語Ⅲ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class Service 1, Cengage, ISBN: 9814319430

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

履修上の注意 /Remarks

なし

英語III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語Ⅲ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2〜3ページを終わらせておいてください。

英語III (律政群 1-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let’s Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1
- Week 3 Unit 2
- Week 4 Unit 3
- Week 5 Unit 4
- Week 6 Unit 1-4 Expansion
- Week 7 Discussion Planning
- Week 8 Mid-Semester Review
- Week 9 Unit 5 and Discussion 1
- Week 10 Unit 6 and Discussion 2
- Week 11 Unit 7 and Discussion 3
- Week 12 Unit 8 and Discussion 4
- Week 13 Units 5-8 Expansion
- Week 14 Review
- Week 15 Diary Interviews

英語III (律政群 1-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

All students should buy a simple A4 or B5 notebook. A weekly homework task will be to keep a weekly English diary. This will consist of writing about daily life in English. Each diary entry should be between 8 and 10 lines long. The teacher will collect and read the diaries at the end of semester. Students should be prepared to share details of their diary for conversation in class. I ask you to be mindful of this and make sure you are happy sharing anything you write.

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you. I am sure we will have fun practicing English together.

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群 1 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

In this course, the four language skills will be taught. Stress will be placed on speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Level 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Course introduction, expectations, study skills, preparation advise, and grading procedure.
- 第 2 回 : Unit 1: Lesson title: People. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 4 回 : Unit 2: Lesson title: Work, rest, play. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 5 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 6 回 : Unit 3: Lesson title: Going places. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 7 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 8 回 : Unit 4: Lesson title: Food. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 9 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 0 回 : Unit 5: Lesson title: Sports. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 1 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 2 回 : Unit 6: Lesson title: Destinations. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 4 回 : All outstanding work to be completed.
- 第 1 5 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation 30%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

英語III (律政群 1 - E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Orientation
- 2: Asking someone's name
- 3: Travel jobs
- 4: Floor plans
- 5: Opening hours
- 6: Making reservations
- 7: Confirming reservations
- 8: Checking in
- 9: Taking calls
- 10: On tour
- 11: Ordering/taking orders
- 12: Checking information
- 13: Taking messages
- 14: Directions
- 15: Changing money/final review

成績評価の方法 /Assessment Method

- Attendance - 20%
- Homework - 20%
- Presentation - 2 X 15%
- Final exam - 20%
- Participation - 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

英語III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅲ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

English for International Communication

教科書 /Textbooks

First Class Service 1 (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電池辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: May I have your name, please?
- 第 2 回: It's on the third-floor
- 第 3 回: We're open from 7:00 a.m. to 11:00 a.m.
- 第 4 回: We're fully booked on Monday
- 第 5 回: I'll repeat your reservation
- 第 6 回: Are you checking in?
- 第 7 回: I'll transfer your call
- 第 8 回: We'll be stopping for lunch at 12:00
- 第 9 回: What can I get for you?
- 第 1 0 回: I'll send someone to check it
- 第 1 1 回: May I take a message?
- 第 1 2 回: I'll show you on the map
- 第 1 3 回: How much would you like to change?
- 第 1 4 回: The service is included
- 第 1 5 回: It's been a pleasure

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and weekly assessments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Intro (2nd Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 日常の授業への取り組み...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの意味を確認しておくこと。
音声教材を繰り返し聞くこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

英語III (律政群 1 - 1) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic speaking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 1
Andrew E. Bennett
NAN'UN-DO

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional class materials will be provided by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Course Introduction
- 2 Explain reading passage and do questions
- 3 Complete reading assignment
- 4 Explain reading passage and do questions
- 5 Complete reading assignment
- 6 Explain reading passage and do questions
- 7 Complete reading assignment
- 8 Explain reading passage and do questions
- 9 Complete reading assignment
- 10 Explain reading passage and do questions
- 11 Complete reading assignment
- 12 Explain reading passage and do questions
- 13 Complete reading assignment
- 14 Explain reading passage and do questions
- 15 Complete reading assignment

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based primarily on classroom work. A mid-term and final test will also figure into the assessment.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must take individual responsibility for class and speech presentation preparation.

英語IV (律政群 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.
Excessive absences will not be tolerated.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and speaking.

キーワード /Keywords

composition, competent answers, complete sentences

英語Ⅳ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present objective facts and subjective opinions on topics related to international relations and contemporary social and political issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Social issues in the world
- 3回 Research of social issues
- 4回 Expansion of social issues
- 5回 Consolidation of social issues
- 6回 First group: Presentation and discussion
- 7回 Second Group: Presentation and discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Political issues in the world
- 10回 Research of political issues
- 11回 Expansion of political issues
- 12回 Consolidation of political issues
- 13回 Third Group: Presentation and discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語IV (律政群 1-B) 【昼】

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Happiness-Introductions
- 第 3 回 Happiness-Building Skills
- 第 4 回 Happiness-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Religion-Introduction
- 第 7 回 Religion-Building Skills
- 第 8 回 Religion-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2〜3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意 /Remarks

英語Ⅳ (律政群 1-C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 9
- Week 3 Unit 10
- Week 4 Unit 11
- Week 5 Unit 12
- Week 6 Unit 9-12 Expansion
- Week 7 Discussion Planning
- Week 8 Mid-Semester Review
- Week 9 Unit 13 and Discussion 1
- Week 10 Unit 14 and Discussion 2
- Week 11 Unit 15 and Discussion 3
- Week 12 Unit 16 and Discussion 4
- Week 13 Units 13-16 Expansion
- Week 14 Review
- Week 15 Diary Interviews

英語Ⅳ (律政群 1-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

All students should buy a simple A4 or B5 notebook. A weekly homework task will be to keep a weekly English diary. This will consist of writing about daily life in English. Each diary entry should be between 8 and 10 lines long. The teacher will collect and read the diaries at the end of semester. Students should be prepared to share details of their diary for conversation in class. I ask you to be mindful of this and make sure you are happy sharing anything you write.

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you. I am sure we will have fun practicing English together.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

In this course, the four language skills will be taught. Stress will be placed on speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Series 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Unit 7: Lesson title: Communication. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 2 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 3 回 : Unit 8: Lesson title: Moving forward. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 4 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 5 回 : Unit 9: Lesson title: Types of clothing. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 6 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 7 回 : Unit 10: Lesson title: Lifestyles. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 8 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 9 回 : Unit 11: Lesson title: Achievements. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 0 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 1 回 : Christmas quiz.
- 第 1 2 回 : Unit 12: Lesson title: Consequences. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 4 回 : All outstanding work to be completed.
- 第 1 5 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 50%, class participation 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

英語IV (律政群 1 - E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - F
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Orientation
- 2: Asking someone's name
- 3: Travel jobs
- 4: Floor plans
- 5: Opening hours
- 6: Making reservations
- 7: Confirming reservations
- 8: Checking in
- 9: Taking calls
- 10: On tour
- 11: Ordering/taking orders
- 12: Checking information
- 13: Taking messages
- 14: Directions
- 15: Changing money/final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance - 20%
Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

英語IV (律政群 1 - F) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

English for International Communication

教科書 /Textbooks

First Class Service 2 (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電池辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

sure

- 第 1 回: This is Janice speaking
- 第 2 回: Where are you from?
- 第 3 回: “Sorry” seems to be the hardest word
- 第 4 回: Would you like to try that instead?
- 第 5 回: They’re both very nice rooms
- 第 6 回: You’ll see a bank on the right
- 第 7 回: I highly recommend it
- 第 8 回: It comes with a choice of soup or salad
- 第 9 回: Sorry, all the window seats are taken
- 第 1 0 回: First, enter your weight into the machine
- 第 1 1 回: Could you say that again, please
- 第 1 2 回: Sorry for the inconvenience
- 第 1 3 回: Hold the line, please
- 第 1 4 回: This is a non-smoking area
- 第 1 5 回: Are you enjoying your meal

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and weekly assessments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目

英語IV (律政群 1-G) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 日常の授業への取り組み...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの意味を確認しておくこと。
音声教材を繰り返し聞くこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

英語IV (律政群 1 - I) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Golden rules
- 3回 Exchanging basic information
- 4回 Majors, school years, and clubs
- 5回 Part-time jobs
- 6回 Daily routines
- 7回 Hardest/easiest days of the week
- 8回 Spending time
- 9回 Hometown attractions
- 10回 Hometown likes and dislikes
- 11回 Where to live in the future
- 12回 Travel experiences
- 13回 Future travel ideas and plans
- 14回 Planning a trip
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

英語V (律政群 2 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞くの3技能を総合的に鍛える必要がある。この授業では、ToEICにおける、高得点の獲得を目標に実践的な訓練を行う。後半は、有名なスピーチを読んで、内容を深く味わう。

教科書 /Textbooks

The ToEIC Test Trainer Target 650 by Masahiko Ymaguchi, George W Pifer Cengage Learning
Memorable Speeches by Takumi Kashima, Jeffrey Mac Pherson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listeningの問題のディクテーションの答え合わせ。
3. 読解文も訳の答え合わせ。
4. 読みを流暢になるまで練習する。
5. 後半はエッセイ作品を深く味わう。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 The ToEIC Test Trainer Unit 1 提案-時制 1
- 3回 Unit 2 確認-時制 2
- 4回 Unit 3 会話を始める-助動詞
- 5回 Unit 4 ニュース報道-フレーズリーディング
- 6回 Unit 5 義務-代名詞
- 7回 Unit 6 理由-前置詞
- 8回 復習 Introduction of Memorable Speeches
- 9回 Unit 1 We are the United States of America
- 10回 Unit 2 Burden and Promise
- 11回 Unit 3 Yes, We Can
- 12回 Unit 4 Why to Jerusalem
- 13回 Unit 5 Wall and Eggs
- 14回 Unit 6 Burma's Plight
- 15回 復習

英語V (律政群 2-B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題 10% 試験65%
4回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価にTOEICスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習を必ずチェックする。次週の最初に復習テストを口頭で行う。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文は単語をしっかり調べておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「TOEICテスト新公式問題集 vol. 6」 国際コミュニケーション協会
- 「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5」 国際コミュニケーション協会
- 「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4」 国際コミュニケーション協会
- 「TOEICテスト新公式問題集 vol. 3」 国際コミュニケーション協会
- 「TOEICテスト新公式問題集 vol. 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニング問題の概要
- 3回 リーディング問題の概要
- 4回 リスニングpart 2、リーディングpart 5の学習
- 5回 リスニングpart 3、リーディングpart 6の学習
- 6回 リスニングpart 4、リーディングpart 6の学習
- 7回 リスニングの復習
- 8回 リーディングpart 5、リスニングpart 2の復習
- 9回 リーディングpart 6、リスニングpart 3の復習
- 10回 リーディングpart 7：シングルパッセージの学習、リスニングpart 4の復習
- 11回 リーディングpart 7：ダブルパッセージの学習、リスニングpart 2の復習
- 12回 リーディングpart 7：トリプルパッセージの学習、リスニングpart 3の復習
- 13回 part 7の復習
- 14回 リーディングの復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、復習テスト 10% 単語テスト 10% 日常の授業への取り組み（小テスト、課題及び宿題を含む）40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

英語V (律政群 2-C) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習...ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので、テキストで学習して授業に臨んで下さい。単語テストを行います。
事後学習...授業で指定されたテキストの範囲は、必ず学習しておいてください。復習テストを行います。

履修上の注意 /Remarks

毎回単語100語テストを行います。
テキストで自学と指示された範囲で不明な点がありましたら、授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語V
			ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書 /Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」 CD付
SEIBIDO ￥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	テキスト、授業の目的、学習法の説明		
2回	Unit 1 Airport 空港	(WH疑問文・基礎)	【フライトの予約】	【旅客のマナー】
3回	Unit 1 Airport	(動詞の形)	【ビジネスEメール】	【フライトの案内表示】
4回	Unit 2 Train Station 鉄道の駅	(WH疑問文・応用)	【道を尋ねる】	【鉄道博物館案内】
5回	Unit 2 Train Station	(準動詞)	【乗客の安全対策】	【ツアーのスケジュール表】
6回	Unit 3 Department Store デパート	(一般動詞)	【客と店員の会話】	【ネット通販】
7回	Unit 3 Department Store	(5文型)	【セールのチラシ】	【デパートのセール案内】
8回	Unit 4 Restaurant	(選択疑問文)	【食生活に関する話】	【料理の歴史の話】
9回	Unit 4 Restaurant	(関係詞と接続詞)	【顧客へのお知らせ】	【レストランのメニュー】
10回	Unit 5 Hotel ホテル	(否定疑問文)	【フロントでの会話】	【ホテルの紹介】
11回	Unit 5 Hotel	(助動詞と仮定法)	【改装のお知らせ】	【ホテルの予約依頼の携帯メール】
12回	Unit 6 Hospital 病院	(付加疑問文)	【予定の変更】	【医師のアドバイス】
13回	Unit 6 Hospital	(前置詞と冠詞)	【外来受付時間変更】	【病院での昇進に関するチャット】
14回	Unit 7 Bank 銀行	(間接疑問文)	【客と行員の会話】	【ネットバンキング I】
15回	Unit 7 Bank	(否定と比較)	【ネットバンキングII】	【新商品の案内】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・50点 小テスト・・40点 日常の授業への取り組み・・10%
最終評価はTOEICが反映されます。反映方法は初回の授業時に文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行うこと。

英語V (律政群 2-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - E /Law School Group 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

Aim 1: Improve students' English proficiency.
Aim 2: Enhance students' legal mind.

The aim of this course is twofold. First, by using a drill book based on TOEIC, students' listening and reading comprehension as well as vocabulary and grammar will be improved.
Second, by studying an integrated textbook on lawsuits, students will familiarize themselves with legal systems and cultivate the legal mind.

教科書 /Textbooks

Kitao, Y. et al. 2017. STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 –Intermediate– (一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 2 –Intermediate–). Tokyo: Asahi Press.

Torikai, S. et al. Legal Minds-15 Journeys in Law (大学生のための法律英語 15の裁判物語). Tokyo: Kinseido.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced during the class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction・ TOEIC Unit 1
2. TOEIC Unit 1 Legal Minds Case 1
3. TOEIC Unit 2 Legal Minds Case 1
4. TOEIC Unit 3 Legal Minds Case 2
5. TOEIC Unit 4 Legal Minds Case 2
6. TOEIC Unit 5 Legal Minds Case 3
7. TOEIC Unit 6 Legal Minds Case 3
8. TOEIC Unit 7 Legal Minds Case 4
9. TOEIC Unit 8 Legal Minds Case 4
10. TOEIC Unit 9 Legal Minds Case 5
11. TOEIC Unit 10 Legal Minds Case 5
12. TOEIC Unit 11 Legal Minds Case 6
13. TOEIC Unit 12 Legal Minds Case 6
14. TOEIC Unit 13 Legal Minds Case 7
15. TOEIC Unit 14 Legal Minds Case 7

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in class...20% Final exam...80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V (律政群 2-E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparation

1. Look up any words or expressions that you do not know or have forgotten.
Not having done so may result in deduction from the assessment in participation.
2. Work on the exercises in the TOEIC textbook.
3. Grasp the content of the reading material.

Review

1. Review the exercises in the TOEIC textbook, focussing on the questions that you did not get right.
2. Review the reading material and make sure that you understand its content., vocabulary and grammar.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語V (律政群 2-F) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・読む」力を、TOEIC テスト用の練習問題を用いて向上させることにある。

TOEICテストは、コミュニケーションの手段として必要不可欠な「文法・語法・語彙・表現内容・発音」などの知識や理解がどのくらい身についているのかその習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、当授業では、TOEICテストの練習問題を通して、中・高で学習した基礎文法の復習からTOEICに用いられる必須単語の語彙力、英語長文の読解力及び聴解力の向上へと英語受信力がバランスよく着実に身につけていくよう学習を進めていく。

授業の流れは、基本的に次の3部構成で行う。1. 基礎文法復習 2. リスニング学習 3. リーディング学習

使用テキストのTOEIC問題は、学期の前半は解答・解説を中心に一通り学習し、後半はそのテキストの英語表現に慣れるために再度復習テストの対象として扱っていく。学習到達度がリアルに分かるように、復習テストの結果を公表する。

毎年、当クラスのTOEIC取得スコアは、前学期の時点で300点前後が中心である。当学期は、それを踏まえ、400点取得を目標に学習に取り組んでもらいたい。

教科書 /Textbooks

タイラー・バーデン 他著 『Preparation for the TOEIC Test』 南雲堂
※ 上記のテキストに加え、基礎文法学習用のプリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

英語V (律政群 2-G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	TOEIC目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
第2回	文型&動詞 / Lesson 1, 2
第3回	文型&動詞 / Lesson 3, 4
第4回	時制 / Lesson 5, 6
第5回	時制 / Lesson 7, 8
第6回	時制 / Lesson 9, 10
第7回	準動詞 / Lesson 11, 12
第8回	準動詞 / Lesson 13, 14
第9回	準動詞 / Lesson 15
第10回	助動詞 / 復習テスト(1)
第11回	助動詞 / 復習テスト(2)
第12回	関係詞 / 復習テスト(3)
第13回	関係詞 / 復習テスト(4)
第14回	関係詞 / 復習テスト(5)
第15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。1の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってくること。2のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。3のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

新形式TOEIC®問題対策のテキストを使用して、頻出テーマである旅行、オフィス、季節・天気、健康、会議などに関する場面の英語に取り組みTOEICに対応した英語力の養成を図ります。
Part 1からPart 7まで解答のポイント、頻出語句を確認しながら学習を進めていき、基本的な語彙と構文、文法事項を身に付けることを目指します。特に頻出語彙の演習は繰り返し音声を聞くことで、リスニングパートへの対応力アップにもつながります。
リスニングに関しては、アメリカ英語のみならず、イギリス、カナダ、オーストラリアで話されている英語を発音するスピーカーの英語を聞き、多様な英語の発音に慣れるようにします。
各章のPart 1 からPart 7 までの問題は、毎回の宿題になりますので、必ず取り組むようにしましょう。

教科書 /Textbooks

The TOEIC® Listening & Reading Test CIRCUIT <Updated Edition> / 『語彙から始めるTOEIC®L & R 総合演習〈新形式問題対応版〉』 (著者) 鶴岡公幸 / Matthew Wilson ISBN978-4-88198-729-2 松柏社 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編』

英語V (律政群 2-1) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------|--|
| 1 回 | Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Unit 1 旅行① |
| 2 回 | Unit 2 オフィス① |
| 3 回 | Unit 3 レストラン |
| 4 回 | Unit 4 季節・天気 |
| 5 回 | Unit 5 健康
(いろいろな英語の発音に慣れよう(1)) |
| 6 回 | Unit 6 旅行② |
| 7 回 | Unit 7 休暇 |
| 8 回 | Unit 8 オフィス② |
| 9 回 | Unit 9 ショッピング |
| 10 回 | Unit 10 就職活動
(いろいろな英語の発音に慣れよう(2)) |
| 11 回 | Unit 11 娯楽 |
| 12 回 | Unit 12 旅行③ |
| 13 回 | Unit 13 オフィス③ |
| 14 回 | Unit 14 会議 |
| 15 回 | Unit 15 スポーツ、まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各ユニットの演習問題に必ず取り組みましょう。
また間違った箇所は復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test』（新形式対応）

著者：吉塚 弘、Micheal Schauerte ￥2,200（税別）

出版社：成美堂 2017年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Restaurant [grammar人称代名詞]
- 3回 Unit 2 Entertainment [grammar不定代名詞と再帰代名詞]
- 4回 Unit 3 Business [grammar現在・過去時制]
- 5回 Unit 4 Office[grammar現在完了]
- 6回 Unit 5 Telephone [grammar時・期間を表す前置詞]
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail [grammar位置・場所を表す前置詞]
- 8回 Unit 7 Health [grammar数量形容詞]
- 9回 Unit 8 Bank & Post Office [grammar自動詞と他動詞]
- 10回 Unit 9 New Products [grammar形容詞を作る接尾辞]
- 11回 Unit 10 Travel ①[grammar副詞を作る接尾辞]
- 13回 Unit 11 Travel ② [grammar分詞構文]
- 12回 Unit 12 Job Applications [grammar比較]
- 14回 Unit 13 Shopping [grammar受動態]
- 15回 Review

英語VI (律政群 2 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - B / 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。後半は有名なスピーチを読んで深く味わう。

教科書 /Textbooks

"ToEIC Test Trainer Target 650" by Yamaguchi Masahiko Hiroko Matsuura, published Cengage Learning
"Memorable Speeches" by Takumi Kashima, Jeffrey Mac Pherson Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。
4. 後半は有名なスピーチを深く味わう

1回 オリエンテーション

- 2回 The ToEIC Test Trainer Unit 7 苦情-接続詞
- 3回 Unit 8 交通情報-スキミング
- 4回 Unit 9 Yes/Noで答える質問-関係詞
- 5回 Unit 10 意見-分詞構文
- 6回 Unit 11 意見の一致・不一致-仮定法
- 7回 Unit 12 会議-スキミング
- 8回 Post-test
- 9回 Memorable Speeches Unit 7 Aung San Suu Kyi's philosophy
- 10回 Unit 8 Clear present Danger
- 11回 Unit 9 American way to Go
- 12回 Unit 10 our democracy and Freedom
- 13回 Unit 11 Unicef and Audrey Hepburn
- 14回 Unit 12 Society and Children
- 15回 Unit 13 Unicef and Its Roles

英語VI (律政群 2-B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 宿題 10% 試験 65%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週予習を調べる。次週の最初に口頭で復習テストを行う。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備、リスニングのところをディクテーションしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

休むと、単語のテストのポイントと予習ポイントを失います。休まないで来てください。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - C / 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニングpart 1、リーディングpart 5の学習
- 3回 リスニングpart 2、リーディングpart 6の学習
- 4回 リスニングpart 3、リーディングpart 7の学習
- 5回 リスニング part 4、リーディングpart 7の学習
- 6回 リスニングの復習
- 7回 リーディングpart 5、リスニングpart 2の学習
- 8回 リーディングpart 6、リスニングpart 3の学習
- 9回 リーディングpart 7：シングルパッセージ、リスニングpart 4の学習
- 10回 リーディング part 7：ダブルパッセージ、リスニングpart 2の学習
- 11回 リーディングpart 7：ダブルパッセージ②、リスニングpart 3の学習
- 12回 リーディングpart 7：トリプルパッセージ、リスニング part 4の学習
- 13回 リーディングpart 7：トリプルパッセージ②、リスニングpart 2の学習
- 14回 リーディングの復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、復習テスト 10% 単語テスト 10% 日常の授業への取り組み（小テスト、課題及び宿題を含む）40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

英語VI (律政群 2 - C) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習...ガイダンス時に渡す単語100語プリントを、テキストで学習して授業に臨んでください。単語テストを行います。
事後学習...授業で指定されたテキストの範囲は必ず学習しておいてください。復習テストを実施します。

履修上の注意 /Remarks

毎回、単語100語テストを実施します。
テキストで自学と指示された範囲、それ以外でも、不明な点がありましたら、授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書 /Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」 CD付
SEIBIDO ￥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション： テキスト、授業の目的、学習法の説明
- 2回 Unit 8 Workplace 職場 肯定文と否定文 【上司と部下の会話】【人事異動の連絡】
- 3回 Unit 8 Workplace 接頭辞共通 【コピー機の契約】【年次会議について】
- 4回 Unit 9 Fitness Club スポーツクラブ 提案への応答 【健康の話題】【健康プログラム】
- 5回 Unit 9 Fitness Club 接尾辞共通 【無料体験登録】【スポーツクラブへの問い合わせ】
- 6回 Unit 10 Sightseeing 観光 依頼への応答 【道を尋ねる】【観光案内】
- 7回 Unit 10 Sightseeing 派生語(複数の品詞) 【観光地の案内】【観光名所について】
- 8回 Unit 11 International Conference 国際会議 勧誘への応答【出張中の出来事】【講演】
- 9回 Unit 11 International Conference 派生語(形容詞) 【講演者の紹介】【国際会議のスケジュール】
- 10回 Unit 12 Computer Society コンピューター 感謝・謝罪への応答 【SNS広告】【スマホ VS ガラケ】
- 11回 Unit 12 Computer Society 類似語 【スマホの虹彩認証】【スマホの機能について】
- 12回 Unit 13 Employment 採用 意外な応答 1 【就活の話題】【就活アドバイス】
- 13回 Unit 13 Employment 同音異義語 【履歴書添状】【求人案内と応募メール】
- 14回 Unit 14 Job Training 研修 以外な応答 2 【新入社員の会話】【研修内容の説明】
- 15回 Unit 14 Job Training 綴りが似ている単語 【e-worker 研修】【社内研修プログラムとメール】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・50点 小テスト・40点 日常の授業への取り組み・10%
最終評価にはTOEICが反映されます。反映方法は初回の授業時に文書を配布して説明します。

英語VI (律政群 2-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせます。次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行う。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - E /Law and Politics Group 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

Aim 1: Improve students' English proficiency.
Aim 2: Enhance students' legal mind.

The aim of this course is twofold. First, by using a drill book based on TOEIC, students' listening and reading comprehension as well as vocabulary and grammar will be improved.
Second, by studying an integrated textbook on lawsuits, students will familiarize themselves with legal systems and cultivate the legal mind.

教科書 /Textbooks

Yoshizuka, Hiroshi et al. 2017. Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test - Revised Edition(TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ -改訂新版-) . Tokyo: Seibido.

Torikai, S. et al. Legal Minds-15 Journeys in Law (大学生のための法律英語 15の裁判物語) . Tokyo: Kinseido.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced during the class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction・ TOEIC Unit 1 Legal Minds Case 8
2. TOEIC Unit 1 Legal Minds Case 8
3. TOEIC Unit 2 Legal Minds Case 9
4. TOEIC Unit 3 Legal Minds Case 9
5. TOEIC Unit 4 Legal Minds Case 10
6. TOEIC Unit 5 Legal Minds Case 10
7. TOEIC Unit 6 Legal Minds Case 11
8. TOEIC Unit 7 Legal Minds Case 11
9. TOEIC Unit 8 Legal Minds Case 12
10. TOEIC Unit 9 Legal Minds Case 12
11. TOEIC Unit 10 Legal Minds Case 13
12. TOEIC Unit 11 Legal Minds Case 13
13. TOEIC Unit 12 Legal Minds Case 14
14. TOEIC Unit 13 Legal Minds Case 14
15. TOEIC Unit 14 Legal Minds Case 15

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in class...20% Final exam...80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (律政群 2 - E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparation

1. Look up any words or expressions that you do not know or have forgotten.
Not having done so may result in deduction from the assessment in participation.
2. Work on the exercises in the TOEIC textbook.
3. Grasp the content of the reading material.

Review

1. Review the exercises in the TOEIC textbook, focussing on the questions that you did not get right.
2. Review the reading material and make sure that you understand its content., vocabulary and grammar.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 3回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 4回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 5回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 6回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 7回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 12回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 13回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、基本文法の習得およびTOEIC問題の取り組みを通して、「聴く」「読む」力のさらなる養成を行う。1学期同様、2学期も明確な目標スコアを設定し、1学期に習慣づいた英語学習を継続することで今学期、さらなるスコアアップを目指してもらいたい。(2学期TOEIC取得目標 450点)

教科書 /Textbooks

吉塚 弘 他著 『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST- Revised Edition-』 成美堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TOEIC個人目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
- 第2回 人称代名詞 / Unit 1 Restaurant
- 第3回 不定代名詞と再帰代名詞 / Unit 2 Entertainment
- 第4回 現在・過去の時制 / Unit 3 Business
- 第5回 現在完了 / Unit 4 Office
- 第6回 時・期間を表す前置詞 / Unit 5 Telephone
- 第7回 位置・場所を表す前置詞 / Unit 6 Letter & E-mail
- 第8回 数量形容詞 / Unit 7 Health
- 第9回 形容詞を作る接尾辞 / Unit 8 Bank & Post Office
- 第10回 副詞を作る接尾辞 / Unit 9 Travel (1)
- 第11回 分詞構文 / Unit 10 Travel (2)
- 第12回 比較 / Unit 11 Job Applications
- 第13回 受動態 / Unit 12 Shopping
- 第14回 関係詞 / Unit 13 Education
- 第15回 関係詞 / Unit 14 Education

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

英語VI (律政群 2-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。1の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってもらうこと。2のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。3のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 律政群 2 - 1 / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

毎日新聞のニュースサイト 英語版The Mainichi から、「日本の2科学者、ノーベル賞を受賞」、「集団的自衛権の一部行使を可能とする安保法案可決」、「こんまりさん、新作の『ときめき』」など、様々な内容の英文記事を読み、英語の運用能力を高めると同時に、現代社会を捉える知見を得ることを目的とします。

各チャプターにおけるVocabulary Check, Contents Check, True or False, Comprehension Question, Question-Answer, Listening Task, Writing Task等の演習問題はTOEIC対策問題として活用します。

教科書 /Textbooks

News Gallery 2017
 Yoshisada Kinoshita/ Masako Eguchi/ Adam Hailes編著
 開文社 2017年 ISBN978-4-87571-700-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明
Chapter 1No tricks: Halloween all the rage in Japan as costume play
- 2回 Chapter 2Historic pact to slow global warming is celebrated in Paris
- 3回 Chapter 3Einstein's right again: Scientists detect ripples in gravity
- 4回 Chapter 4U.S. Navy sailing near Spratly Islands jacks up tensions with China
- 5回 Chapter 5Japan enacts legislation for major shift in postwar security policy
- 6回 Chapter 6Two Japanese scientists receive Nobel Prize
- 7回 Chapter 7 Broad TPP agreement raises hopes of lower food prices, more options for consumers
- 8回 Chapter 8Letters by Toyotomi Hideyoshi show detailed instructions to chief retainer
- 9回 Chapter 9Paris terror attacks a barbaric assault on civil society
- 10回 Chapter 10Kondo is back with more tidying advice in Spark Joy
- 11回 Chapter 11Obama urged to keep showing diplomatic achievements
- 12回 Chapter 12U.N. health chief: Zika virus is 'spreading explosively'
- 13回 Chapter 13Suu Kyi party projects landslide in historic Myanmar vote
- 14回 Chapter 14Japanese market observers wary of slowdown of Chinese economy
- 15回 まとめ

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

巻末付録の略語および時事用語一覧を予習・復習に活用しましょう。
授業以外でも英字新聞や英語ニュースを通して時事英語にふれるようにしましょう

履修上の注意 /Remarks

各チャプターの演習問題はTOEIC対策問題として活用しますので、必ず取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を必ず持参すること。

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Food
Week 3: Food
Week 4: Festivals
Week 5: Festivals
Week 6: Cities
Week 7: Cities
Week 8: Jobs
Week 9: Jobs
Week 10: Music
Week 11: Music
Week 12: Journeys
Week 13: Journeys
Week 14: Presentation Preparation
Week 15: Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should complete all homework assignments and listen to any pre-assigned listening tasks.

履修上の注意 /Remarks

英語VII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語VII (律政群 2 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書 /Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Introduction: Explanation of the course aims, grading, expectations, and general advice about how to study effectively.
- 第 2 回 : Unit 1 - Title: All about me. Lesson A
- 第 3 回 : Unit 1, Lesson B
- 第 4 回 : Unit 2 - Title: Let's eat! Lesson A
- 第 5 回 : Unit 2, Lesson B
- 第 6 回 : Unit 3 - Title: Unsolved Mysteries. Lesson A
- 第 7 回 : Unit 3, Lesson B
- 第 8 回 : Unit 4 - Title: Today's Trends. Lesson A
- 第 9 回 : Unit 4, Lesson B
- 第 10 回 : Unit 5 - Title: Out and About. Lesson A
- 第 11 回 : Unit 5, Lesson B
- 第 12 回 : Unit 6 - Title: Student Life. Lesson A
- 第 13 回 : Unit 6, Lesson B
- 第 14 回 : All outstanding work to be completed, exam explanation.
- 第 15 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意 /Remarks

英語VII (律政群 2-C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Sleep well and keep regular hours.
Don't use phones in the class.

キーワード /Keywords

Education is the key to a better future.

英語VII (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Conversations Volume 1 by Mark P Mylon. Lulu Press. ISBN 978-0-565-98820-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The king and his wives
11. Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring notebook and dictionary

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

英語VII (律政群 2-D) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 “Weekends”
- 3 回 Text Unit 2 “Excuses”
- 4 回 Text Unit 3 “Life Events”
- 5 回 Text Unit 4 “Travel”
- 6 回 Text Unit 5 “Culture Shock”
- 7 回 Text Unit 6 “Party Time”
- 8 回 Text Unit 7 “Describing People”
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 “Movies”
- 1 1 回 Text Unit 10 “Big Issues”
- 1 2 回 Text Unit 13 “Keepsakes”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

英語VII (律政群 2-E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed every week before class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, reading, writing and legal vocabulary skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding and communication in English.

教科書 /Textbooks

Akito Igarashi, The General History of Japan, NAN'UN-DO, and John P. Racine and Takayuki Nakanishi, Vocabulary for Law, NAN'UN-DO (Textbooks must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary and a USB flash drive.

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1Class Opening: Course Introduction
- 2Academic Writing – Writing an opening sentence, topic sentence, supporting sentences, concluding sentence, in-text citation, reference.
- 3The Jomon and The Yayoi Periods – Reading, Vocabulary, Exercises, Legal Vocabulary
- 4Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Jomon and Yayoi Periods and the laws that were used during these periods.
- 5The Tumulus Period – Reading, Vocabulary, Exercises
- 6The Asuka Period (Parts1and 2) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 7Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Tumulus and Asuka periods and the laws that were used during these periods.
- 8The Nara and Heian Period
- 9The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi (Samurai)
- 10Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Heian period and the laws that were used during that period.
- 11The Kamakura Period (Parts 1 and 2)
- 12Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Kamakura period and the laws that were used during that period.
- 13The Muromachi Period (Part 1)
- 14The Muromachi Period (Part 2) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 15Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Muromachi period and the laws that were used during that period.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments 60% Quizzes and Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent. The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
- 2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
- 3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES /CLEARIFYING INFORMATION
- 4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
- 5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
- 7 回 DESCRIBING WORKPLACES
- 8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
- 9 回 DESCRIBING PERSONAL CHARACTERISTICS
- 1 0 回 TALKING ABOUT STRENGTHS AND WEAKNESSES
- 1 1 回 PREPARING FOR A JOB INTERVIEW
- 1 2 回 CONDUCTING A JOB INTERVIEW
- 1 3 回 LESSON 9~ 12 EXPANSION ACTIVITY
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION I
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ①まずKey Word Studyを行う。
- ②次に基本的な語学力を向上させるためListening Practice 1,2をやる。
- ③さらに語彙力の充実を図るためにComprehension CheckとSummaryを試みる。
- ④最後にReadingのコナーによって、ニュース英語の世界や語学的特質の理解を深める。

[授業のねらい]

- ①WAAの映像ニュースで取り上げられた環境、健康、科学技術に関連し、様々な最新的话题に触れながら、映像を通して、多方面的の英語ニュースを理解し、時事英語の「理解力向上」を目指す。
- ②多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- ③英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

『AFP World Focus—Environment, Health, and Technology』
編注者：宍戸真、高橋真理子、Kevin Murphy
発行：成美堂、2017年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、講義の課題と方法の説明、勉強方法の解説 (シラバス使用)
- 第2回 Lesson 1 地球温暖化と気候変動
- 第3回 Lesson 2 食習慣：長生きの為にスーパーフードを探す
- 第4回 Lesson 3 自動車運転の未来：座るだけで安全に目的地に到着
- 第5回 Lesson 4 生物多様性の都市開発
- 第6回 Lesson 5 3Dプリンターの医療利用
- 第7回 Lesson 6 ITと教育：発展途上国のタブレット利用
- 第8回 Lesson 7 免震構造：自然災害への備え
- 第9回 Lesson 8 ドローンの実用性
- 第10回 Lesson 9 ごみ問題を考える
- 第11回 Lesson 10 摂食障害：プラスサイズモデルの人気
- 第12回 Lesson 11 バーチャルリアリティ：期待される医療への応用
- 第13回 Lesson 12 観光開発と自然保護
- 第14回 Lesson 13 ウエアラブルの進化
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。
- ③ 授業中の携帯電話の使用を禁ずる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This course focuses on developing discussion and listening skills. Students will listen to short listenings on different topics each week. Students will discuss these topics in relation to their own experiences. Students will become familiar with the vocabulary and expressions associated with the individual topics.

教科書 /Textbooks

The instructor will provide the material.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Cinem Etiquette
Week 3: Cinema Etiquette
Week 4: Discussion test #1
Week 5: Young, British, Sober
Week 6: Young, British, Sober
Week 7: Discussion test #2
Week 8: Going where the work is
Week 9: Going where the work is
Week 10: Discussion test#3
Week 11: Showrooming
Week 12: Showrooming
Week 13: Project preparation#1
Week 14: Project preparation#2
Week 15: Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Listening tests 20%
discussion tests 20%
Homework 20%
Final Presentation 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must listen to teh required listetning material before coming to class.

英語VIII (律政群 2 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ
			ENG212F

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語Ⅶ). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
 The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語VIII (律政群 2 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書 /Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Welcome back! Let's talk about the summer vacation.
- 第 2 回 : Unit 7 - Title: Let's Celebrate! Lesson A.
- 第 3 回 : Unit 7, Lesson B.
- 第 4 回 : Unit 8 - Title: Storytelling. Lesson A.
- 第 5 回 : Unit 8, Lesson B.
- 第 6 回 : Unit 9 - Title: The World of Work. Lesson A.
- 第 7 回 : Unit 9, Lesson B.
- 第 8 回 : Unit 10 - Title: Telecommunications. Lesson A.
- 第 9 回 : Unit 10, Lesson B.
- 第 10 回 : Unit 11 - Title: Technology Today. Lesson A.
- 第 11 回 : Unit 11, Lesson B.
- 第 12 回 : Unit 12 - Title: Let's Go Somewhere! Lesson A.
- 第 13 回 : Unit 12, Lesson B.
- 第 14 回 : Christmas quiz.
- 第 15 回 : All outstanding work to be completed, exam explanation.

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意 /Remarks

英語VIII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Don't use phones in the class.

キーワード /Keywords

Education is the key to a better future.

英語VIII (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Conversations Volume 2 by Mark Mylson. Rising Sun Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The Great Kings
11. Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

NA

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

英語VIII (律政群 2 -D) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

英語VIII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, reading, writing and legal vocabulary skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding and communication in English.

教科書 /Textbooks

Akito Igarashi, The General History of Japan, NAN'UN-DO, and John P. Racine and Takayuki Nakanishi, Vocabulary for Law, NAN'UN-DO (Textbooks must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary and a USB flash drive.

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1Class Opening: Course Introduction
- 2Academic Writing – Writing an opening sentence, topic sentence, supporting sentences, concluding sentence, in-text citation, reference.
- 3The Azuchi-Momoyama Period (Part 1) – Reading, Vocabulary, Exercises, Legal Vocabulary
- 4Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Azuchi-Momoyama Period and the laws that were used during that period.
- 5The Azuchi-Momoyama Period (Part 2) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 6The Edo Period (Parts1and 2) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 7Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Edo Period and the laws that were used during that period.
- 8The Edo Period (Part 3) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 9The Edo Period (Part 4) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 10Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the last of the Edo Period and the laws that were used during that period.
- 11The Meiji Period (Part 1) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 12Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the first of the Meiji Period and the laws that were used during that period.
- 13The Meiji Period (Part 2) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 14The Meiji Period (Part 3) – Reading, Vocabulary, Exercises
- 15Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the end of the Meiji Period and the laws that were used during that period.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments 60% Quizzes and Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent. The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

none

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - 1 /Law and Politics Group 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VIII	ENG212F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にWords and Phrasesで記事に記載されている単語と熟語を確認し、Summaryで記事の内容を予想する。次に記事を読解し、Multiple ChoiceとTrue or Falseで理解度をチェックする。最後にVocabularyで記事に関連した語法を学ぶ。

[授業のねらい]

- (1)The New York Times, International Herald Tribune, The Associated press等の英字新聞から社会、文化、政治経済、言語、教育等のあらゆる分野を網羅した、身近な世界のニュースに触れ、楽しみながら、多角的且つ複眼的に英語力を培う。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

The Half-Edition of English through the News Media 『15章版 ニュースメディアの英語』 ￥1,200
編注者：高橋優身、伊藤典子、Richard Powell
出版社：Asahi Press
発行：2017年1月

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Leaks show how wealthy hide riches (Panama rejects money-launderer label after leak)
- 第3回 Unit 2 Comedian Matayoshi's literary win offers hope for sagging publishing industry
- 第4回 Unit 3 Russia's culture of sports cheating
- 第5回 Unit 4 Out of Africa I・II
- 第6回 Unit 5 Why Are Migrants in the Arctic, on Bikes? Path Leads to Europe
- 第7回 Unit 6 Drop dead, Japan! ' Mom fights on (Day care, birthrate problems stuck in vicious cycle)
- 第8回 Unit 7 iPS eye parts are created
- 第9回 Unit 8 Recognizing the Artifice in Artificial Intelligence
- 第10回 Unit 9 Icho leaks Japan's wrestling sweepwith historic fourth straight gold
- 第11回 Unit 10 Nobels in medicine and physics
- 第12回 Unit 11 Brexit and 'the special relationship' (Japanese firms in UK face uncertainly after Brexit vote)
- 第13回 Unit 12 Boko Haram turns female captives into weapons
- 第14回 Unit 13 Animals spy new enemy in sky: Drones
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。
- ③ 授業中のスマホ、及び携帯電話の使用を禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

中国語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ハウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営人律政群 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・ 40% 暗誦・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

中国語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 張 瑾 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

中国語Ⅶ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 張 瑾 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | 宮島と下関(会話) |
| 2回 | 第九課 | 練習 |
| 3回 | 第十課 | 九州(会話) |
| 4回 | 第十課 | 練習 |
| 5回 | 第十一課 | 福岡(会話) |
| 6回 | 第十一課 | 練習 |
| 7回 | 第十二課 | 佐賀(会話) |
| 8回 | 第十二課 | 練習 |
| 9回 | 第十三課 | 長崎(会話) |
| 10回 | 第十三課 | 練習 |
| 11回 | 第十四課 | 四国(会話) |
| 12回 | 第十四課 | 練習 |
| 13回 | 第十五課 | 仙台と北海道(会話) |
| 14回 | 第十五課 | 練習 |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

朝鮮語I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2010年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

朝鮮語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒョン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			朝鮮語Ⅲ
			KRN102F

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
 山谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語Ⅲ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいからですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요】【~지 못했어요】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...40% 会話テスト...20% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

朝鮮語VI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	● 朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	自己管理力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ
		KRN212F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
 ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回 体の具合を言う
- 10回 体の具合を言う
- 11回 体の具合を言う
- 12回 勉強の仕方を話す
- 13回 勉強の仕方を話す
- 14回 勉強の仕方を話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 40% 定期試験 40% 会話試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

システムマネジメント 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域に関する様々な専門知識に加え、情報技術に関する知識について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。
技能	専門分野のスキル	●	地域活動を行っていく上で必要とされる、情報技術に関する知識を活用する技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、情報技術に関する知識を活用しながら地域における社会活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報技術を活用する際の諸問題に対して、生涯にわたり常に高い関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システムマネジメント	BUS190M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域活動や仕事を行う際に欠かせないシステム活用の基礎知識について学習する。システムに関する知識が地域活動や業務上の問題解決に適用できることを理解し、利用者としての必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、グループディスカッションや個人ワークなどを通じて、システムを活用していく際の注意点を共有し、利用者としての正しい判断について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーション時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ディスカッションと発表【企業活動】
- 3回 ディスカッションと発表【法務】
- 4回 ディスカッションと発表【経営戦略】
- 5回 ディスカッションと発表【システム戦略】
- 6回 ディスカッションと発表【プロジェクトマネジメント】
- 7回 ディスカッションと発表【サービスマネジメント】
- 8回 ディスカッションと発表【システム開発】
- 8回 ディスカッションと発表【システム監査】
- 9回 ディスカッションと発表【基礎理論】
- 10回 ディスカッションと発表【コンピュータシステム】
- 11回 ディスカッションと発表【ヒューマンインターフェース】
- 12回 ディスカッションと発表【ネットワーク】
- 13回 ディスカッションと発表【セキュリティ】
- 14回 振り返り【システム利用者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（宿題レポートを含む） ... 60%
振り返りレポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。
授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、レポートにまとめて提出すること。

システムマネジメント 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、授業内容に関する宿題レポートを提出してもらい、グループディスカッションや発表、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加してほしい。受講生の興味関心や理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

ストラテジ マネジメント テクノロジ

キャリア学概論【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	キャリアに関する各種理論を理解し、実習や演習にてその知識を実践する方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	フィールドワークで学んだことを簡潔にまとめ、他のメンバーにもわかりやすくプレゼンテーションする力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	困難な課題に主体的・積極的に挑み、多様な人々と共同しながらそれを乗り越える力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり常に自己を省察し、今何をすべきかに気付き、実践し、リフレクションを行うことができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

キャリア学概論	CAR100M
---------	---------

授業の概要 /Course Description

<目的> 代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、地域創生学群の活動を、自らのキャリア形成に繋げます。なお、特に課題解決能力の獲得ができます。特にプレゼンテーション・スキルや創造力は驚くほど向上することを保証します。座学はほとんどありません。

<進め方> 形式は問題基盤型学習 (Problem-based-Learning) です。グループ単位で授業を進めます。課題はシナリオ【A】【B】【C】の3つがあります。

シナリオ【A】 授業内にシナリオ (課題) が与えられ、授業内でその課題をグループで解きます。
 シナリオ【B】 あらかじめ与えられたシナリオ (課題) に対し、授業時間外 (約2週間) に議論し、授業でプレゼンします。
 シナリオ【C】 最終プレゼンテーションの課題です。授業時間外 (約3カ月) に議論し、取材し、最終授業でプレゼンします。

<目標> 地域創生学群の活動を自らのキャリア形成につなげる理論を学び、それを日々実践することによって、自らの将来の課題も含めた「課題解決能力」を獲得すること。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

キャリア学概論【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

キャロル S.ドゥエック 『「やればできる」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』 草思社
 ○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所
 ○金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
 ○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版
 ○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房
 ○中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイアモンド社
 ○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』 ダイアモンド社
 ○高尾隆・中原淳 『Learning×Performance インプロする組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』 三省堂
 ○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社
 ○見館好隆 『「いっしょに働きなくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社
 ○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
 ○松尾睦 『「経験学習」入門』 ダイアモンド社
 児美川孝一郎 『キャリア教育のウソ』 筑摩書房
 ○デイヴィッド A.プライス 『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』 早川書房
 ○本田由紀 『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』 筑摩書房
 J.D.克蘭ボルト・A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイアモンド社
 ○赤尾勝己 『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』 世界思想社
 ○嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 ディスカヴァー・トゥエンティワン
 ○田尾雅夫 『モチベーション入門』 日本経済新聞社
 ○山崎亮 『コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる』 学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(キャリアとは?): この授業を履修すべきか?
 - 2回 【A】 クリエイティブ・シンキング: 創造力を培うには? (Part1)
 - 3回 【B】 キャリア・デベロップメント: 今何をすべきか?
 - 4回 【A】 働くことのこだわり: 自分の軸は何か?
 - 5回 【B】 成人教育学(大人の学び): 学生と社会人との学びの違いは?
 - 6回 【A】 パフォーマンスエスノグラフィー: わかりやすいプレゼンテーションとは?
 - 7回 【B】 働く理由/ワークモチベーション: なぜ働くのか?
 - 8回 【A】 インプロビゼーション: 創造力を培うには? (Part2)
 - 9回 【B】 企業内人材育成: 新人がすぐに辞めないようにするには?
 - 10回 【A】 リーダーシップ: チームやコミュニティのやる気を引き出すには?
 - 11回 【B】 計画された偶発性/セレンディピティ: 幸運に出会う確率を上げるには?
 - 12回 【A】 キャリア・アダプタリティ: 自分に合う仕事を探すのは間違い?
 - 13回 【B】 大学生のキャリア(大学生生活・就職活動): 内定を取るにはどうすればいいのか?
 - 14回 【A】 Connected Learning(接続された学習): 大学での学びを将来につなぐには?
 - 15回 【C】 最終プレゼンテーション: フィールドワークで何を学んだのか?
- ※期間中、フィールドリサーチを実施します。

※以下は学生自らが交渉して決定したシナリオ【C】のフィールドワーク先です。

【2016年度】北九州フィルムコミッション、ハローデイ、GRAN DA ZUR(グランダジュール)

【2015年度】いのちのたび博物館、九州朝日放送(KBC)、北九州エアターミナル、タンガテーブル、タカギ、スターフライヤー、北九州高速鉄道、ギラヴァンツ北九州、ベルコ北九州小倉支社

【2014年度】安川電機、井筒屋、スワロー、カフェカクタス、楽しい、Fコープ、スペースワールド、シダー、三木屋カフェ

【2013年度】TOTO、福岡テンジン大学、一生もんshop「緑々(あおあお)」、若者ワークプラザ北九州、北九州フィルムコミッション、ライプハウスWOW、ゼンリン、ナフコ、ヴィーナスイオン、EPO、トトスイリーゼ北九州、タウンモービルネットワーク北九州

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%

※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。

※授業および、授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチの参加が必須となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シナリオ【B】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。

シナリオ【C】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※1年次に1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キャリア学概論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の1年生の皆さんは、地域活動でいろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、地域活動への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げることを目的にしています。奮ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

地域文化論 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域文化に関する多様な考え方を理解することができる。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域社会で意欲的に活動できるように、地域文化に対する関心を高める。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 地域文化について、生涯にわたり常に高い関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域文化論

RDE213M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群では多くの場面で、地域活性化やまちづくりといった活動を行う機会が多い。その際、衰退しつつある地域社会において、他の地域に多く存在する財やサービスを提供しても意味がない。つまり、地域社会特有の「地域らしさ」をアピールする必要がある。その際、着目されるのが「地域文化」である。地域文化をいかに活用することによって、地域社会が良い方向に発展するのか、地域文化のあり方について再考するのが、本授業の1つの目的である。

もう一つは、地域社会に対する多様性の問題についての検討である。近年、社会が均質化していくことによって、特定の考え方や行動が一般的と思われ、異質な行動をとる者、異なる価値観を有する者等を地域社会から排除しようとするところがある。かつて、日本における伝統的社会においては、地域それぞれに根差した地域文化が存在し、多様性を確保していたが、価値観や考え方が近年均質化してきている。本授業では、地域文化という視点から、多様な価値観を有する社会についての考察を行うこととする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 なぜ地域文化を学ばなければならないのか？
- 第3回 地域文化は必要か - 地域づくり・まちづくりにおける2つの手法 -
- 第4回 新たな地域文化の創造 - 新たな「まち」を作る手法 -
- 第5回 地域資源を文化として利用する
- 第6回 川の文化と社会的弱者の排除①
- 第7回 川の文化と社会的弱者の排除②
- 第8回 川の文化と社会的弱者の排除③
- 第9回 地域社会の多様性を保つための地域文化
- 第10回 世界基準と日本の固有性
- 第11回 地域文化の保全と社会的包摂
- 第12回 まちづくりと食文化
- 第13回 総括と復習
- 第14回 レポート試験 (※レポート試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に行う試験(レポート試験も含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に示された自宅で行う課題(宿題)について、自分で調べ、小レポートとして提出して頂く。

地域文化論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は「文化」という名称がついているが、芸術や宗教、芸能、民話等には言及しないため、気を付けていただきたい。
また、本授業では地域文化とは何か？という本質的な「文化論」ではなく、「なぜ地域文化が必要なのか？」という点に重きを置いている。
つまり、地域文化を活用すること、または地域文化を生かすことで社会がどのように変化していくのかについて、詳細な解説を行うものである。

キーワード /Keywords

地域創生実習I (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 深谷 裕 / 地域戦略研究所, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
 主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 実習前指導
- 4～6回 実習
- 7回 実習の振り返り
- 8～14回 実習
- 15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 80%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習開始前までに、予め必要な資料を準備し、活動内容を理解しておくこと。
実習終了後には、活動の振り返りを行い、得られた学びをレポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その場合は、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動に取り組んでもらうことがある。その際には、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、デレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界隈のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。

実習では、基礎（1年次）→継続（2年次）→創造（3年次）とステップアップしていくことをイメージしてください。
2年生のみなさんは「継続」を意識しつつ、実践活動の継続、実践理論の習得、チームマネジメントに努めて下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)

第02回～第14回 実習活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%

授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) チームビルディング、地域内での事業・活動のマネジメントに関する書籍等を読んで、その方法論について学習しておいてください。

事後) 自分たちの活動による成果や効果、改善点等について学期末に振り返りを行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ルーチン活動をこなしつつ、新たな挑戦をして欲しいと願っています。そのために、とにかく足繁くまちにかようことで、まちの変化をつぶさに感じ取れる「感度」を身につけて欲しいと思います。

キーワード /Keywords

地域創生実習I (門司) 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

門司港 観光開発 商店街 地域との連携

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

地域創生力（社会人基礎力・ジェネリックスキル）を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
 本実習（猪倉）では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力（コミュニケーション能力）や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション
 第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的意欲・実習への貢献度：50%
 目標設定達成度・課題解決力（振り返り等によって評価）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

多くの課題活動が週末に実施されることが多いので、そのための準備や資料作り等の作業は、授業時間外の事前・事後学習として取り組んでもらう事になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (まちあるき) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

まちあるきを学び、実践し、そして科学する実習。
自らまちあるきの企画を立案し、そのクオリティを高めていく実習活動を行う。
まちあるきに関する文献の輪読、地域の徹底した調査分析を通して、知的好奇心をくすぐり、シビックプライドの向上、まちのにぎわいづくりにも寄与するようなまちあるきの実践活動を目指す。
そのほか、実習のルーティンワーク以外に企業等と連携したまちあるきに関連するプロジェクトの企画立案、実施も積極的に行う予定。その際は、プロジェクトのリーダーとしての役割も期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 茶谷幸治 (2012) 「まち歩き」をしかける: コミュニティ・ツーリズムの手ほどき」学芸出版社
その他、実習、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況: 30%
成果物: 40%
積極性: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

入念な事前学習(準備)と、実習(実践)の成果や課題を振り返り、次の実習(実践)に活かす事後学習が大切。
PDCA、プロジェクトマネジメント、チームビルディング等も意識した事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

履修者の習得状況や、企業等との連携によるプロジェクトの進捗状況により、実習の内容を一部変更する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活においても、多様な着眼点から、まちや地域をみることを通して、まちや地域に対する観察力を身に付けよう。

キーワード /Keywords

まちあるき、まちづくり、観光、PDCA、プロジェクトマネジメント、地域調査、インバウンド、シビックプライド

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動もありますので、通常の授業時間以外にもやるべき作業が多く存在します。一方で、忙しくて大変である半面、仲間とともに421Lab.で活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験の獲得につながります。関心のある人は、一度、421Lab.に来て、学生運営スタッフから話を聞いてみてください。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習I (モビリティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

これまでの「モビリティプロジェクト」で実施していた、駐輪マナー向上をめざした取り組みや、自転車のルールを楽しく学ぶイベント開催に加え、自転車だけでなく、バス、モノレール、路面電車、カーシェアなど都市を取り巻く包括的な交通モードを対象として、人々の交通行動をどう変えていくか、そのために効果的な方策は何かについて考えていきます。

実習では基礎的知識の習得（1年生）、実践的な活動（2年生）、応用力の展開（3年生）と各学年のステージにおいて「目標」をもって取り組んでいきます。

2年生の皆さんは中間学年としての責任感を持ち、活動が円滑に実施できる体制を構築することを意識しながら、マネジメント力の向上に努めてください。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（実習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第14回：実習活動の実践
- 第15回：総括（活動の振り返りと次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 事前・事後学習への意欲、姿勢・・・30%
- 授業に取り組む姿勢、態度・・・30%
- 実習活動への貢献度及び目標達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で指摘された課題について、その解決策一つ一つをチームで役割分担を決めて取り組むこと。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

モビリティは自らが体験することが必要不可欠です。常に利用者の視点に立って考えられるように、日頃から意識して交通手段を使い、まちの姿を観察してください。

地域創生実習I (モビリティ) 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生実習I (ガーベラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。北九州ESD協議会は全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げており、そのサポートを行います。特に2年次には、チームマネジメントを重視します。自分自身の活動の質向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

北九州市は起業家の育成を力を入れて取り組んでいます。中でも女性の活躍推進の一環で、女性の起業家支援に今後力を入れて取り組んでいます。女性起業家を支援する団体のサポートをしながら、女性の皆さんのシビックプライドの醸成、起業家育成に向けて活動をおこないます。特に2年次には、チームマネジメントを重視します。自分自身の活動の質向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。ESD(education for sustainable development・持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (食) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基本的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を正確に把握するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	目標に向けて協力的に活動を展開するチームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 I

RDE280M

授業の概要 /Course Description

"子ども食堂のお手伝い、食育、フードロス啓発活動、ご当地グルメのPRなど、食に関する様々な地域の問題に取り組みます。特に2年次には、チームマネジメントを重視します。自分自身の活動の質向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。ESD(education for sustainable development・持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。"

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぼうとしての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 深谷 裕 / 地域戦略研究所, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
 主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～11回 実習（実習期間中に中間振り返りを含む）
- 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 80%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習開始前までに、予め必要な資料を準備し、活動内容を理解しておくこと。
実習終了後には、活動の振り返りを行い、得られた学びをレポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外（土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その場合は、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動に取り組んでもらうことがある。その際には、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、テレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。

このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界隈のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。

実習では、基礎（1年次）→継続（2年次）→創造（3年次）とステップアップしていくことをイメージしてください。
2年生のみなさんは「継続」を意識しつつ、実践活動の継続、実践理論の習得、チームマネジメントに努めて下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
第02回～第14回 実習活動
第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) チームビルディング、地域における活動・事業のマネジメントに関する書籍等を読んで、その方法論について学習しておいてください。
事後) 自分たちの活動による成果や効果、改善点等について、学期末に振り返りを行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ルーチン活動をこなしつつ、新たな挑戦をして欲しいと願っています。そのために、とにかく足繁くまちにかようことで、まちの変化をつぶさに感じ取れる「感度」を身につけて欲しいと思います。

キーワード /Keywords

地域創生実習II (門司) 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

門司港 観光開発 商店街 地域との連携

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

地域創生力（社会人基礎力・ジェネリックスキル）を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。本実習（猪倉）では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力（コミュニケーション能力）や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション
 第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的意欲・実習への貢献度：50%
 目標設定達成度・課題解決力（振り返り等によって評価）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

多くの課題活動が週末に実施されることが多いので、そのための準備や資料作り等の作業は、授業時間外の事前・事後学習として取り組んでもらう事になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (まちあるき) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	●	常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

まちあるきを学び、実践し、そして科学する実習。
自らまちあるきの企画を立案し、そのクオリティを高めていく実習活動を行う。
まちあるきに関する文献の輪読、地域の徹底した調査分析を通して、知的好奇心をくすぐり、シビックプライドの向上、まちのにぎわいづくりにも寄与するようなまちあるきの実践活動を目指す。
そのほか、実習のルーティンワーク以外に企業等と連携したまちあるきに関連するプロジェクトの企画立案、実施も積極的に行う予定。その際は、プロジェクトのリーダーとしての役割も期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 茶谷幸治 (2012) 「まち歩き」をしかける: コミュニティ・ツーリズムの手ほどき」学芸出版社
その他、実習、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況 : 30%
成果物 : 40%
積極性 : 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

入念な事前学習(準備)と、実習(実践)の成果や課題を振り返り、次の実習(実践)に活かす事後学習が大切。
PDCA、プロジェクトマネジメント、チームビルディング等も意識した事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

履修者の習得状況や、企業等との連携によるプロジェクトの進捗状況により、実習の内容を一部変更する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活においても、多様な着眼点から、まちや地域をみることを通して、まちや地域に対する観察力を身に付けよう。

キーワード /Keywords

まちあるき、まちづくり、観光、PDCA、プロジェクトマネジメント、地域調査、インバウンド、シビックプライド

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回

オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておく必要があります。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動もありますので、通常の授業時間以外にもやるべき作業が多く存在します。一方で、忙しくて大変である半面、仲間とともに421Lab.で活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験の獲得につながります。関心のある人は、一度、421Lab.に来て、学生運営スタッフから話を聞いてみてください。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習II (モビリティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

これまでの「モビリティプロジェクト」で実施していた、駐輪マナー向上をめざした取り組みや、自転車のルールを楽しく学ぶイベント開催に加え、自転車だけでなく、バス、モノレール、路面電車、カーシェアなど都市を取り巻く包括的な交通モードを対象として、人々の交通行動をどう変えていくか、そのために効果的な方策は何かについて考えていきます。

実習では基礎的知識の習得（1年生）、実践的な活動（2年生）、応用力の展開（3年生）と各学年のステージにおいて「目標」をもって取り組んでいきます。

2年生の皆さんは中間学年としての責任感を持ち、活動が円滑に実施できる体制を構築することを意識しながら、マネジメント力の向上に努めてください。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（実習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第14回：実習活動の実践
- 第15回：総括（活動の振り返りと次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 事前・事後学習への意欲、姿勢・・・30%
- 授業に取り組む姿勢、態度・・・30%
- 実習活動への貢献度及び目標達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で指摘された課題について、その解決策一つ一つをチームで役割分担を決めて取り組むこと。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

地域創生実習II (モビリティ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

モビリティは自らが体験することが必要不可欠です。常に利用者の視点に立って考えられるように、日頃から意識して交通手段を使い、まちの姿を観察してください。

キーワード /Keywords

地域創生実習II (ガーベラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。北九州ESD協議会は全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げており、そのサポートを行います。特に2年次には、チームマネジメントを重視します。自分自身の活動の質向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

北九州市は起業家の育成を力を入れて取り組んでいます。中でも女性の活躍推進の一環で、女性の起業家支援に今後力を入れて取り組んでいます。女性起業家を支援する団体のサポートをしながら、女性の皆さんのシビックプライドの醸成、起業家育成に向けて活動をおこないます。特に2年次には、チームマネジメントを重視します。自分自身の活動の質向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。ESD(education for sustainable development・持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
 ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
 活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
 活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (食) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動に必要な基礎的知識を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域の抱える課題を分析するための方法論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて積極的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● リーダシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習 II

RDE281M

授業の概要 /Course Description

子ども食堂のお手伝い、食育、フードロス啓発活動、ご当地グルメのPRなど、食に関する様々な地域の問題に取り組みます。
 特に2年次には、チームマネジメントを重視します。自分自身の活動の質向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。
 ESD(education for sustainable development・持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
 ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
 活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
 活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 深谷 裕 / 地域戦略研究所, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
 主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 実習前指導
- 4～6回 実習
- 7回 実習の振り返り
- 8～14回 実習
- 15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (学び支援) 【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの指導的な立場として、チームを引っ張っていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決手法について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 80%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習開始前までに、予め必要な資料を準備し、活動内容を理解しておくこと。
実習終了後には、活動の振り返りを行い、得られた学びをレポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その場合は、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動に取り組んでもらうことがある。その際には、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、デレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界隈のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。
実習では、基礎（1年次）→継続（2年次）→創造（3年次）とステップアップしていくことをイメージしてください。
3年生のみなさんは「創造」を意識して、主体的かつ創造的な活動の展開、課題解決型事業の実施、実践理論に基づく地域マネジメントの実践に取り組んで下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
第02回～第14回 実習活動
第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 事業運営や経営に関する書籍等を読んで学習しておいてください。
事後) 学期末に活動に関する振り返りを行ってまいります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

チャレンジプログラムに挑戦していることを願っています。
もし、そうでない場合は、実習活動だけにとどまらず、どんなことでも良いので、新たな創造的活動に挑戦して欲しいと思います。

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (門司) 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの指導的な立場として、チームを引っ張っていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決手法について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

門司港 観光開発 商店街 地域との連携

地域創生実習Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

地域創生力（社会人基礎力・ジェネリックスキル）を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
本実習（猪倉）では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力（コミュニケーション能力）や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション
第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的意欲・実習への貢献度：50%
目標設定達成度・課題解決力（振り返り等によって評価）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

多くの課題活動が週末に実施されることが多いので、そのための準備や資料作り等の作業は、授業時間外の事前・事後学習として取り組んでもらう事になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (まちあるき) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

まちあるきを実践し、そして科学する実習。
 自らのまちあるきの企画のクオリティをより高めていく実習活動を行うとともに、自らのまちあるきの企画の特性を活かした更なる展開も視野に入れつつ、各自の興味関心等も鑑みながら、シビックプライドの向上、まちのにぎわいづくりにも寄与するような積極的な実習活動を実践する。
 また、実質的なチームのまとめ役でもあり、自らの経験を活かした下級生の実習のサポートも実習の大事なテーマとなる。
 そのほか、実習のルーティンワーク以外に企業等と連携したまちあるきに関連するプロジェクトの企画立案、実施も積極的に行う予定。その際は、プロジェクトのリーダーとしての役割も期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、各自のまちあるきのテーマや企業等と連携したプロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況：30%
 成果物：40%
 積極性：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

入念な事前学習（準備）と、実習（実践）の成果や課題を振り返り、次の実習（実践）に活かす事後学習が大切。
 PDCA、プロジェクトマネジメント、チームビルディング等も意識した事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

履修者の習得状況や、企業等との連携によるプロジェクトの進捗状況により、実習の内容を一部変更する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活においても、多様な着眼点から、まちや地域をみることを通して、まちや地域に対する観察力を身に付けよう。
 自らの将来の目標を常に念頭に置きながら、本実習での実践活動を行っていくことが大切。

キーワード /Keywords

まちあるき、まちづくり、観光、PDCA、プロジェクトマネジメント、地域調査、インバウンド、シビックプライド

地域創生実習Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておく必要があります。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

地域創生実習III (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動もありますので、通常の授業時間以外にもやるべき作業が多く存在します。一方で、忙しくて大変である半面、仲間とともに421Lab.で活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験の獲得につながります。関心のある人は、一度、421Lab.に来て、学生運営スタッフから話を聞いてみてください。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅲ (モビリティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

これまでの「モビリティプロジェクト」で実施していた、駐輪マナー向上をめざした取り組みや、自転車のルールを楽しく学ぶイベント開催に加え、自転車だけでなく、バス、モノレール、路面電車、カーシェアなど都市を取り巻く包括的な交通モードを対象として、人々の交通行動をどう変えていくか、そのために効果的な方策は何かについて考えていきます。

実習では基礎的知識の習得（1年生）、実践的な活動（2年生）、応用力の展開（3年生）と各学年のステージにおいて「目標」をもって取り組んでいきます。

3年生の皆さんは実習が円滑に実施できるよう下級生の指導を行うとともに、3年間の成果を広く発信することを目的に総括することに努めてください。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（実習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第14回：実習活動の実践
- 第15回：総括（活動の振り返りと次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 事前・事後学習への意欲、姿勢・・・30%
- 授業に取り組む姿勢、態度・・・30%
- 実習活動への貢献度及び目標達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で指摘された課題について、その解決策一つ一つをチームで役割分担を決めて取り組むこと。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

地域創生実習Ⅲ (モビリティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

モビリティは自らが体験することが必要不可欠です。常に利用者の視点に立って考えられるように、日頃から意識して交通手段を使い、まちの姿を観察してください。

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (ガーベラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要となる基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。北九州ESD協議会は全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げており、そのサポートを行います。
特に3年目では、チームと地域の関係性に関心を向け、自分たちの活動が地域の中でどのように位置付けているのか、また、どのような活動を展開することが重要なのか等の問題意識を持って活動していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

北九州市は起業家の育成を力を入れて取り組んでいます。中でも女性の活躍推進の一環で、女性の起業家支援に今後力を入れて取り組んでいます。女性起業家を支援する団体のサポートをしながら、女性の皆さんのシビックプライドの醸成、起業家育成に向けて活動をおこないます。特に3年目では、チームと地域の関係性に関心に向け、自分たちの活動が地域の中でどのように位置付けられているのか、また、どのような活動を展開することが重要なのか等の問題意識を持って活動していただきます。
ESD(education for sustainable development: 持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅲ (食) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の構築に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた事業を創造し、実践することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅲ

RDE380M

授業の概要 /Course Description

子ども食堂のお手伝い、食育、フードロス啓発活動、ご当地グルメのPRなど、食に関する様々な地域の問題に取り組みます。
 特に3年目では、チームと地域の関係性に関心を向け、自分たちの活動が地域の中でどのように位置付けているのか、また、どのような活動を展開することが重要なのか等の問題意識を持って活動していただきます。
 ESD(education for sustainable development・持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
 ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
 活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
 活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 深谷 裕 / 地域戦略研究所, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
 主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～11回 実習（実習期間中に中間振り返りを含む）
- 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの指導的な立場として、チームを支えていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、3年間の実習総括を行い、地域の問題点とその解決の在り方についてまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 80%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習開始前までに、予め必要な資料を準備し、活動内容を理解しておくこと。
実習終了後には、活動の振り返りを行い、得られた学びをレポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その場合は、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動に取り組んでもらうことがある。その際には、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、デレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生実習Ⅳ（広報）【昼】

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界隈のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。

実習では、基礎（1年次）→継続（2年次）→創造（3年次）とステップアップしていくことをイメージしてください。
3年生のみなさんは「創造」を意識して、主体的かつ創造的な活動の展開、課題解決型事業の実施、実践理論に基づく地域マネジメントの実践に取り組んで下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
第02回～第14回 実習活動
第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 事業運営や経営に関する書籍等を読んで学習しておいてください。
事後) 学期末に活動に関する振り返りを行ってまいります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後までやり切って下さい。

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ（門司）【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要となる基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの指導的な立場として、チームを支えていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、3年間の実習総括を行い、地域の問題点とその解決の在り方についてまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外（土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

門司港 観光地開発 商店街 地域との連携

地域創生実習Ⅳ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

地域創生力（社会人基礎力・ジェネリックスキル）を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
本実習（猪倉）では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力（コミュニケーション能力）や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション
第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的意欲・実習への貢献度：50%
目標設定達成度・課題解決力（振り返り等によって評価）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

多くの課題活動が週末に実施されることが多いので、そのための準備や資料作り等の作業は、授業時間外の事前・事後学習として取り組んでもらう事になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ (まちあるき) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

まちあるきを実践し、そして科学する実習。
 自らのまちあるきの企画のクオリティをより高めていく実習活動を行うとともに、自らのまちあるきの企画の特性を活かした更なる展開も視野に入れつつ、各自の興味関心等も鑑みながら、シビックプライドの向上、まちのにぎわいづくりにも寄与するような積極的な実習活動を実践する。
 また、実質的なチームのまとめ役でもあり、自らの経験を活かした下級生の実習のサポートも実習の大事なテーマとなる。
 そのほか、実習のルーティンワーク以外に企業等と連携したまちあるきに関連するプロジェクトの企画立案、実施も積極的に行う予定。その際は、プロジェクトのリーダーとしての役割も期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、各自のまちあるきのテーマや企業等と連携したプロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況：30%
 成果物：40%
 積極性：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

入念な事前学習（準備）と、実習（実践）の成果や課題を振り返り、次の実習（実践）に活かす事後学習が大切。
 PDCA、プロジェクトマネジメント、チームビルディング等も意識した事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

履修者の習得状況や、企業等との連携によるプロジェクトの進捗状況により、実習の内容を一部変更する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活においても、多様な着眼点から、まちや地域をみることを通して、まちや地域に対する観察力を身に付けよう。
 自らの将来の目標を常に念頭に置きながら、本実習での実践活動を行っていくことが大切。

キーワード /Keywords

まちあるき、まちづくり、観光、PDCA、プロジェクトマネジメント、地域調査、インバウンド、シビックプライド

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的事業を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておく必要があります。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動もありますので、通常の授業時間以外にもやるべき作業が多く存在します。一方で、忙しくて大変である半面、仲間とともに421Lab.で活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験の獲得につながります。関心のある人は、一度、421Lab.に来て、学生運営スタッフから話を聞いてみてください。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅳ (モビリティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

これまでの「モビリティプロジェクト」で実施していた、駐輪マナー向上をめざした取り組みや、自転車のルールを楽しく学ぶイベント開催に加え、自転車だけでなく、バス、モノレール、路面電車、カーシェアなど都市を取り巻く包括的な交通モードを対象として、人々の交通行動をどう変えていくか、そのために効果的な方策は何かについて考えていきます。

実習では基礎的知識の習得（1年生）、実践的な活動（2年生）、応用力の展開（3年生）と各学年のステージにおいて「目標」をもって取り組んでいきます。

3年生の皆さんは実習が円滑に実施できるよう下級生の指導を行うとともに、3年間の成果を広く発信することを目的に総括することに努めてください。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（実習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第14回：実習活動の実践
- 第15回：総括（活動の振り返りと次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 事前・事後学習への意欲、姿勢・・・30%
- 授業に取り組む姿勢、態度・・・30%
- 実習活動への貢献度及び目標達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で指摘された課題について、その解決策一つ一つをチームで役割分担を決めて取り組むこと。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

地域創生実習Ⅳ(モビリティ)【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

モビリティは自らが体験することが必要不可欠です。常に利用者の視点に立って考えられるように、日頃から意識して交通手段を使い、まちの姿を観察してください。

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ (ガーベラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。北九州ESD協議会は全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げており、そのサポートを行います。特に3年目では、チームと地域の関係性に関心に向け、自分たちの活動が地域の中でどのように位置付けられているのか、また、どのような活動を展開することが重要なのか等の問題意識を持って活動していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

北九州市は起業家の育成を力を入れて取り組んでいます。中でも女性の活躍推進の一環で、女性の起業家支援に今後力を入れて取り組んでいます。女性起業家を支援する団体のサポートをしながら、女性の皆さんのシビックプライドの醸成、起業家育成に向けて活動をおこないます。特に3年目では、チームと地域の関係性に関心を向け、自分たちの活動が地域の中でどのように位置付けられているのか、また、どのような活動を展開することが重要なのか等の問題意識を持って活動していただきます。
 ESD(education for sustainable development: 持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
 ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
 活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
 活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習Ⅳ(食)【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 事業実施に必要な基礎的方法論を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 課題解決に向けた事業の継続に必要な基本的実践理論を習得する。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 地域課題解決に向けた創造的実践を実践し、継続することができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会的責任を持って、主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 自ら目標を設定し、多様な主体を巻き込んだ活動を継続することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生実習Ⅳ

RDE381M

授業の概要 /Course Description

子ども食堂のお手伝い、食育、フードロス啓発活動、ご当地グルメのPRなど、食に関する様々な地域の問題に取り組みます。特に3年目では、チームと地域の関係性に関心を向け、自分たちの活動が地域の中でどのように位置付けているのか、また、どのような活動を展開することが重要なのか等の問題意識を持って活動していただきます。ESD(education for sustainable development・持続可能な開発のための教育)を意識しながら学修し、活動をします。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習Ⅰ【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● ボランティア実践の手法、スポーツ指導技術といった技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における社会活動に積極的に取り組む。
	社会的責任・倫理観	● 常識をふまえ主体的に行動する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向け協力的に役割を遂行しチームワークとリーダーシップを発揮する。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア実習Ⅰ HSS280M

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習Ⅰでは性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。また、考案したスポーツ種目のルールなどを小学校低学年の子供たちにグループ単位で実際に指導する。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと

スポーツ・ボランティア実習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
また、実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日等を含む）に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習II【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● ボランティア実践の手法、スポーツ指導技術といった技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における社会活動に積極的に取り組む。
	社会的責任・倫理観	● 常識をふまえ主体的に行動する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 目標に向け協力的に役割を遂行しチームワークとリーダーシップを発揮する。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア実習II HSS281M

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習IIはスポーツボランティア実習Iをふまえ幅広い年齢層やスポーツ種目に合わせた形で実際の指導や講習などを積極的に行っていく。スポーツボランティア実習Iのグループ学習から、個人の資質を高めることに重点を置き、地域のスポーツ指導やキッズスポーツ指導などを行う。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと

スポーツ・ボランティア実習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
また、実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日等を含む）に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動を行う上で必要とされるボランティア実践の手法、スポーツ技術といった技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会活動に積極的に取り組む。
	社会的責任・倫理観	● 社会人として常識をわきまえて主体的に行動する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 地域社会の中で他者との豊かな関係を築く能力を身につけ、目標に向け協力的に仕事を進めるチームワーク力とリーダーシップを発揮する。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア実習Ⅲ

HSS380M

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習によって、事前学習、実習計画の作成、実習、中間の反省と振り返り、最終の反省と振り返り、そして報告という型で実践力を磨いていく。主な内容はシニア世代の健康づくりや子供の（幼児から小学生）までの野球教室などの活動を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合は資料を配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への態度 50%
 取り組み方 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

スポーツ・ボランティア実習Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域活動を行う上で必要とされるボランティア実践の手法、スポーツ技術といった技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会活動に積極的に取り組む。
	社会的責任・倫理観	● 社会人として常識をわきまえて主体的に行動する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 地域社会の中で他者との豊かな関係を築く能力を身につけ、目標に向け協力的に仕事を進めるチームワーク力とリーダーシップを発揮する。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア実習Ⅳ

HSS381M

授業の概要 /Course Description

1学期間行った実習を継続して行うがさらに中身を充実させた形で実習に取り組みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合は資料を配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への参加態度 50%
目標の達成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に関連する情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

スポーツ・ボランティア実習Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツの指導技術の基礎を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における障害者スポーツ活動に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 障害者スポーツに不可欠なコミュニケーション力を身につける。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習 I

HSS282M

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験し、各種目のルールと競技特性、運動効果を理解する。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 学外授業への取り組み指導
- 3～4回 車椅子の基本操作
- 5～6回 マップの作成と評価
- 7～8回 車椅子で運動・スポーツ
- 9～10回 障害者スポーツ大会実施種目の体験
- 11～12回 学外授業(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで資格に関する説明を行いますので第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習II 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツ指導に必要なさまざまな技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における障害者スポーツ活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● コミュニケーション力、チームワーク力を発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習 II

HSS283M

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験を通じ、障害者スポーツの魅力を感じ取る。さらに、障害の特性と補装具、指導方法について学び、障害のある方のスポーツ活動をサポートする能力を養う。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～4回 レクリエーションスポーツ
- 5～10回 学外授業（北九州市障害者スポーツセンター主催教室）
- 11～12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題（レポートなど）・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また1学期に行った実習も復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。また、本講義は、「障害者スポーツ実習I」から引き続き学外実習を継続していきます。したがって、「障害者スポーツ実習I」を履修した上で、受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員（初級・中級）」資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツ指導に必要な技術を身につけ、向上させることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における障害者スポーツ活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会人として常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション力を高め、チームワーク力とリーダーシップを発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習Ⅲ

HSS382M

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted（適応・応用）」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、全国障害者スポーツ大会の実施競技についても理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	ポッチャ【重度障害者】【脳性麻痺】
3回	ベタンク【重度障害者】
4回	陸上競技①【車いす競技】【スラローム】
5回	陸上競技②【投てき】【伴走】
6回	卓球【サウンドテーブルテニス】
7回	フライングディスク【視覚障害の体験】【肢体障害の体験】
8回	水泳①【障害者に合わせた指導】
9回	水泳②【障害者に合わせた指導】
10～13回	学外実習
14回	障害者アスリート講演・実技体験
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習（平常授業）への取り組み・・・50% 課題（レポートなど）・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また、2年次の実習活動を再度復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に取り組んでもらいます。実習6時間以上、水泳3時間は必修です。障害者スポーツ実習Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。もし履修していない場合は、本講義を履修登録する前に相談に来てください。

障害者スポーツ実習Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員（中級）」の資格関連科目になります。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 障害者スポーツ指導に必要な技術を身につけ、継続的に向上させることができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における障害者スポーツ活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	● 社会人として常識をわきまえて主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 多様な他者とのコミュニケーション力を高め、チームワーク力とリーダーシップを発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ実習Ⅳ	HSS383M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted（適応・応用）」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、学外実習を主として活動する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学外実習に向けたガイダンス
- 2～3回 学外実習に関する講義【企画・立案】
- 4～12回 学外実習（水泳実習、障がい児スポーツ教室、各種障がい者スポーツイベント運営・参加）
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習（平常授業）への取り組み・・・30%、課題（レポートなど）・・・20%、その他の実習への積極的な参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また、2年次、さらに3年次1学期に行った実習を復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に取り組んでもらいます。また、学外実習を主としますので、「障害者スポーツ指導論」「障害者スポーツ各論」「障害者スポーツ実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を履修し、障害者スポーツに関して知識を有するものが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は、「障害者スポーツ指導員（中級）」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。また、学外実習を主としますので、これまでに障害者スポーツに関する科目の履修がないもの、単に単位取得のために本実習を履修することはやめてください。

キーワード /Keywords

相談援助実習 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 深谷 裕 / 地域戦略研究所
寺田 千栄子 / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 3年次 単位 6単位 学期 集中 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉士としての総合的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 対象者に対して、多面的な視野から状況を判断し、対象者の抱える問題の本質を見抜くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 多様な対象者と関われるようになる。
	社会的責任・倫理観	● 社会福祉士としての倫理綱領に基づいて、自らの実践を振り返ることができるようになる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 実践的な対人援助職としてのコミュニケーションができるようになる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習

SOW382M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育内容に基づいて構成される実習科目である。そのため、社会福祉施設及び機関での現場実習での学びについて、次に掲げる3点を大きなねらいとする。

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

連携科目「相談援助実習指導 1・2」において、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間は180時間以上である。

社会福祉施設・機関において、23日間（1日8時間）以上の実習を行う。

実習内容は職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習から構成される。

実習期間中は、実習先での実習指導者及び担当教員による指導、そして大学にて実施する帰校日指導を受ける。

詳細については、「相談援助実習指導 1」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習先による実習評価・・・50%、教員による実習評価・・・50%

なお、本科目は「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかのみ単位認定は行わない。そのため、本科目の実習評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、これまで大学で学んできた内容をしっかりと振り返りましょう。事後学習としては、実習中に作成した実習ノートを元に、実習中に感じた疑問点などについて振り返り、自己学習を進めましょう。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設や機関での実習となる。当然のことながら、社会人としての基本的マナーなどはできるように自己学習に励んでいただきたい。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士を取得するための重要な科目です。現場での実習で皆さんが困らないように、全力でサポートします。一緒にがんばりましょう。

相談援助実習【昼】

キーワード /Keywords

社会福祉士

地域創生基礎演習 A 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 他者に伝える能力の基礎を修得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習活動時に他者の話を聞いて理解する能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習 A

SEM111M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群で学修をすすめていくために必要な考え方や技術、チーム形成を学びます。また、ポートフォリオの書き方をレクチャーしつつ、自己の目標設定やセルフマネジメントの手法を学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回オリエンテーション
- 第02回実習の意義と取組み姿勢等
- 第03回ポートフォリオ1
- 第04回ポートフォリオ2
- 第05回社会人としてのマナー
- 第06回アセスメント実施
- 第07回情報機器の操作のマナー
- 第08回図書館の利用方法
- 第09回ハラスメントについて
- 第10回会議・MTGの行い方
- 第11回チラシの作り方①
- 第12回栄養管理、生活管理
- 第13回チラシの作り方②
- 第14回レポートの書き方
- 第15回半期振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組み課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

地域創生基礎演習 A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細スケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、地域創生学群で学んでいくために必要な知識、技術とは何かについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 深谷 裕 / 地域戦略研究所, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップを、グループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 実践報告1、ディスカッション
- 3回 実践報告2、ディスカッション
- 4回 実践報告3、ディスカッション
- 5回 実践報告4、ディスカッション
- 6回 実践報告5、ディスカッション
- 7回 実践報告6、ディスカッション
- 8回 実践報告7、ディスカッション
- 9回 実践報告8、ディスカッション
- 10回 実践報告9、ディスカッション
- 11回 実践報告10、ディスカッション
- 12回 実践報告11、ディスカッション
- 13回 実践報告12、ディスカッション
- 14回 実践報告13、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50 %
 積極的な演習への参加 (指導的実習プログラムへの取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習・事後学習については、随時課題等を出していきますのでしっかりと取り組んでください。履修が始まる前には、第1学期で学んだ内容を復習しておきましょう。履修後には、2年生にむけて学んだ内容を復習しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生基礎演習B (コミュニティ) 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、「子どもの学び」支援プロジェクト活動を実施しながら、プロジェクト全体とそのマネジメントについて、1学期から続くチームの一員としての立場から振り返る。また、地域の現状と課題についてチームで議論を行う過程の中で、課題発見の方法論を学習する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 地域活動報告とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 80%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め必要な資料を準備し、活動内容を振り返っておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを整理し、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返る。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題に取り組んでもらうことがある。その際には、積極的に参加してほしい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生基礎演習B (広報) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、デレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

そして、実習(実践)の成果や課題をしっかりと振り返り、次の実習(実践)に活かしていきます。

定期的なもの、不定期なもの、いずれかのミーティングや、担当教員との面談を通じて行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生基礎演習B（広報）【昼】

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (小倉) 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

主に小倉活性化プロジェクトで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 オリエンテーション
第02回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度...50%
積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) とにかく小倉のまちに関する様々な情報に触れておいてください。
事後) 毎回のmtgでの指摘事項が何を意味しているのか、しっかりと振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やりっ放しではは良くありません。
活動に対して、こまめな振り返りと改善を行うことで、活動の質を高めていくことを意識しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (門司) 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、門司商店街活性化プロジェクトの活動を実施しながら、プロジェクト全体とそのマネジメントについて、1学期から続くチームの一員としての立場から振り返る。また、地域の現状と課題についてチームで議論を行う過程の中で、課題発見の方法論を学習する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 地域活動報告とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 70%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返る。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作してほしい。

キーワード /Keywords

門司港 観光開発 商店街 地域との連携

地域創生基礎演習B (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

(本授業特有の視点)

- ・ 地域において大学生としてできる事は何かを考え、自分なりの答えを導き出す。
- ・ なぜ、大学が授業科目として単位をだして地域活動をしているのかを考え、理解すること。
- ・ 地域と大学の望ましい関係性はどのようなものかを考える。
- ・ 実習活動とその他の座学の授業との関連性について理解すること。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 実践報告1、ディスカッション
- 3回 実践報告2、ディスカッション
- 4回 実践報告3、ディスカッション
- 5回 実践報告4、ディスカッション
- 6回 実践報告5、ディスカッション
- 7回 実践報告6、ディスカッション
- 8回 実践報告7、ディスカッション
- 9回 実践報告8、ディスカッション
- 10回 実践報告9、ディスカッション
- 11回 実践報告10、ディスカッション
- 12回 実践報告11、ディスカッション
- 13回 実践報告12、ディスカッション
- 14回 実践報告13、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度...50%
積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

多くの課題活動が週末に実施されることが多いので、そのための準備や資料作り等の作業は、授業時間外の事前・事後学習として取り組んでもらう事になる。

地域創生基礎演習B（猪倉）【昼】

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。
地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (まちあるき) 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

まちあるきを体験し、学び、実践し、そして科学する実習。
次年度において、自らのまちあるきの企画を、立案、実施できるようにするための基礎的な実習活動を行う。
まちあるきに関する文献の輪読、上級生あるいは他の主体が実践しているのまちあるきの体験や補助等を通して、まちあるきの全体像を把握し、グループによるまちあるきの企画立案を目指す。
そのほか、実習のルーティンワーク以外に企業等と連携したまちあるきに関連するプロジェクトの企画立案、実施も積極的に行う予定。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 茶谷幸治 (2012) 「まち歩き」をしかける: コミュニティ・ツーリズムの手ほどき」学芸出版社
その他、実習、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況：40%
成果物：30%
積極性：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

入念な事前学習(準備)と、実習(実践)の成果や課題を振り返り、次の実習(実践)に活かす事後学習が大切。
PDCA、プロジェクトマネジメント、チームビルディング等も意識した事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

履修者の習得状況や、企業等との連携によるプロジェクトの進捗状況により、実習の内容を一部変更する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活においても、多様な着眼点から、まち、地域をみることを通して、まちや地域に対する観察力を身につけよう。

キーワード /Keywords

まちあるき、まちづくり、観光、PDCA、プロジェクトマネジメント、地域調査、インバウンド、シビックプライド

地域創生基礎演習 B (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回
オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動もありますので、通常の授業時間以外にもやるべき作業が多く存在します。一方で、忙しくて大変である反面、仲間とともに421Lab.で活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験の獲得につながります。関心のある人は、一度、421Lab.に来て、学生運営スタッフから話を聞いてみてください。

地域創生基礎演習 B (421Lab.) 【昼】

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。
当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。
ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

2年次以降にスポーツボランティア実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

地域創生基礎演習B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2年次以降にスポーツボランティア実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (モビリティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

主にモビリティプロジェクトで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップについてグループワーク等を交えながら、受講者全員で考えていきます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第14回：実習活動の報告、グループディスカッション
- 第15回：総括 (次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 事前・事後学習への意欲、姿勢・・・ 30%
- 授業に取り組む姿勢、態度・・・ 30%
- 演習活動への貢献度及び目標達成度・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で指摘された課題について、その解決策一つ一つをチームで役割分担を決めて取り組むこと。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (ガーベラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 大木 えりか / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

指導的実習I・IIの活動の振り返りとしての位置づけとなります。実践活動を振り返り、成果と課題を抽出し、言語化概念化を図ります。そして、今後の活動につなげます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと振り返り
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
 ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
 活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
 活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域活動はただすればよいということではありません。常にその質を向上させていくために、振り返りの機会は非常に重要です。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

指導的実習I・IIの活動の振り返りとしての位置づけとなります。実践活動を振り返り、成果と課題を抽出し、言語化概念化を図ります。そして、今後の活動につなげます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域活動はただすればよいということではありません。常にその質を向上させていくために、振り返りの機会は非常に重要です。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (食) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 蓮本 浩介 / Kosuke Hasumoto / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 地域創生学群で学ぶ上での学習スキル・マナー等の基礎を確立する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 実習等の活動内容を的確に報告する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	● 自分に与えられた役割を明確に把握する能力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に誤解を生まない情報伝達力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習B

SEM112M

授業の概要 /Course Description

指導的実習I・IIの活動の振り返りとしての位置づけとなります。実践活動を振り返り、成果と課題を抽出し、言語化概念化を図ります。そして、今後の活動につなげます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜関連する書籍を提示します。基本的には自分自身で書籍から知識を吸収してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミーティング前/関連する情報を書籍やインターネットで調べてください。
ミーティング後/指摘事項を再検討して、更に調査や検討を深めてください。
活動前/毎回の活動目標を立て、それを意識して活動してください。
活動後/活動後には、活動目標に対してどうだったのかをしっかりと振り返ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は「してやっている」という気持ちは絶対に禁物です。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域活動はただすればよいということではありません。常にその質を向上させていくために、振り返りの機会は非常に重要です。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、子どもが抱える今日的課題や関連領域について、社会福祉、精神保健福祉、教育、心理など様々な視点から考えを深めていきます。また、それに対する制度や実際の取り組みなどについても幅広く学びます。これらを整理し検証するなかから、新たな発見を得ることで研究する力の基礎を養っていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
 第2～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
 積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、子どもが抱える今日的課題に関しての新聞記事やニュースに関心を持ち情報を収集するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、ファシリテーションについて学習し、チームで話し合いを行う際の問題点と解決方法を共有する。また、子どもを中心とした多世代コミュニティづくりを目的とするプロジェクトについて議論する。それらの過程において、チームの相互理解や情報共有、問題解決、新アイデア創出などを促進するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

選定中、オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『プロジェクトマネジメント 理論編』(浅見淳一著、中嶋秀隆監修) 総合法令出版
- 『プロジェクトマネジメント 実践編』(中憲治著、中嶋秀隆監修) 総合法令出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 60%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。

キーワード /Keywords

ファシリテーション プロジェクトマネジメント 子どもを中心とした多世代コミュニティ

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習ではゲーミフィケーションの基礎を学習します。これにより、地域活動のゲーミフィケーションの観点からの分析、および、地域をよりよくする取り組みへの適用を目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 ゲーミフィケーションの基礎
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した教科書を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。

ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴、近況報告スピーチ
- ・ 物事を分析するための基礎を学ぶ
→好きなもの研究、変なもの研究
- ・ まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 実習発表
→所属している実習での活動内容報告

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
- 事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施すること等があります。

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

都市解析、リノベーション

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

講師との人間関係づくり、基礎的な資料・文献調べの力を身につけることを目的とする。門司港の過去・現在・未来をテーマにグループワークを積み重ねて各自の研究方法をみがいていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2回～14回	発表とディスカッション
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢	50%
積極的な参加	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

前向きな参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本授業は、以下の2つの事を柱に実施する。

- ① E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫の輪読を行う。
論理的思考力、読解力を鍛えるとともに、現代社会の在り方や見方について考えを深める。
「豊かさとは何か」「社会はどうあるべきか」など、現代社会の根本的な問いについて、自身の意見や価値観を構築するとともに、基礎的なアカデミックスキルの獲得を目指す。
 - ② 日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化
履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な基礎的研究をする。
- 各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。
ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。
- なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。
①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。
②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

教科書 /Textbooks

E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫。
神谷由紀子他（2014）『フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く（文化とまちづくり叢書）』水曜社。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

平松紘（2002）『ウォーキング大国イギリス - フットパスを歩きながら自然を楽しむ-』明石書店。

地域創生基礎演習C 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
 第2回：テキストの輪読・フットパスに関するグループディスカッション①
 第3回：テキストの輪読②・フットパスに関するグループディスカッション②
 第4回：テキストの輪読③・フットパスに関するグループディスカッション③
 第5回：テキストの輪読④・フットパスに関するグループディスカッション④
 第6回：テキストの輪読⑤・フットパスに関するグループディスカッション⑤
 第7回：テキストの輪読⑥・フットパスに関するグループディスカッション⑥
 第8回：テキストの輪読⑦・フットパスに関するグループディスカッション⑦
 第9回：テキストの輪読⑧・フットパスに関するグループディスカッション⑧
 第10回：テキストの輪読⑨・フットパスに関するグループディスカッション⑨
 第11回：テキストの輪読⑩・フットパスに関するグループディスカッション⑩
 第12回：テキストの輪読⑪・フットパスに関するグループディスカッション⑪
 第13回：テキストの輪読⑫・フットパスに関するグループディスカッション⑫
 第14回：テキストの輪読⑬・フットパスに関するグループディスカッション⑬
 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への貢献度（積極性等）：30%
 専門的知識の習得度：30%
 授業時間に報告・発表・振り返りを行う際の準備の丹念さ：40%（※1）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。
 また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

そのため、フットパスづくりの実践や輪読するテキストに関連する書籍等を主体的にかつ積極的にを行うことを強く推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

ゼミでは、経営学の知見、理論を援用しながら、社会的課題への対応を考えていきます。
具体的には、(1) 経営学の基礎的知識の習得、(2) 社会的課題に対する従来の取り組みに関するレビュー、
そして、(3) ソーシャルビジネスに関連する先端理論や実践的知見について学習します。

教科書 /Textbooks

ゼミのなかで適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミのなかで適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第15回 輪読、議論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献と課題の評価にて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ゼミでの議論、学習を深めるための予習、および、関連する分野の文献研究。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学、社会的課題の解決

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

ゼミでチームを組んで進めていくうえでチームの相互理解や情報の共有を保ちながら問題を解決していくことや新たな発想を創造していくために必要な考え方や行動を学ぶ。
 1学期にはシニア向け健康づくり教室も行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
 2回～14回 発表とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢 50%
 積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

実習で浮上してきたさまざまな問題をゼミの場に提示し、議論を通じながらその解決方法について考えていく。本ゼミでは、チームワークやコミュニケーションを重視し、学習していく。また、各自順番に発表を行い、プレゼンテーション能力の向上も目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～14回 発表とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
 積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、デレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

そして、実習(実践)の成果や課題をしっかりと振り返り、次の実習(実践)に活かしていきます。

定期的なもの、不定期なもの、いずれかのミーティングや、担当教員との面談を通じて行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと振り返り
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
 また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生基礎演習C 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で課せられた学習課題に対する基礎的な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられた学習課題で何が問題となっているかを理解する。
	プレゼンテーション力	● 他者に正確に情報を伝達する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす思考様式を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 集団行動や実習の際に、正確な情報交換ができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習C

SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わること必要なまちの形態はどのようなものかについて理解を深めていきます。その準備段階として都市の現状課題を分析するための「都市の読み方」の手法について学び、その応用力を試すためのレポートを課します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（演習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第4回：「都市の読み方」基礎論、データ分析の手法
- 第5回～第8回：「都市の読み方」応用論、自分の出身地について都市分析を行い発表する
- 第9回～第14回：グループディスカッション
- 第15回：総括（次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 事前・事後学習への意欲、姿勢・・・30%
- 授業に取り組む姿勢、態度・・・30%
- 演習の目標達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、子どもが抱える今日的課題とその支援の方法について、社会福祉、精神保健福祉、教育の視点から考えを深めていきます。また、アセスメント力やコミュニケーション力など、支援に求められる力についても幅広く学びます。これらを整理し検証するなかから、新たな発見を得ることで研究する力の基礎を養っていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、子どもが抱える今日的課題に関しての新聞記事やニュースに関心を持ち情報を収集するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、リーダーシップについて学習し、チームで活動する際の問題点と解決方法を共有する。また、子どもを中心とした多世代コミュニティづくりを目的とするプロジェクトについて議論する。それらの過程において、チームワークを引き出し、チームの成果が最大となるように支援するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

選定中、オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 60%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後は、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作してほしい。

キーワード /Keywords

リーダーシップ ミッション 行動指針 プロジェクトマネジメント 子どもを中心とした多世代コミュニティ

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iで経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 実践活動の検証とフィードバック
- 4回～ 14回 ストラテジに関する書籍の輪読とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、学習する内容に関係する用語の理解を深めてください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、内容の理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。

ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴、近況報告スピーチ
- ・ 物事を分析するための基礎を学ぶ
→好きなもの研究、変なもの研究
- ・ まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 実習発表
→所属している実習での活動内容報告

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。

事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

地域創生基礎演習D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外（土曜日や日曜日を含む）にフィールドワークなどの調査活動を実施すること等があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

都市解析、リノベーション

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

講師との人間関係づくり、基礎的な資料・文献調べの力を身につけることを目的とする。門司港の過去・現在・未来をテーマにグループワークを積み重ねて各自の研究方法をみがいていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2回～14回	発表とディスカッション
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

配布されたプリント等は毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習授業は、「地域創生基礎演習C」において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。はそのために、以下の2つの事を柱に実施する。

①各自テーマを設定し、「文章修業」を実施する。
つまり、自分で本を一冊選び、その本の内容の解説、それに対する自分の意見（特に批判的思考力の向上を目指す）をまとめる。文章作成能力と専門書の読解力の向上を目指す。
受講生が自らテーマを設定し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。

②日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を通じた「地域活性化モデルの仮説づくり」。
履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な応用研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。
ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、各自の興味ある分野の書籍の読書、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）

第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論・フットパスに関するグループディスカッション

第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極性等）：30%

専門的知識の習得度：30%

授業時間に報告・発表・振り返りを行う際の準備の丹念さ：40%（※1）

地域創生基礎演習D 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。
また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

そのため、フットパスづくりの実践や輪読するテキストに関連する書籍等を主体的にかつ積極的に行うことを強く推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

ゼミでは、経営学の知見、理論を援用しながら、社会的課題への対応を考えていきます。
具体的には、(1) 経営学の基礎的知識の習得、(2) 社会的課題に対する従来の取り組みに関するレビュー、
そして、(3) ソーシャルビジネスに関連する先端理論や実践的知見について学習します。

教科書 /Textbooks

ゼミのなかで適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミのなかで適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第15回 輪読、議論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献と課題の評価にて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ゼミでの議論、学習を深めるための予習、および、関連する分野の文献研究。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学、社会的課題の解決

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Dでは卒業論文・卒業実践報告の作成にむけ、どのようにテーマを見つけていくのか。また、文献調査や関係者からの聞き取り調査などを行う。
 2学期中にシニア向け健康づくり教室を行います。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関心のある事例をあげてみる
- 2回 スポーツ指導者について
- 3回 スポーツをとおした地域貢献について 1
- 4回 スポーツをとおした地域貢献について 2
- 5回 スポーツをとおした地域貢献について 3
- 6回 スポーツ実施者の問題点について 1
- 7回 スポーツ実施者の問題点について 2
- 8回 スポーツ実施者の問題点について 3
- 9回 データの収集 1
- 10回 データの収集 2
- 11回 データの収集 3
- 12回 データの分析 1
- 13回 データの分析 2
- 14回 データの分析 3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
 積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

配布されたプリント等は毎回持参すること

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Dでは、卒業論文・卒業実践報告に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方
- 3回～7回 データの収集・分析
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 データの収集・分析
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
演習への積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

地域創生学群の実習は、地域創生学群で学習を深めていくための基礎的な能力、技術、考え方、行動規範などを学びます。その学び方としては、あるテーマに基づき、学習と実践の往還をしながら学んでいきます。学習に関しては、教員が直接指導するというよりは、先輩学生から学んだり、自分で学びを深めていくことが多いと考えてください。また、実践は、ルーティンワークとプロジェクトを同時並行させることが特徴です。豊富な経験を積みながら、学びと実践の質を圧倒的に高めていきます。

広報実習は、オープンキャンパス等の広報イベント企画実施、WEBサイトや地創事書のような広報メディアの制作を中心に活動していただきます。

能力としては、コミュニケーション能力、チームビルディング、デレクション等を学びます。

技術としては、プレゼンテーション、HTML、デザイン、イベントプランニング等を獲得します。

考え方としては、ホスピタリティや、マーケティング志向などを学びます。

行動規範としては、人の人生にかかわることの重要性等を学びます。

以上のように、広報という機会を通じて、様々な学びと実践を経験します。

そして、実習(実践)の成果や課題をしっかりと振り返り、次の実習(実践)に活かしていきます。

定期的なものの、不定期なもの、いずれかのミーティングや、担当教員との面談を通じて行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生基礎演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	各演習で取り上げられているテーマに関し、自らの関心分野を絞り込むための知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で課せられたテーマで何が問題となっているかを理解し、整理する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者からの批判を正確に理解する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	演習で得た知見を、実習等の現場で生かす具体的な方策を策定できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互に有益な議論が展開できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生基礎演習D

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わること必要なまちの形態はどのようなものか、などについて既往文献や研究論文を輪読することで理解を深めていきます。さらに次年度以降に各自が本格的に取り組む卒業論文のテーマについて各自が頭出しをし、受講生全員で議論します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤井聡他 (2015) 『モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略』
 中村文彦 (2016) 『バスでまちづくり-都市交通の再生をめざして』
 など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス（演習の目的や活動方針の説明）
 第2回～第11回：参考文献の輪読・グループディスカッション
 第12回～第14回：卒論テーマの頭出し
 第15回：総括（次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習への意欲、姿勢・・・30%
 授業に取り組む姿勢、態度・・・30%
 演習の目標達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、マネジメントの基礎と原則について学習し、地域が抱える課題を共有する。また、子どもを中心とした多世代コミュニティ実現に向けて、マネジメントの視点から可能なアプローチについて議論する。それらの過程において、組織全体をマネジメントするために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

選定中、オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 60%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。その際には、地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。

キーワード /Keywords

マネジメント マーケティング イノベーション プロジェクト 子どもを中心とした多世代コミュニティ

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

地域創生実習I、IIで経験した事柄や問題を持ち帰り、戦略思考（ストラテジ）をもとにしたディスカッションを通じて、地域が抱える課題の発見を目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での具体的なテーマや方向性を決定することを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakション
- 2回～ 14回 ストラテジに関するディスカッションとそれに関するテーマの学習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、学習する内容、用語などを自分で調べてから臨んでください。
授業後は、演習中のディスカッションを踏まえて、内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

ゼミでは、経営学の知見、理論を援用しながら、社会的課題への対応を考えていきます。具体的には、(1) 経営学の基礎的知識の習得、(2) 社会的課題に対する従来の取り組みに関するレビュー、そして、(3) ソーシャルビジネスに関連する先端理論や実践的知見について学習します。

教科書 /Textbooks

ゼミのなかで適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミのなかで適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第15回 輪読、議論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献と課題の評価にて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ゼミでの議論、学習を深めるための予習、および、関連する分野の文献研究。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学、社会的課題の解決

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市のスポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成する。その年度によって計画が大きく変更されることは大いに予想されます。各年度に特徴をもった年間計画（長期的指導プラン）や数か月単位ごとに行う（短期的指導プラン）・シーズンスポーツも含めて計画していく。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 1
- 2回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 2
- 3回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 1
- 4回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 2
- 5回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 6回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 7回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 8回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 9回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 10回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 1 1回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 1 2回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 1 3回；組織の在り方を議論する
- 1 4回；組織の在り方を議論する
- 1 5回；2学期へのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・ 60%
 達成度・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

地域創生演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

常日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。
スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指し、わが国のスポーツ基本計画や北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた概要や定義、現状を踏まえ、学生自身で工夫し、議論を重ね、より専門的な知識を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～5回 わが国のスポーツ政策動向
- 6～12回 実習活動を振り返り、地域の課題(問題)を各自発表・ディスカッション
- 13～15回 卒論の書き方指導

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に取り組む姿勢・・・50%
 発表およびディスカッション・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域における福祉的課題や関連領域について、社会福祉、精神保健福祉、教育、心理など様々な視点から考えを深めていきます。地域創生演習 A においては、このための実践的理論を習得することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%

積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、地域における福祉的課題に関する新聞記事やニュースに関心を持ち情報を収集するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

3年次のテーマは「まちの課題を抽出し、課題解決の方法を考え実践する」です。ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 多くの事例に学ぶ
→ 輪読、メルマガ購読
- ・ 発想の転換を図る
→ 動画視聴、ディスカッション
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→ フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 都市解析手法を学び実践する
→ レクチャー、フィールドワーク、プレゼン
- ・ 実習報告
→ 所属している実習の内容を報告し、ディスカッションを行う
(番外編)
→ チャレンジプログラムに挑戦する

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～14回 上述の内容に取り組む【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関連して課された課題にしっかりと取り組んでください。
事後) 毎回受けた指摘をふまえ、しっかりと復習してください。

地域創生演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動等を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

北九州市の課題の発見をテーマに学生中心の議論（グループワーク）を発展させていく。各自の問題意識を深めながら、応用的な文献・資料調べの力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2回～14回 発表とディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢 50%
積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習授業は、以下の2つの事を柱に実施する。

① 卒論執筆に向けた、高度な学術的思考・アカデミックスキルの習得を目指す。

夏季休業中に他のゼミと共同でゼミ合宿を実施し、そのゼミ合宿で論文報告を実施する。そのための論文執筆のために各自の興味・関心に基づく「文章修行」を実施する。

② フットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を身に付け、フットパスづくりの教育的役割を担う

履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的に研究しつつ、地域や後輩たちへ「フットパス」の普及・推進を行うこと。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。

ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践およびフットパスづくりにおける指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

地域創生演習 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション①
- 第3回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション②
- 第4回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション③
- 第5回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション④
- 第6回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑤
- 第7回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑥
- 第8回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑦
- 第9回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑧
- 第10回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑨
- 第11回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑩
- 第12回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑪
- 第13回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑫
- 第14回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑬
- 第15回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

専門的知識の習得度：20%
 授業時間に報告・発表・振り返りを行う際の準備の丹念さ：40%
 文章修業の出来：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

そのため、フットパスづくりの実践や自身の興味関心に関連する書学術書の輪読等を主体的にかつ積極的に行うことを強く推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

高大連携に力点を置いて学び、活動します。その中でも特に、キャリア教育や総合学習の時間のコンテンツ開発と実施を目指します。そのために、まず教育社会学に関連する知識を吸収した後、全国の優良事例のリサーチを行い、かつ、文部科学省をはじめ我が国の教育施策に関する流れをキャッチアップします。その上で、各高等学校の課題をお聞きし、どのようなプログラムが最適かつを考えて、授業やプログラムを立案します。そして、実際に高校生を対象を行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
 また、関連のイベントや現場に積極的に出かけて行って体験をしてください。
 加えて、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B	SEM312M
---------	---------

授業の概要 /Course Description
本演習では、子どもを中心とした多世代コミュニティを題材に、幸せに暮らすための理想の生き方とは何かについて議論する。また、地域社会をマネジメントするにあたり、リスクとコストを正しく判断するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。

教科書 /Textbooks
選定中、オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 : オリエンテーション
2回～14回 : 発表とディスカッション
15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習の取り組み状況（振り返りレポートを含む） ... 60%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。その際には、地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。

キーワード /Keywords
幸福 失敗 リスク コスト 地域マネジメント 子どもを中心とした多世代コミュニティ

地域創生演習B 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

地域創生実習I、II、IIIで経験した事柄や問題を持ち帰り、ストラテジに関する題材を用いたディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究の課題発見と具体的な改善案の提示を目指します。最終的には、今後の研究実践活動の具体的なテーマに対する基礎的知識の習得と詳細な実施計画の立案を目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回～14回 ストラテジをテーマとしたディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

使用する用語を事前に調べてから授業に臨んでください。
授業後は、演習中のディスカッションの内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

ゼミでは、経営学の知見、理論を援用しながら、社会的課題への対応を考えていきます。
具体的には、(1) 経営学の基礎的知識の習得、(2) 社会的課題に対する従来の取り組みに関するレビュー、
そして、(3) ソーシャルビジネスに関連する先端理論や実践的知見について学習します。

教科書 /Textbooks

ゼミのなかで適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミのなかで適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第15回 輪読、議論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献と課題の評価にて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ゼミでの議論、学習を深めるための予習、および、関連する分野の文献研究。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学、社会的課題の解決

地域創生演習B 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B	SEM312M
---------	---------

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市スポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成したものをを用いて実際に指導にあたる。
市内129の市民センターの中から、出張型のシニアの健康づくり教室を行います。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回；幼児期の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 2回；幼児期の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 3回；幼児期の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 4回；小学生の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 5回；小学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 6回；小学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 7回；中学生の体を動かす、(体育・スポーツ活動) の楽しさを考える
- 8回；中学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 9回；中学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 10回；シニアの健康を考える・・・指導の留意点
- 11回；シニアの健康を考える・・・楽しい指導を考え実践の準備をする
- 12回；指導演習(1)
- 13回；指導演習(2)
- 14回；指導演習(3)
- 15回；指導演習(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・60%
達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

常日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。
スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

地域創生演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

車椅子ソフトボールをはじめ、さまざまな障害者スポーツの実践を振り返り、さらに専門的な知識を身につける。また、実践で生かせるような計画を立て、再度実践を行う。これらを踏まえ、卒業論文・卒業実践報告書作成に向けた方向性を定める。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2~4回 前期実践活動の振り返り
- 5~6回 実践活動①(車椅子ソフトボール)
- 7~8回 実践活動②(障がい者水泳)
- 9~10回 実践活動③(各種障がい者スポーツ)
- 11~12回 実践活動④(シニアスポーツ)
- 13~14回 卒業論文・卒業実践報告書テーマ決め
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な取り組みや態度・・・60%
 達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域における福祉の課題や関連領域について、社会福祉、精神保健福祉、教育、心理など様々な視点から考えを深めていきます。また、それに対する制度や実際の取り組みなどについても幅広く学びます。本授業では、これらに対応する実践理論の習得を目的とします。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、子どもが抱える今日的課題に関する新聞記事やニュースに関心を持ち情報を収集するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B	SEM312M
---------	---------

授業の概要 /Course Description

3年次のテーマは「まちの課題を抽出し、課題解決の方法を考え実践する」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 多くの事例に学ぶ
→ 輪読、メルマガ購読
- ・ 発想の転換を図る
→ 動画視聴、ディスカッション
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→ フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 都市解析手法を学び実践する
→ レクチャー、フィールドワーク、プレゼン
- ・ 実習報告
→ 所属している実習の内容を報告し、ディスカッションを行う
(番外編)
→ チャレンジプログラムに挑戦する

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～14回 上述の内容に取り組む【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関連して課された課題にしっかりと取り組んでください。
事後) 毎回受けた指摘をふまえ、しっかりと復習してください。

地域創生演習B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動等を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

北九州の課題とその取り組みの研究をととして各自の研究テーマを発見（仮論題を設定）していく。応用的な資料・文献調べの力やフィールドワークの力を高めていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2回～14回 発表とディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢 50%
積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習B 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習は、「地域創生演習A」の文章修業において各自の設定した課題やテーマに対し、より深く学習することを目的とする。受講生が設定した課題に対し、その克服方法を模索する際、最も有用な分析手法（経済学・社会学・法学・政治学・倫理学・民俗学等）は何かを発見し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。これは地域創成学群が非常に学際的な分野であるために必要な作業である。

この作業は卒業論文執筆を見据えた、論文執筆のための知識とスキルの向上を目的としている。

また、各自、調査フィールドを設定したものとっては、フィールドワークを学術的に実施し、高度な実証的研究を実施する。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
演習中に取り組む課題の達成度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

問題意識を持って演習に参加することが必要となる。環境問題、コミュニティ問題など現代社会が抱える様々な問題に対して情報収集を積極的に行ってほしい。そのため、演習授業に参加するためには事前学習として、十分な報告資料の作成が必要となる。
また、各自設定したテーマについて、文献研究だけでなく、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望まれることから、演習授業でつけた助言やアドバイスをもとに、自ら調査計画を立て、調査を実施するという事後学習も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

高大連携に力点を置いて学び、活動します。中でも特に、キャリア教育や総合学習の時間のコンテンツ開発と実施を目指します。そのために、まず教育社会学に関連する知識を吸収した後、全国の優良事例のリサーチを行い、かつ、文部科学省をはじめ我が国の教育施策に関する流れをキャッチアップします。その上で、各高等学校の課題をお聞きし、どのようなプログラムが最適かつを考えて、授業やプログラムを立案します。そして、実際に高校生を対象を行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、関連のイベントや現場に積極的に出かけて行って体験をしてください。
加えて、振り返りの機会を定期的に設けますので、そこで学びや実践の獲得を確認します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、今まで議論してきた地域の課題や地域活動の在り方について総括する。また、各自のテーマについて必要な調査や資料収集などを行う。その進捗状況について随時報告を行い、議論を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況（課題の達成度を含む） ... 70%
積極的な演習への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に課題に取り組んでもらう。各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生 地域マネジメント プロジェクトマネジメント

地域創生演習C 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生実習IからIVで経験した事柄や問題に関するディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究をより深く考察し、総括するための準備を行います。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回～14回 学生の研究テーマに対する書籍や論文の輪読とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、これまで行ってきた地域活動に関して内容をまとめておいてください。
授業後は、演習での議論を踏まえて、次の授業までにまとめなおしてください。

履修上の注意 /Remarks

どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまでのスポーツ・ボランティアの実践を通して自らの関心に応じた実践テーマを選択し、調査、研究を行っていく。また、報告、ディスカッション等を随時行いながら研究発表に向けたまとめに取り組む。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒論に向けた指導オヨビディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢 50%
発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

1年次から4年次までの実習や多くの活動記録を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 4年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまでの実習活動を通して、自らの関心に応じたテーマを決定し、調査・研究方法を検討する。ゼミの中で報告、議論を繰り返しながら、論文の方向性を定めていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
 2～14回 報告・ディスカッション・修正・添削
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に取り組む姿勢・・・50%
 発表・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいこう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。発表の準備に関しては、教員との事前のやり取りを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	●	卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

4年次のテーマは「実戦経験等の言語化と概念化」です。卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析すること、もしくは、卒業実践報告として、これまでの実戦経験から得ることのできた知見を体系的にまとめあげることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 関連書籍等をしっかり読んでおいてください。
 事後) 毎回の指摘内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集大成のつもりで取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

地域創生演習A・Bの進捗をふまえ、引き続き、受講生の決めた主体的なテーマに関し、その調査および研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。ゼミ生の一層真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 地域創生演習A・Bの振り返り
2回～14回 論文等テーマの設定と逐次報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマに関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文の執筆に向けて各自の問題関心・テーマに基づき高度な専門的知識を身につけることを目的とする。さらに、その専門的知識は単に知識として持つだけでなく、実際の（地域）社会において活用できる実用性を有していることが望ましい。したがって、調査と研究を同時進行的に行い、その進捗状況をこの演習で報告してもらう。

教科書 /Textbooks

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
演習中に取り組む課題の達成度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

問題意識を持って演習に参加することが必要となる。環境問題、コミュニティ問題など現代社会が抱える様々な問題に対して情報収集を積極的に行ってほしい。そのため、演習授業に参加するためには事前学習として、十分な報告資料の作成が必要となる。
また、各自設定したテーマについて、文献研究だけでなく、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望まれることから、演習授業でうけた助言やアドバイスをもとに、自ら調査計画を立て、調査を実施するという事後学習も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各自のテーマについてまとめていく。その進捗状況について随時報告を行い、議論を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況（課題の達成度を含む） ... 70%
積極的な演習への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季や冬季の休業期間などを含む）に課題に取り組んでもらう。各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生 地域マネジメント プロジェクトマネジメント

地域創生演習D 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、各学生が取り組んでいる実践や研究を知見としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回～14回 実践や研究に関するディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、テーマとして設定した内容をまとめ、発表する準備をしてください。
授業後は、演習での内容を踏まえて、内容をブラッシュアップしてください。

履修上の注意 /Remarks

どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒論に向けてのディスカッションや個別指導を行う

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、1年次1学期活動の確認
- 2、1年次2学期活動の確認
- 3、1学年をまとめる
- 4、2年次1学期活動の確認
- 5、2年次2学期活動の確認
- 6、2学年をまとめる
- 7、3年次1学期活動の確認
- 8、3年次2学期活動の確認
- 9、3学年をまとめる
- 10、卒論テーマ決定
- 11、卒論指導1
- 12、卒論指導2
- 13、卒論指導3
- 14、卒論指導4
- 15、卒論指導5

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢 50%
発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

3年次までの実習に関連する情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

1年次から3年次までの実習や多くの活動記録を毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習D 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文・卒業実践報告書完成にむけてのディスカッションや個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～10回 卒論指導
- 11～12回 最終報告会
- 13～15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に取り組む姿勢・・・50%
発表・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。発表の準備に関しては、教員との事前のやり取りを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

4年次のテーマは「実戦経験等の言語化と概念化」です。卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析すること、もしくは、卒業実践報告として、これまでの実戦経験から得ることのできた知見を体系的にまとめあげることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 関連書籍等をしっかり読んでおいてください。
事後) 毎回の指摘内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集大成のつもりで取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

引き続き、受講生の決めた具体的なテーマに関し、その調査研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 これまでの総括と振り返り
2回～14回 各自の論文等の題目設定と作成指導
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマに関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

引き続き、この演習では「地域創生演習C」と同様に、卒業論文の執筆に向けて各自の問題関心・テーマに基づき高度な専門的知識を身につけることを目的とする。さらに、その専門的知識は単に知識として持つだけでなく、実際の（地域）社会において活用できる実用性を有していることが望ましい。したがって、調査と研究を同時進行的に行い、その進捗状況をこの演習で報告してもらう。

教科書 /Textbooks

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
演習中に取り組む課題の達成度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

問題意識を持って演習に参加することが必要となる。環境問題、コミュニティ問題など現代社会が抱える様々な問題に対して情報収集を積極的に行ってほしい。そのため、演習授業に参加するためには事前学習として、十分な報告資料の作成が必要となる。
また、各自設定したテーマについて、文献研究だけでなく、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望まれることから、演習授業でうけた助言やアドバイスをもとに、自ら調査計画を立て、調査を実施するという事後学習も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～29回 : 卒業論文・卒業実践報告書の執筆指導
- 30回 : 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文・卒業実践報告書 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始前までに、予め演習テーマについて学習し、必要な資料を準備しておくこと。
演習終了後には、演習中に学んだことを振り返り、レポートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その場合は、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生 地域マネジメント プロジェクトマネジメント

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

途中経過を適切に報告できるよう、授業前に準備して臨んでください。
授業後は、それをもとに内容を洗練させてください。

卒業論文・卒業実践報告【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自テーマに沿って、卒業論文・実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回、 オリエンテーション
- 2・3回、 論文・報告書の書き方指導
- 4～8回、 研究途中経過報告1回目
- 9～13回、 研究途中経過報告2回目
- 14回 中間報告会
- 15～19回、 研究途中経過報告3回目
- 20～24回、 研究途中経過報告4回目
- 25～28回、 研究途中経過報告5回目
- 29回、 最終報告会
- 30回、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次からの実習に関連する情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

ゼミは、基本的に報告と議論の場であり、事前準備を十分行って望むこと。
また、時間外においても随時、教員と連絡を取りアドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動と卒論に向けて忙しくなります頑張ってください。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自テーマに沿って、卒業論文・実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2~3回 論文・報告書の書き方指導
- 4~8回 研究途中成果報告①
- 9~13回 研究途中成果報告②
- 14~15回 中間報告会
- 16~20回 研究途中成果報告③
- 21~25回 研究途中成果報告④
- 26~27回 最終報告会
- 28~30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文作成にあたっては、授業時間外に文献等を調べ、文章化し、授業に参加すること。教員から添削がある場合、再度、文献等で調べ、自主学習し、再度、提出に向けた準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、基本的に報告と議論の場であり、事前準備を十分に行って望むこと。
また、時間外においても教員と連絡を取り、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前) 関連書籍や関連論文をしっかりと読みこんでおいてください。
- 事後) 毎回受けた指摘をもとに改善を行ってください。

卒業論文・卒業実践報告【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

逃げることなく粘り強く取り組んでください。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～29回 : 卒業論文・卒業実践報告書の執筆指導
- 30回 : 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文・卒業実践報告書 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマに関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受け、その指摘を事後学習としてしっかりと卒業論文として内容に盛り込むことなどを念頭に、事後学習にも丹念に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉環境デザイン論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	移動困難者の生活を円滑にするためのまちづくりに必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	バリアフリー・ユニバーサルデザイン実現のための考え方や技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域に存在するバリアフリー等の課題を発見し、解決策を考えるプロセスを理解する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実際の地域活動でバリアフリー等の概念を取り入れた取り組みに対処できる力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉環境デザイン論

ARC235M

授業の概要 /Course Description

本講義では、成熟社会におけるまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
- 土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（福祉環境デザインとは）【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
- 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
- 3回 公共空間のデザインI（道路、歩道、広場等）【有効幅員】、【段差】、【勾配】
- 4回 公共空間のデザインII（公共施設、商業施設等）【ハートビル法】、【多機能トイレ】
- 5回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
- 6回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
- 7回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
- 8回 コンパクトシティの実現【コンパクトシティ】、【集約型都市構造】
- 9回 公共交通のデザインI（交通施設）【交通バリアフリー法】、【駅】
- 10回 公共交通のデザインII（車両）【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【LRT】
- 11回 公共交通のデザインIII（交通まちづくり）【公共交通分担率】、【P&R】、【TOD】
- 12回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【サイクルシェアリング】、【カーシェアリング】
- 13回 住民参加によるまちづくりの合意形成手法【ワークショップ】、【市民参加】
- 14回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験及び中間時期に課すレポートで評価します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉のまちづくりに関する情報は皆さんが生活している市街地の中に溢れています。講義で習得した情報を常に意識しながらまちを観察してください。課題がありそうな箇所を見つけた場合は、自らで解決策を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的参加を求めます

福祉環境デザイン論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

危機管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	危機管理に関する専門知識について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	危機管理に関する地域活動を行っていく上で、必要な情報を解読し、分析する技能を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	危機管理に関し、実践的な側面から知識・技能を活用できる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり、危機管理に強い関心を持ち続け、最低限の危機管理能力を持続できる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

危機管理論

SSS210M

授業の概要 /Course Description

地域の「危機管理」についての初歩的理解を目的とする。「危機管理」の概念に始まり、特に北部九州地域における危機の事例として、自然災害や国民保護を取り扱い、地域に発生しうる「危機」の実態を理解したい。

なお、授業全般にわたり、以下の項目を特に重視する。

- ①地域の危機管理に関する知識の提供や理解にとどまらず、
- ②必要な情報を解読する技能を習得し、
- ③実践的な側面からそれらの知識や技能を活用できるようにし、
- ④それにより、生涯にわたり最低限度の危機管理能力を身に付けられるようにする。

教科書 /Textbooks

使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

危機管理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 危機管理総論 (危機管理の定義と範囲、概念の整理、地域防災計画について)
- 第3-6回 自然災害と地域I (洪水と土砂災害)
 - ①福岡県 (北九州市) の自然条件と気象条件の特徴、紫川の特徴
 - ②台風・集中豪雨のメカニズム
 - ③各種災害のメカニズム (洪水、土石流、表層崩壊、深層崩壊、地滑り、高潮等)
 - ④過去の災害事例研究
 - ⑤平成21年、22年の集中豪雨について
- 第7-8回 自然災害と地域II (地震災害)
 - ①地震のタイプとメカニズム、マグニチュードと震度
 - ②福岡県の地質条件の特徴
 - ③地震災害について (倒壊、火災、液化化、津波等)
 - ④福岡西方沖地震について
- 第9回 自然災害と地域III (異常気象と都市災害)
 - ヒートアイランド現象、「ゲリラ豪雨」、竜巻、ダウンバースト等
- 第10回 自然災害をめぐる諸制度
 - ①災害対策基本法
 - ②激甚災害法等の関連諸制度
 - ③防災計画について
- 第11-12回 有事における対応と国民保護法
 - ①国民保護法の概説
 - ②災害対策基本法との違い
 - ③国民保護計画
 - ④武力攻撃事態と緊急対処事態
 - ⑤シミュレーション (弾道ミサイル、列車爆破、or原発災害)
- 第13-14回 大学・学生の危機管理
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% + 試験 (もしくはレポート) 70% (詳細は開講時に説明する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に与えられた課題を事前に行ってくる。必ず既習事項を反芻すること。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市計画の基礎【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市や地域を理解するための専門的基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域の課題解決に向けた都市計画的手法の基礎を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	● 地域活動への関わり方をはじめとした実践手法の基礎を修得する。
	生涯学習力	● 都市や地域の捉え方を身につけ、抱えている諸課題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市計画の基礎

ARC234M

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、都市計画やまちづくりに関する基本的な事項や様々な手法を知ることです。講義では、都市計画に関する重要事項について比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説します。これまでの社会状況とは根本から異なる今後の社会において、現在の都市計画の体系やまちづくりの手法とはどうあるべきか、皆でディスカッションを交えながら考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社
- その他、適宜指示します。
- 薬袋奈美子・室田昌子・加藤仁美 著『生活の視点でとく都市計画』彰国社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【都市について考える】
- 2回 マインドセット【従来の都市計画の概念】【問題提起】
- 3回 近代都市計画の歴史【都市計画史】
- 4回 提出した宿題の内容についてのディスカッション【都市計画マスタープラン】
- 5回 土地利用計画【土地利用】
- 6回 区画整理と再開発【都市施設】【土地区画整理事業】【市街地再開発事業】
- 7回 都市計画の支援ツール【調査】【解析】
- 8回 提出した宿題の内容についてのディスカッション【再開発事例】
- 9回 まちづくりの失敗事例【都市経営】
- 10回 リノベーションまちづくり【リノベーション】
- 11回 エリアビジネスを生むための都市解析【都市解析】
- 12回 特別講師による講義①【戦略】
- 13回 特別講師による講義②【プランディング】
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前) 参考図書に目を通しておいください。
- 事後) 毎回の内容を復習してください。

都市計画の基礎【昼】

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』（有斐閣・2005年）
 山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣・2015年）
 ※基本的に配布するレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』（有斐閣・2010年）(図書館蔵書：○)
 笹倉秀夫『法学講義』（東京大学出版会・2014年）(図書館蔵書：○)
 ※このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か(1)【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か(2)【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か(3)【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法(1)【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法(2)【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法(3)【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法(1)【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法(2)【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法(1)【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法(2)【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30%）
 2. 講義全体の内容についての期末テスト（全体の70%）

法学総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

【諸注意】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

日本国憲法原論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各専門科目へ進んでいってもらいたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）
- 芦部信喜『憲法 第6版』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法 第6版』（新世社、2014年）
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-近代国家の成立と憲法
- 第3回 憲法とは何か③-日本国憲法の基本原理と立憲主義
- 第4回 日本国憲法制定史①-大日本帝国憲法から新憲法制定へ
- 第5回 日本国憲法制定史②-マッカーサー草案から新憲法公布まで
- 第6回 平和主義①-その歴史性
- 第7回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第8回 平和主義③-日本の安全保障と平和主義
- 第9回 人権総論①-人権の歴史
- 第10回 人権総論②-人権の分類と制約
- 第11回 人権総論③-違憲審査の方法と私人間効力
- 第12回 統治機構総論①-国会
- 第13回 統治機構総論②-内閣
- 第14回 統治機構総論③-裁判所
- 第15回 地方自治制度

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

日本国憲法原論【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の概要にも書いたように、憲法関連科目の基礎となる講義なので、まずは本講義を受講してから他の憲法科目を受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 平和主義 基本的人権 統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、基本的な人権を保障している。人権は、原則として、市民が国家に対して自由や平等、社会的給付を要求できることを保障している。人権の内容は、歴史的にも、各国の憲法によっても様々である。

この講義のねらいは、次の3つである。

- ①人権の思想史的沿革や体系、
- ②各人権条項の意義や構成、法的判断の仕方、
- ③判例における実際の適用のあり方を学ぶこと。

また、海外の憲法における基本的人権のあり方との違いにもふれる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。
詳しくは、初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）
- 安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論① -イントロダクション
- 第2回 総論② -人権の分類と人権享有主体
- 第3回 人権の制約原理 -公共の福祉
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 表現の自由①
- 第6回 表現の自由② -知る権利と報道の自由
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 信教の自由と政教分離
- 第9回 学問の自由
- 第10回 職業の自由
- 第11回 財産権
- 第12回 社会権① -労働基本権
- 第13回 社会権② -生存権
- 第14回 平等権
- 第15回 適正手続

※選挙権と裁判を受ける権利については、憲法機構論で取り扱う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

憲法人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジユメの予習・復習、教科書等の該当箇所を読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

事前に「学習支援フォルダ」にレジユメをアップすることがあるので、各自印刷して持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW160M

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家庭生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分(財産法)の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

佐久間 毅著『民法の基礎I総則(第3版)』有斐閣 2008年 3,000円
 潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選①総則・物権[第7版]』有斐閣 2015年 2,100円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第4版]総則・物権総論』東京大学出版会 2008年 3,300円
- 川井 健『民法概論1民法総則第3版』有斐閣 2005年 3,800円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第8版』弘文堂 2010年 3,300円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店1965年 3,900円

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限超越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題…… 20% 定期試験…… 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所や関連判例を読んで講義に参加してください、事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

レジュメに添って講義を行います。教科書の該当箇所、参照判例は適宜指示します。教科書の他に毎回必ず六法、判例百選も持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

親族法 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

民法典は、その第二編において、一定の物を直接に支配して利益を受ける排他的権利として、「物権」に関する規定を設けている（民法175条～398条の22）。本講義では、講学上、「物権（法）総論」と呼ばれる、①物権の性質、②その効力、および③その変動に関する一般原則を明らかにする領域と、「物権（法）各論」と呼ばれる、個々の物権に関して、その成立・効力・消滅に関するルールを明らかにする領域（本講義では、特に、所有権、占有権、および用益物権に重点を置く。）を講義する。

また、本講義では、物権に関わる民法典の諸規定の基本理念（制度趣旨）・解釈（論）を解説し、物権法制の基本構造について理解を深めてもらう。なお、担保物権（債権の履行の確保のために、目的物の交換価値を支配する物権である、と一応定義することができよう。）に関しても、その概要を略説し、物権全体の有機的関連および現代社会における物権の役割を理解できるようになってもらう。そのためにも、具体的事案をできるだけ多く用いて講義を進める。また、民法総則や債権各論との「つながり」も意識してもらえようような講義内容としたい。

教科書 /Textbooks

- ① 河上正二『物権法講義』（日本評論社、2012年）；定価（3,300円＋税）
※担保物権の部分については、教科書を用いず、レジユメのみで講義を行う。
- ② 潮見佳男＝道垣内弘人（編）『民法判例百選I総則・物権 [第7版]（別冊ジュリストNo.223）』（有斐閣、2015年）；定価（2,100円＋税）
- ③ 最新版（年度）の小型六法
※上記「3点セット」を必ず購入・毎回持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石崎泰雄ほか（編著）『新民法講義2 物権・担保物権法』（成文堂、2010年）；定価（3,500円＋税）をさしあたり挙げておく。その他の参考書については、レジユメの【文献案内】欄で紹介する予定である。

物権法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するが、教科書等での予・復習は必須である。レジュメは、あくまで「補助教材」でしかないことに注意すること（【】内はキーワード）。

第1回；物権法序論【債権との違い】【用益物権】【担保物権】【物権法定主義】【一物一権主義】

第2回；所有権①【所有権の特徴】【物権的請求権】

第3回；所有権②【承継取得・原始取得】【共有】【持分権】【合有・総有】

第4回；物権変動入門【物権変動に関する意思主義と形式主義】【所有権の移転時期】【对抗要件主義【「対抗できない」とは？】】【公示の原則と公信の原則】

第5回；不動産物権変動①【不動産登記法】【中間省略登記】【仮登記】【変動原因無制限説】【民法177条】

第6回；不動産物権変動②【法律行為（契約）の取消しと登記】【相続と登記】

第7回；不動産物権変動③【取得時効と登記】【「第三者」の意味】【無制限説から制限説へ】【背信的悪意者】

第8回；動産物権変動①【引渡し】【占有改定と指図による占有移転】

第9回；動産物権変動②【即時取得】

第10回；占有（権）①【直接占有・間接占有】【自主占有・他主占有】

第11回；占有（権）②【占有訴権】【交互侵奪】

第12回；用益物権①【地上権】【永小作権】

第13回；用益物権②【地役権】【入会権】

第14回；担保物権①【担保物権の効力】【担保物権の通用性】【抵当権】【物上代位】

※この回以降はレジュメのみで講義する。

第15回；まとめおよび担保物権② 抵当権【抵当権侵害】【利用権との調整】、抵当権以外の担保物権【質権】【先取特権】【留置権】【非典型担保】

成績評価の方法 /Assessment Method

選択式（受講生各自、下記2方式から選択して評価を受けること。）

・ A方式（期末定期試験＋レポートで評価）＝期末定期試験（80分）70％＋レポート（4,000字前後）30％の合計100％

または

・ B方式（期末定期試験のみで評価）＝期末定期試験（80分）100％

※なお、「レポート」＝楽勝科目（提出すれば点がもらえる）を意味するのではないことに注意すること。また、期末定期試験についていえば、一夜漬け程度の勉強では単位取得は不可能である点に留意すること。世の中はそれほど甘くない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】毎回配布するレジュメに、【事前学習】欄を設けておく。そこに記されている教科書①の要参照頁、裁判例、および論点などについて学習したうえで本講義を受講すること。

【事後学習】毎回配布するレジュメに、【事後学習】欄を設けておく。そこに記載されている一行問題（論述問題）を各自解いておくこと。それらの問題の中から一定数が期末定期試験に出題される可能性がある。

履修上の注意 /Remarks

法律学のどの科目についてもいえることだが、「予習・復習」を常に心がけること。また、「民法総則」の内容を復習しておくこと、本講義の理解がより深まるであろう。そして、併せて「債権各論」を受講すれば、両科目の相互理解にも資するであろう。

逆に、「民法総則」を履修していない場合、本講義の理解は相当困難なものとなるであろう。したがって、自学習でよいから、最低限、民法総則の内容を学習しておくことを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問等をしてください。お待ちしております。

キーワード /Keywords

物権、物権変動、民法176条、民法177条、第三者、「対抗することができない」の意義、不動産登記、占有（権）、用益物権、担保物権

社会法総論 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むしろ、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

社会法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。
(事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論【昼】

担当者名 福重 さと子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

行政法は、国や地方公共団体など、公益を実現する機関がいかなる活動をしうるかの限界を明らかにする学問です。行政法総論では、様々な問題の検討を通して、この目的のために考慮すべき基本的な事柄が何であるかを学びます。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①いくつかの行政法の基礎的な概念を理解し、説明することができる。
- ②習得した知識を用いて事案を検討することができる。
- ③行政法学の基本的な関心事である個人の自由の保障の必要性を理解する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ(第6版)』(有斐閣)定価2,400円
- 宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅱ(第6版)』(有斐閣)定価2,400円
- 原田尚彦『行政法要論(全訂第7版補訂2版)』(学陽書房)定価3,465円
- 石川敏行ほか『はじめての行政法(第2版)』(有斐閣)
- 藤田宙靖『行政法入門(第5版)』(有斐閣)
- 櫻井敬子=橋本博之『行政法(第3版)』(弘文堂)
- 塩野宏『行政法Ⅰ(第5版)』(有斐閣)
- 芝池義一『行政法読本(第2版)』(有斐閣)
- 宇賀克也『行政法概説Ⅰ(第4版)』(有斐閣)
- 藤田宙靖『行政法Ⅰ総論(第4版)』(青林書院)

行政法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法の基礎概念
 - 第2回 行政の役割
 - 第3回 規制の方法（1）事前規制
 - 第4回 許可と特許
 - 第5回 規制の方法（2）事後規制
 - 第6回 経過規定
 - 第7回 法の種類
 - 第8回 行政組織法概論（1）- 総説、国の行政組織
 - 第9回 行政組織法概論（2）- 地方公共団体の行政組織
 - 第10回 行政の裁量（1）根拠
 - 第11回 行政の裁量（2）裁量統制の技術
 - 第12回 行政の裁量（3）裁量基準
 - 第13回 取消しと撤回
 - 第14回 行政手続（1）基礎理論
 - 第15回 行政手続（2）行政手続法
 - 第16回 行政上の義務履行確保（1）- 概論
 - 第17回 行政上の義務履行確保（2）- 具体的検討
 - 第18回 行政指導の意義
 - 第19回 行政指導の実効性確保
 - 第20回 信頼の保護
 - 第21回 行政立法
 - 第22回 委任立法の限界
 - 第23回 補助金の交付
 - 第24回 行政手続による第三者の保護
 - 第25回 情報公開
 - 第26回 法律の留保
 - 第27回 行政行為の概念と特別な訴訟手続
 - 第28回 取消訴訟と国家賠償法
 - 第29回 無効の行政行為
 - 第30回 行政行為の効力
- ※ただし、授業の進度によって、各回の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、教科書を読んでおくこと。
授業後は、質問などにより、わからない点の理解につとめてください。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政法総論、行政手続法

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

刑法総論の授業では、すべての犯罪に共通する、犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)について学びます。刑法は、刑罰という強力な規制手段と、その発動の前提条件(犯罪の成立要件)を定めています。それゆえ、犯罪の成否は恣意を排して安定的に判断されなければなりません。公平な法適用を実現するためには、基本的な概念を厳密に定義することと体系的・論理的に考えることが強く求められます。本講義では、具体的事例を議論の出発点として、刑法の基本原則や基本概念を正確に理解し、刑法解釈の「型」を修得することを目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねる。

参考までに、大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法I総論(第2版)』(日本評論社、2016年)を推奨する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 判例を学習するために
○十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『刑法総論判例50!』(有斐閣、2016年)
- 各学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣、2008年)
○山口厚『刑法総論(第3版)』(有斐閣、2016年)
○川端博『刑法総論講義(第3版)』(成文堂、2013年)
- 事例の解法を学習するために
島伸一編『たのしい刑法I 総論』(弘文堂、2012年)

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法とは何か？刑法総論では何を学ぶのか？
 第2回 刑法の機能・目的と刑罰の機能・目的：刑罰論、新旧刑法学派の争い
 第3回 刑法の基本原則（罪刑法定主義、謙抑主義、責任主義）と刑法の適用範囲
 第4回 犯罪の基本概念と犯罪論の体系（構成要件該当性、違法性、責任）
 第5回 構成要件の概念と行為論（一般的行為概念、実行行為、犯罪の主体、作為と不作為の区別）
 第6回 因果関係論①：条件説と相当因果関係説
 第7回 因果関係論②：結果的加重犯、客観的帰属論
 第8回 故意論：故意の種類、未必の故意
 第9回 事実の錯誤①：具体的事実の錯誤
 第10回 事実の錯誤②：抽象的事実の錯誤
 第11回 過失犯の理論：新旧過失犯論、注意義務の内容、信頼の原則
 第12回 不作為犯：真正不作為犯と不真正不作為犯の区別、作為義務
 第13回 違法性の本質と違法性阻却事由
 第14回 正当防衛①：正当防衛状況（対物防衛、急迫性、積極的加害意思、緊急救助）
 第15回 正当防衛②：正当防衛行為（防衛意思、偶然防衛、過剰防衛）
 第16回 緊急避難
 第17回 正当行為と被害者の承諾
 第18回 正当化事情の錯誤：誤想防衛
 第19回 責任の意義と本質
 第20回 責任能力と原因において自由な行為
 第21回 違法性の錯誤
 第22回 未遂犯
 第23回 不能犯と中止犯
 第24回 正犯と共犯の区別
 第25回 共同正犯の意義と処罰根拠
 第26回 共同正犯の諸問題：共謀共同正犯、承継的共同正犯
 第27回 間接正犯
 第28回 共犯の従属性と共犯の処罰根拠
 第29回 教唆犯と幫助犯
 第30回 罪数論：犯罪の個数と犯罪の競合
 ※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間考査（10％）、期末試験（90％）
 各試験の形式については、講義の際に別途説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、配布用の資料をMoodleを通じてアップします。導入事例を確認した上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみて下さい。
 授業後は、各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際に、事例に含まれた争点についても、教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。刑法総論は、学説が激しく対立し抽象的な議論が行われているので、最初は戸惑うかも知れません。予習と復習を通じて粘り強く学習に取り組んで下さい。その意味で、ノートの作成ははじめ受講生の主体的な取り組みが期待されます。授業内外での質問も大歓迎です。
 また、この科目の理解をより深めるためにも、同じ刑事法科目に属する刑法犯罪各論、刑事訴訟法、刑事司法政策をさらに履修することを推奨します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は実践の学問です。具体的な事例を常に想定して、条文に規定されたそれぞれの要件にあてはまる事実があるかどうかを検討することで、法的解決を導くよう意識して下さい。そのために、判例とそこに現れた事案は好個の材料を提供してきます。一読してみましよう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 犯罪論

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開(1)」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論Iにおいては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する（学習支援フォルダから各自がダウンロードすること。）。
初回の講義において、テキストや参考書について説明する。
①六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問わない。）。
②刑法各論の基本書（基本的には、受講者の任意に委ねる。）
山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）。
井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（有斐閣・2013.12）。
井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣・2016.12）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』5版（有斐閣・2013.12）。
- 山口厚『刑法各論』2版補訂（有斐閣・2010.03）。
- 西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（弘文堂・2012.03）。
- 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。
- 曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例6 刑法各論』2版（法学書院・2006.07）。

刑法犯罪各論Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
 - 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
 - 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪
 - 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の類型)
 - 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
 - 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
 - 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
 - 8回 自由に対する罪(2)強姦罪・強制わいせつ罪
 - 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
 - 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
 - 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
 - 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
 - 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
 - 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
 - 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
 この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の内容を要約して講義に臨む。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、講義後に講義ノートを整理して不足事項を基本書・参考書・判例集等で補う。事前に事例問題を提示するので、解答を作成して講義に参加することを推奨する。講義後には、講義をもとに解答を再度作成することが望ましい。1回の授業で概ね2つの事例問題を検討する予定である。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開（2）」

この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪と社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する（学習支援フォルダから各自がダウンロードすること。）。

初回の講義において、テキストや参考書について説明する。

①六法（2017年版・平成29年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問わない。）。

②刑法各論の基本書（基本的には、受講者の任意に委ねる。）

山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）。

井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（有斐閣・2013.12）。

井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣・2016.12）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』5版（有斐閣・2013.12）。

○山口厚『刑法各論』2版補訂（有斐閣・2010.03）。

○西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（弘文堂・2012.03）。

○山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。

○曾根威彦 / 日高義博（編）『基本判例6 刑法各論』2版（法学書院・2006.07）。

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1)財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2)財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3)毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4)強盗罪
 - 5回 財産罪(5)強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6)詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7)詐欺罪の諸類型
 - 8回 財産罪(8)横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9)盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1)騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2)放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3)放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1)文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2)通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
 この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の内容を要約して講義に臨む。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、講義後に講義ノートを整理して不足事項を基本書・参考書・判例集等で補う。事前に事例問題を提示するので、解答を作成して講義に参加することを推奨する。講義後には、講義をもとに解答を再度作成することが望ましい。1回の授業で概ね2つの事例問題を検討する予定である。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を受講した後に、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法 I

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。
 また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。
 火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。
 また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

初回講義時に指示します。
 六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の理解の度合い等により進捗順番が変わる可能性につきご了承ください。
 (【 】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務 (1) 告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務 (2) 告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務 (3) 告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務 (4) 事例研究とまとめ
- 第9回 保険契約における事情変更・失効
- 第10回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第11回 損害保険契約 【保険代位】
- 第12回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

企業取引法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジユメには、①予習すべき教科書の箇所、②復習問題、③レポート提出用の課題などが、随時記載されていきます。よく読んで、指定された範囲の予習や講義後の復習を心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために「事前に」配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジユメについても持参の上、講義を受けるようにしてください（講義当日配布される予習用のレジユメでは当日の講義には役に立たない場合が多いです）。
- 2, 欠席した場合、配付済レジユメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください（残余部数には限りがあります）。
- 3, 配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないまま受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法II

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただければ、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍見他「商法III - 手形・小切手〔第4版〕」（有斐閣Sシリーズ・2011年）2,100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」（新世社・2005年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法務研究会・2003年）。
- ②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

企業取引法II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。また、講義前に学習支援フォルダに講義レジュメ、資料等をアップしておくので、これに目を通して予習しておくこと。予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である（手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。講義後は、講義中に採ったノートを整理して、どのような内容を学んだのか、適宜、復習して定期試験に備えること。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（できれば最新の）六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券 企業決済 企業金融

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

山口大学作成「知的財産権法テキスト」 教室で配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、毎時間実施する小テスト(小レポート)計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

著作権の基礎知識は下記WEBサイト上の学習用ビデオを事前に視聴してください。
<http://www.kim-lab.info/domescon/2015video/cp/cp.html>

知的財産法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権者の権利

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

行政争訟とは、違法（・不当）な行政活動の是正を求める制度です。本講義では、行政機関に是正を求める行政上の不服申立てと裁判所に是正を求める行政訴訟について概説します。そのうえで受講者が、行政争訟の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政争訟法とは
- 第2回 行政上の不服申立て(1)【種類、要件】
- 第3回 行政上の不服申立て(2)【審理、裁決】
- 第4回 行政訴訟の全体像
- 第5回 取消訴訟の訴訟要件(1)【処分性①】
- 第6回 取消訴訟の訴訟要件(2)【処分性②】
- 第7回 取消訴訟の訴訟要件(3)【原告適格①】
- 第8回 取消訴訟の訴訟要件(4)【原告適格②】
- 第9回 取消訴訟の訴訟要件(5)【訴えの利益】
- 第10回 取消訴訟の審理・判決
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟、差止訴訟
- 第13回 仮の救済
- 第14回 当事者訴訟、客観訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

「行政法総論」を履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例により構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第6版]』（有斐閣、2014年）
 同 『個人情報保護法の逐条解説[第4版]』（有斐閣、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）
 園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）
 行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義 情報公開とは何か	第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎 個人の尊厳とプライバシー
第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎 知る権利、国民主権	第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 個人情報の収集、管理、利用
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 個人情報の不開示とプライバシー保護	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求、不開示情報、訂正等請求
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報及び意思形成過程情報の不開示	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会による審査
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示	第15回 まとめ
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会による審査	
第 9回 個人情報保護の意義 個人情報保護とは何か	

情報公開・個人情報保護法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	● 市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

NPO論【昼】

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治家が政党に所属したり、あるいは離党したりするのはなぜなのか。有権者はなぜ、投票に行く（行かない）のか。マス・メディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか。本講義では、こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します。具体的には、①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で、②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します。また本講義を通じて、民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木寺元編 (2016) 『政治学入門』弘文堂。
砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア。
久米郁男 (2013) 『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣。
砂原庸介 (2015) 『民主主義の条件』東洋経済新報社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 Scienceとしての政治学(1) 【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
- 3回 Scienceとしての政治学(2) 【3つのI】【文化】【合理的選択】
- 4回 政治制度(1) 【選挙制度】【デュベルジェの法則】
- 5回 政治制度(2) 【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
- 6回 政治家と政党(1)【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
- 7回 政治家と政党(2)【ダウンズモデル】【政党システム】【離党と新党】
- 8回 政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェンシー・スラック】
- 9回 政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
- 10回 政治参加と選挙(1)【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
- 11回 政治参加と選挙(2)【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 12回 政治参加と選挙(3) 【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
- 13回 マス・メディア(1)【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
- 14回 マス・メディア(2)【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
- 15回 まとめ 【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 期末試験：85% ・ 日常授業への取り組み：15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておくこと。また、政治過程論は連続しているテーマを扱うため、各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしておくこと。

政治過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は、政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います。これらのモデルが日本政治においていかなる意味を持つかについては「日本政治論」で詳しく説明しますので、併せて受講することが望ましいです。
また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学は「いろいろな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です。シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが、授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると、授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないのでしょうか。「政治」と聞いて食わず嫌いにならず、ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード /Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。確定された成績評価基準は、第3回目の授業でお知らせします。

福祉国家論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

公共政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 シルバー・デモクラシーと日本の現状
- 10回 シルバー・デモクラシーと公共政策
- 11回 ソーシャル・キャピタルと公共政策
- 12回 介護保険（1）・・・導入
- 13回 介護保険（2）・・・現状分析
- 14回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「下流老人」の問題も含む）
- 15回 介護保険（4）・・・介護保険の改革

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加すること。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定ですので第一回目の講義には必ず参加するようにして下さい。また、「シルバー・デモクラシーと公共政策」、「ソーシャル・キャピタルと公共政策」をはじめ講義内容等は、学生の理解度などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】【主務大臣の包括的指揮監督権】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【首長と議会】【二元代表制】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【中央地方関係】
- 6回 縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
- 7回 縮小する地方財政の中で②【地方債】
- 8回 縮小する地方財政の中で③【ふるさと納税】
- 9回 合併の価値は①【市町村合併】
- 10回 合併の価値は②【自治体内分権】
- 11回 地域の戦い①【外発型発展と内発型発展】【交流人口】【定住人口】
- 12回 地域の戦い②【外発型発展】【原子力発電】
- 13回 地域の戦い③【交流人口】【インバウンド】
- 14回 地域の戦い④【アニメ聖地巡礼の事例比較考察】
- 15回 地域の戦い⑤【定住人口】【婚活支援】【恋愛と結婚】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

地方自治論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、 無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、 政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 20%、 ポスター 30% 期末試験 50%
 (本のレポート発表・ ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
 利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
 ネットワーク。

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 児童虐待
- 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から3点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはいくどのようなことか、域内産業の特性との関連で見えていきます。さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論
 - 佐藤泰裕[2014]『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
 - 山崎朗他[2016]『地域政策』中央経済社
 - 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
 - 小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

都市経済論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート30%、期末試験70%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに学習支援フォルダにレジユメをアップしておくので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は反復学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成26年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) : : 簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは? 水俣学とは? 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状~一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	食と農~健康の源=自らの食を見直そう	【食農】
第8回	上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第9回	下水処理をめぐって~下水処理の原理	【水質汚濁】
第10回	大気汚染~汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは?	【大気汚染】
第11回	大気汚染~身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定	【CO2計測】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々= エコツーリズムに関わろう!	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

公共経営論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論

PA0212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、学期末試験の得点から3点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

* 2015年度より、レポートではなく、筆記試験によって成績評価しています。

公共経営論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

都市経営論【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が議論される中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップなど、今後の都市経営の方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田民雄[2003]『都市政府のマネジメント』中央経済社
 - 宮脇淳[2012]『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
- 講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市経営
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 地方自治体の諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化
10. ガバナンスとパートナーシップ
11. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
12. 企業と社会の関わり - 企業の社会的責任と協働
13. 地域資源の活用による地域創造
14. 公共施設・空間のマネジメント
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート30%、期末試験70%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに学習支援フォルダにレジユメをアップしておくので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は反復学習を行ってください。

都市経営論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。前期科目の都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社、2005年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社、2005年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

経済学入門B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

経済学入門B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門A 【昼】

担当者名 /Instructor 近江 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代日本経済を時系列的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 現代日本経済の諸問題を時系列的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門A

ECN150M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に、平易に解説していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では、ビジネスの現場との結びつきを交えながら、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本経済のトレンド（1）【高度成長への準備】【経済改革】【ドッジライン】
- 2回 日本経済のトレンド（2）【高度成長】【重厚長大産業】【エネルギー革命】
- 3回 日本経済のトレンド（3）【安定成長】【ニクソンショック】【オイルショック】【バブル経済】
- 4回 日本経済のトレンド（4）【構造改革】【IT革命】【グローバルイゼーション】
- 5回 日本経済のトレンド（5）【アジア展開】【リーマンショック】【中国市場】
- 6回 まとめと復習
- 7回 日本企業の国際競争力（1）【鉄鋼業】【寡占間競争】
- 8回 日本企業の国際競争力（2）【自動車クラスター】【トヨタイズム】【ジャストインタイム】【企業系列】
- 9回 日本企業の国際競争力（3）【東アジア市場】【電機産業】【産業空洞化】
- 10回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】【世界最適調達】
- 11回 まとめと復習
- 12回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】
- 13回 規制緩和と企業制度改革【日本型企業システム】【構造改革】【持ち株会社】
- 14回 日本経済の転換【世界最適調達】【カンパニー制】【ICT】【フラット化】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題と期末試験を重視して評価する。

- ・ 課題 ... 10%
- ・ 学期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞等で、授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる経済記事を、よく読んでおくと理解がしやすくなる。現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

履修上の注意 /Remarks

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の経済・企業活動と日本経済の戦後史的、理論的な内容を結び付けて解説するよう努めます。これから専門的に学ぼうとする分野や、日々の生活の関わりなどを意識しながら受講するようにして下さい。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバル化、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本経済を横断的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	現代日本経済の諸問題を横断的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門B

ECN151M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。関連するニュース報道や解説書を理解できるようになることが、目標である。また、日本経済と日本産業が、これまでどのような展開と変遷を辿ったかを説明し、今後の日本経済を見通すうえで必要な専門知識を教える。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重 (2011) 『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

- 1回 日本的システムの形成と崩壊・変容 【メインバンク・システム】【系列】
- 2回 日本的システムの形成と崩壊・変容 【安定株主】
- 3回 少子高齢化に立ち向かう日本 【平均寿命】
- 4回 少子高齢化に立ち向かう日本 【年金・医療制度】
- 5回 財政赤字と政府債務 【基礎的財政収支】
- 6回 財政赤字と政府債務 【デフォルト】【マネタイゼーション】
- 7回 新たなグローバル化の波 【WTO】【FTA】
- 8回 新たなグローバル化の波 【直接投資】【TPP】
- 9回 エネルギーの経済学 【固定価格買い取り制度】
- 10回 エネルギーの経済学 【発送電分離】
- 11回 量的・質的緩和とデフレ克服 【インフレーション・ターゲティング】
- 12回 量的・質的緩和とデフレ克服 【出口戦略】
- 13回 新しい日本経済のあり方とは 【リーマンショック】
- 14回 新しい日本経済のあり方とは 【所得格差】【法人実効税率】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業内容にかかわる事前学習を毎回指示する。とくに、「授業計画・内容」のキーワードを調べてくるよう、指示する。授業の後では、自分が事前に調べてきた内容と授業で学んだ内容を比較してノートを加筆修正すること。

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代日本経済入門B 【昼】

キーワード /Keywords

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 裕哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

近年、地域経済を取り巻く環境は大きく変化し、「地方消滅」や「地方創生」といった言葉に示されるように注目を集めている。本講義では、身近な経済事象を取り上げ、地域との関わりについてみていく。また、本講義を通じて、地域の見方を身につけ、地域が抱える諸問題（特に経済面）に対して自分なりの解決策を考えて欲しい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川端基夫 (2008) : 『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。(○)
 松原 宏編 (2002) : 『立地論入門』古今書院。
 松原 宏編 (2013) : 『現代の立地論』古今書院。
 その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域と経済（講義の概要）
- 2回 コンビニと地域
- 3回 ファストフードと地域
- 4回 ファミレスと地域
- 5回 ファッション産業と地域
- 6回 コンテンツ産業と地域
- 7回 自然災害による生産への影響と地域
- 8回 エコタウンと地域
- 9回 農業と地域
- 10回 観光業と地域
- 11回 商店街の変遷からみる地域
- 12回 自動車産業と地域
- 13回 化学産業と地域
- 14回 製鉄業と地域
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コンビニやファストフード店など身近にあるものが「どこに立地しているか?」、「それはなぜか?」ということを普段から意識しておいて欲しい。また、授業後に学んだことがどの程度当てはまるか、身近な地域で確認して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

地域経済I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業立地、労働力、自然環境

地域経済Ⅱ【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済Ⅱ

ECN245M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
本講義では、「人口動態」と「情報化」という視点から地域経済の変化について学び、今後について見通す。
1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今地域経済の何が変わっているのか（講義の概要）
- 2回 地域構造論概説【地域構造論】
- 3回 生産年齢人口の減少と地域構造【人口動態，生産年齢人口】
- 4回 産業構造高度化と地域構造【産業構造】
- 5回 技術革新と経済発展【技術論】
- 6回 地域経済と人口減少と技術革新【人工知能，IoT】
- 7回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 8回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 9回 インターネットの衝撃【CN（コンピュータ・ネットワーク）】
- 10回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 11回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 12回 労働市場の変容【格差社会】
- 13回 企業の変容【多数立地企業】
- 14回 CNと都市【産業集積】
- 15回 地域経済の行方（まとめ）

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業に際して、前回までの流れを確認しておくこと。

地域経済II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もありますが、財政学とくに政府の役割の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも教科書をベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズMと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレト基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズMについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。)
事後学習として配布資料・プリントの復習を十分に行ってください。

財政学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学Ⅱ

ECN362M

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編
N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- 2) マクロ経済学
二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 3) 公共経済学
林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル① 財・サービス市場の均衡
- 5 IS-LMモデル② 貨幣市場の均衡
- 6 財政政策の効果とその有効性① (IS-LMモデルからの考察)
- 7 長期経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期経済モデル②企業による異時点間の最適化行動
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題)
- 10 財政赤字の問題点
- 11 財政赤字の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収支率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

財政学II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。)
事後学習として配布資料・プリントの復習を十分に行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。 それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。 授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織 【組織と個人】【統合】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

マネジメント論基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

この講義を受講する人の多くは、経営情報学科の必修科目である「経営学入門」を前期（1学期）に受講しているはずですが、なぜなら、この講義は「経営学入門」を履修した後に受講する講義科目（必修科目）として位置付けられているからです（経営情報学科のカリキュラム・ツリーを参照）。この講義では、「経営学入門」で学習した内容のうち、「カネ」の側面に着目して、会社（特に株式会社）の基本的な仕組みや資金調達方法などについて、多くの事例を交えながら講義を進めていきます。

この講義の目的は大きく2つあります。1つは、2年次以降のファイナンス系の専門科目（企業ファイナンスI、企業ファイナンスII、証券市場論、ファイナンス論、企業論I、企業論IIなど）を受講するうえで必要となる基礎知識を提供することです。もう1つは、企業経営に関して、世界ではどのような研究が行われているのかをざっくり紹介することで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えることです。大学は「学問」を発展させるために、日々「研究」が行われているところです。ですので、みなさんは大学で世界の最先端の研究に触れることができます。みなさんには学問的知見を貪欲に吸収して欲しいと思います。また、この講義は「公認会計士」・「証券アナリスト」・「ファイナンシャルプランナー（FP）」・「経営学検定」・「ビジネス数学検定」といった各種資格試験にも深い関わりがあります。

教科書 /Textbooks

榎原 茂樹・城下 賢吾・姜 喜永・福田 司文・岡村 秀夫、『入門証券論 [第3版]』、有斐閣アルマ、2013年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川 伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門〈第2版〉』、日本経済新聞社、2017年。
 大村 敬一・俊野 雅司、『証券論 - History, Logic, and Structure』、有斐閣、2014年。
 釜江 廣志(編)、『入門証券市場論 第3版補訂』、有斐閣、2015年。
 小松 章、『企業形態論』、新世社、2006年。
 手嶋 宣之、『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』、ダイヤモンド社、2011年。
 古川 浩一・蜂谷 豊彦・中里 宗敬・今井 潤一、『コーポレート・ファイナンスの考え方』、中央経済社、2013年。
 森生 明、『バリュエーションの教科書』、東洋経済新報社、2016年。
 (その他の参考書は講義で紹介します)

企業論基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的・意義・概要，成績評価の方法】
- 第2回 証券と投資①【証券，金融市場，金融仲介機関，直接金融，間接金融】
- 第3回 証券と投資②【発行市場，流通市場，効率的市場仮説(EMH)，リスクとリターン，統計学】
- 第4回 株式会社と株式①【企業形態，株式会社，株式，有限責任，株式市場，株式公開，会社法，M&A】
- 第5回 株式会社と株式②【株式会社の機関構造，所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード，コーポレート・ガバナンス，企業価値，株式価値】
- 第6回 企業分析①【経営戦略，競争戦略，コストリーダーシップ戦略，差別化戦略，リソース・バースト・ビュー，ダイナミック・ケイパビリティ，財務諸表】
- 第7回 企業分析②【財務分析，収益性，効率性，安全性，成長性】
- 第8回 評価の基本原則①【貨幣の時間価値，単利，複利，将来価値，現在価値】
- 第9回 評価の基本原則②【年金現係数，永続価値，成長永続価値，裁定取引，一物一価の法則】
- 第10回 ポートフォリオ理論①【リスク，リターン，期待値，分散，標準偏差】
- 第11回 ポートフォリオ理論②【共分散，相関係数，ポートフォリオ，システムティックリスク，アンシステマティックリスク】
- 第12回 ポートフォリオ理論③【効率的フロンティア，マーケットポートフォリオ，資本市場線，証券市場線，CAPM】
- 第13回 行動ファイナンス①【伝統的なファイナンス，行動ファイナンス，アノマリー，認知誤差，保守主義】
- 第14回 行動ファイナンス②【自信過剰，プロスペクト理論，メンタルアカウンティング，過剰反応，過小反応】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって，事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
講義終了後には，必ず講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで，「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中(または履修済み)であることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにしたい。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（三訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に沿って、予習と復習を必ず行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論I【昼】

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにしたい。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（三訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に沿って、予習と復習を必ず行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論I【昼】

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基本的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（三訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売上の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売上の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売上の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売上の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に沿って、予習・復習を必ず行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論II 【昼】

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる基本的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（三訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売上の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売上の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売上の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売上の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に沿って、予習・復習を必ず行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論II 【昼】

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済・経営に関する数理解解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 回：関数とグラフ | 【極限】、【連続関数】 |
| 2 回：関数と微分 | 【接線】、【導関数】 |
| 3 回：指数関数と対数関数(1) | 【指数関数のグラフ】 |
| 4 回：指数関数と対数関数(2) | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5 回：導関数(1) | 【n次関数の微分】 |
| 6 回：導関数(2) | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7 回：微分(1) | 【関数の和・差の微分】 |
| 8 回：微分(2) | 【関数の積・商の微分】 |
| 9 回：微分法(1) | 【合成関数の微分】、【対数微分法】 |
| 10 回：微分法(2) | 【関数の増減】、【関数の凹凸】 |
| 11 回：不定積分(1) | 【n次関数不定積分】 |
| 12 回：不定積分(2) | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13 回：定積分(1) | 【n次関数の定積分】 |
| 14 回：定積分(2) | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15 回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート提出（毎回出題）・・・ 30%
- 期末試験・・・ 70%

数学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容を教科書等で確認し準備を行うこと。

事後学習：授業で扱った内容を教科書やノートで復習し、与えられた課題レポートを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

[事前・事後学習の内容]

授業で学習した内容を十分確認し、授業の終わりに出題される問題を解き次回の授業までにレポートとして提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目で学んだことは経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」(MTH150M)を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済・経営に関する統計的理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営統計

MTH150M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、「初等統計学」培風館、1700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○J.C.ミラー著、村上正康訳、「統計学の基礎」培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布(1) 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布(2) 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定(1) 【大標本法】
- 8回：推定(2) 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定(1) 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定(2) 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定(1) 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定(2) 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
 期末試験・・・ 70%

経営統計【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容を教科書等で確認し準備を行うこと。

事後学習：授業で扱った内容を教科書やノートで復習し、与えられた課題レポートを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。必修科目「数学」(MTH100M)を理解していれば、「経営統計」の授業がより深く理解できます。

[事前・事後学習の内容]

授業で学習した内容を十分確認し、授業の終わりに出題される問題の解き次回の授業までにレポートとして提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

情報デザイン 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報デザインに関する基礎的な知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	● 情報デザインで用いられている手法の基礎を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 様々な情報デザインを客観的に分析できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報デザインで用いられている手法を実社会で応用することができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報デザイン

INF103M

授業の概要 /Course Description

理解しやすい情報や使いやすいシステムをデザインするには、利用者（ユーザ）のを中心に考えることが重要です。本授業では、そのために必要な、利用者のニーズやウォンツを知り、自分たちでアイデアを出し合い、形にまとめていく一連のプロセスをワークを通して体験しながら学習します。最終的には、情報関連分野のみならず、より広い領域で実践に生かせる知識、技術の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『情報デザインの教室』（情報デザインフォーラム編）丸善
- 『UXデザイン入門』（川西裕幸、潮田浩、栗山進 著）日経BP社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション、UIとは何か
- 2回 ユーザモデリング
- 3回 ストーリーボード
- 4回 画面設計・フロー設計（スケッチとプロトタイピング）
- 5回 ユーザビリティテスト
- 6回 総合課題（1） リサーチ
- 7回 総合課題（2） ユーザモデリング
- 8回 総合課題（3） コンセプトデザイン
- 9回 総合課題（4） ストーリーボードの作成
- 10回 総合課題（5） プレゼンテーション
- 11回 総合課題（6） デザインの洗練
- 12回 総合課題（7） ペーパープロトタイプの作成
- 13回 総合課題（8） ペーパープロトタイプの改良
- 14回 総合課題（9） アクティング・アウト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で使用するレジュメを学習支援フォルダ等に挙げるので、参照し事前準備を行う必要があります。
授業で学んだツールや技術を授業後に自主的に活用し、授業内容の定着を図る必要があります。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講していると、理解しやすくなる場合があります。
基本的には、毎回ワークを行います（グループワークが中心ですが、個人ワークもあります）。
授業の時間と内容の都合上、遅刻・欠席は厳禁です。
他のメンバーに迷惑が非常にかけられますので、授業を遅刻・欠席しないという意思の強い人のみ履修してください。

情報デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

興味がないとこの授業は苦痛になるだけだと思います。
授業に対して一生懸命取り組んでくれることを期待しています。
1限から遅刻せずに集中して学ぶことができる人のみ履修してください。

キーワード /Keywords

UI (ユーザインタフェース)、UXD (ユーザ・ エクスペリエンス・ デザイン)

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングI

INF110M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城 浩 著『Java言語プログラミングレッスン 第3版(上)』ソフトバンククリエイティブ
結城 浩 著『Java言語プログラミングレッスン 第3版(下)』ソフトバンククリエイティブ
高橋 麻奈 著『やさしいJava 第6版』ソフトバンククリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(クラスにより内容が違いますので、おおよその内容です。受講者の理解度により内容は変更することがあります。【 】はキーワード。)

- 1回 情報科学入門の復習【Scratch】【フローチャートの書き方】
- 2回 フローチャート演習
- 3回 基本操作【Java】【Eclipse】
- 4回 変数の利用とデータ型【変数宣言】【算術演算】
- 5回 配列の利用【配列宣言】
- 6回 繰り返し【forループ】
- 7回 繰り返し【2重ループ】
- 8回 ここまでのまとめと問題演習1
- 9回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
- 10回 コンピュータとの対話【メッセージダイアログ】【インプットダイアログ】
- 13回 演習1【確認問題】
- 14回 演習2【応用問題】
- 15回 まとめと総合問題演習【模擬テスト】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後に演習問題に取り組み、授業開始前までに疑問点(わからない点)を明確にしておくこと。

プログラミングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングのためのプログラム言語 (Java) について学習すること (プログラム言語のルールの習得) は多くありません。ルールの1つずつは簡単です。与えられた問題を解決するプログラムは、学習したそれほど多くはないルールを組み合わせて作成します。慣れるまでは、この組み合わせ (処理の手順) を考え出すことが相当難しいといえます。慣れるには、できるだけ多くのプログラムを作ることです。
また、前期の情報科学入門で学習したscratchが大変参考になります。復習しておいてください。

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 西山 宏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングII

INF210M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを通じたプログラミングスキルの習得、および論理的思考力の養成を目的とする。またグループワークを行い、エンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中山清喬・国本大悟著『スッキリわかるJava入門 第2版』
 結城浩著『Java言語プログラミングレッスン [第3版] (上)』
 結城浩著『Java言語プログラミングレッスン [第3版] (下)』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
1. オリエンテーション
 2. プログラミングI: 復習【変数】【配列】【条件分岐】【繰り返し構文】
 3. オブジェクト指向
 4. クラスとインスタンス【フィールドとメソッド】【コンストラクタ】
 5. カプセル化【public、protected、private】【getterとsetter】
 6. クラスの継承
 7. 演習
 8. 文字列処理関数と正規表現
 9. ファイル入出力
 10. スレッドと並列処理
 11. 例外処理【try-catch構文】
 12. GUIとSWT
 13. グループワーク (設計)
 14. グループワーク (開発)
 15. グループワーク (発表)、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート.....40%、中間試験.....30%、期末試験.....30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画を参考に、次回の学習内容について予め学習しておくこと。
 また、授業で出す演習問題だけでなく、ネット上の学習サイト等を参考に、自ら演習に励むこと。

履修上の注意 /Remarks

必修科目「プログラミングI」を履修していることが望ましい。
 学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録をすること。

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングの上達には、とにかく量をこなすしかない。
授業で出す演習問題だけでなく、ネット上の学習サイト等を参考に、自ら演習に励むこと。

キーワード /Keywords

Java、Eclipse、オブジェクト指向、SWT、アプリケーション開発

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム	INF220M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 データ集合を効率よくコンピュータ処理する際の形式化【データ構造】
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 情報と情報量、あいまいさ【エントロピー】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【電子自治体】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

コンピュータシステム【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示され用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容欄に示すように授業内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等積極的に自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 会計談話その1 - 会計学とは何か？ - 【資本循環範式、現金、ホスピタリティ】
- 13回 会計談話その2 - 会計学とは何か？【会計のアカデミズム】【会計学者の群像】
- 14回 財務諸表等を知る【投資家、ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト等を含む）... 20% 課題... 10% 期末試験... 70%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。未履修者は、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編である。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：『学習支援フォルダ』のレジメや、簿記論のテキストや、会計学の入門書を読むことをすすめる。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

財務会計論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。

キーワード /Keywords

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジユメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)
他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 産業進化とイノベーション【技術】【市場】【オープン・クローズ】
- 第12回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】
- 第14回 経営戦略と組織3-事例研究-【組織文化】【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によります。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

データ構造【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なアルゴリズム・データ構造の基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータ構造に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータ構造を通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データ構造

INF231M

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は 以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【シェルソート】【マージソート】
- 11回 ソート法2、グラフ【ヒープソート】【グラフ】【隣接行列】
- 12回 応用例1【ダイクストラ法】【ハノイの塔】
- 13回 応用例2【動的計画法】
- 14回 応用例3【最大流問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70%

課題... 30%

データ構造【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、難易度は高めです。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
 根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
 その他、講義中に指示

データベース 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%

詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は高めです。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

Webプログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なWebプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのWebプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてWebプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Webプログラミング

INF212M

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。

本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミングを中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのPHP言語の習得を目的とします。

PHPとは、Webページ上での処理を目的とした言語で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をするプログラムなどが作成可能です。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他、アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどにも応用可能です。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。まとめ資料も配布しますが、最低限の内容しか記載していません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷藤賢一著、『いきなり はじめる PHP』、リックテレコム
 小川雄大他『パーフェクトPHP』、技術評論社
 山田祥寛『独習PHP 第2版』、翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、PHPとは【PHP】
- 第2回：PHPに必要なソフトのインストール
- 第3回：PHPの仕組み、HTML作成方法
- 第4回：HTMLによるフォームの作成方法
- 第5回：PHP言語入門：変数【PHP言語】【変数、配列】
- 第6回：HTMLとPHPによるデータの受け渡し方法【データ受け渡し】
- 第7回：PHP言語入門：条件分岐 1【条件分岐】
- 第8回：PHP言語入門：条件分岐 2【複雑な条件分岐】
- 第9回：PHP言語入門：繰り返し 1【繰り返しfor】
- 第10回：PHP言語入門：繰り返し 2【繰り返しwhile】
- 第11回：PHPによるファイル操作 1【ファイル操作】
- 第12回：PHPによるファイル操作 2【データの入れ替え】
- 第13回：乱数の利用【乱数】
- 第14回：クリックブルマップの利用【クリックブルマップ】
- 第15回：PHP技術の応用【PHP応用】

(進行速度、受講者の希望等により内容、順番、進み方は変更となる場合があります。)

Webプログラミング【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 課題・小テスト...25% 期末試験...60%

詳細は第1回目に説明するので、必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回内容を復習し、理解できていない場合にはテキスト、参考資料、Web検索などでしっかりと勉強し、次回までには理解しておくこと。定期的な課題にもしっかりと時間をかけて取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPHP言語というプログラミング言語によるWeb上で動作するプログラミングをします。PHPはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解しやすいと思います。

PHPについては、初歩から中級程度の内容を勉強します。(自分で勉強したことがある人は物足りない可能性があります。)

Windowsの基本的な操作はできることを前提に話をします。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。必要なソフトのコピーをするので、この授業向けには1Gb(メガバイト)程度の容量が必要になると思います。

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。本講義では、担当教員も執筆者として参加している上林(2015)を教科書として用いるので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できると思いますが、講義の順序は教科書の配列とは少し変えています。

教科書 /Textbooks

上林憲雄編(2015)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。(2,592円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人的資源管理論へのプロローグ
 - 2回 人的資源管理入門【企業経営】【人的資源】
 - 3回 モチベーション理論【やる気】【モチベーション】
 - 4回 リーダーシップとコミットメント【リーダーシップ】【コミットメント】
 - 5回 組織構造論【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【採用】【異動】
 - 7回 人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 昇進管理【昇進】【出世】
 - 9回 賃金制度【属人給】【仕事給】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 国際人的資源管理【多国籍企業】【海外派遣者】
 - 12回 人的資源管理学説の変遷(1)【科学的管理法】【人間関係論】
 - 13回 人的資源管理学説の変遷(2)【行動科学】【戦略人事】
 - 14回 人的資源管理と組織能力の連関【組織能力】【ダイナミック・ケープビリティ】
 - 15回 近年における人的資源管理の動向、総まとめ【ダイバーシティ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。

事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといよいでしょう。
- (2) 教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と同じです。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退会をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずです。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2016年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣
中小企業庁編「2016年版小規模企業白書」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業データ分析【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	データ解析法の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのデータ解析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業データ分析

INF341M

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まり、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

この講義を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【Excelの使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 2つの変数の間の関係【散布図】，【相関】
- 5回 確率の考え方【確率分布】，【2項分布】
- 6回 連続的な分布の扱い方I【正規分布】，【確率密度関数】
- 7回 連続的な分布の扱い方II【正規分布】，【累積分布関数】
- 8回 母集団と標本【母数】，【標本】，【推定値】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】，【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【信頼区間】，【比率の標準誤差】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 12回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 13回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...30% 試験...70%
尚、欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を学習支援フォルダにアップロードしますので、ダウンロード、読んでおいてください。

講義中の実習のほかに練習問題も出します。講義のあとは、練習問題を解いて理解度を確認してください。

企業データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	オペレーションズ・マネジメントの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのオペレーションズ・マネジメントに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

オペレーションズ・マネジメント INF200M

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 3回 【AHP】の実習
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ
- 5回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ
- 6回 【PERT】の実習
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ
- 8回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ
- 9回 【経済性工学】の実習
- 10回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 11回 【線形計画法】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ
- 13回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ
- 14回 【待ち行列理論】の実習
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%，レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理解できなくても構いませんので、教科書の該当章をあらかじめ読み、どのような内容になるのか、こういった点が重要と考えられるかなど、考えておくことで講義での理解が深まります。

講義のあとは、練習問題を解いてみることで、講義で習った手法の実際場面での利用について考えることで理解が深まります。

オペレーションズ・マネジメント【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は 以下のとおりである。

- 1.コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
- 2.コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
- 3.コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

情報ネットワーク【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味をきちんと調べて受講してほしい。

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

情報経営【昼】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報経営に関わる諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報経営

BUS316M

授業の概要 /Course Description

情報や知識の企業経営に対する展開方法を考察する。役立つ経営情報をつくるためのシステム制作手順、意思決定支援システムについて具体例を上げて検討する。経営情報を通じて企業収益を高めるための方策、企業や組織の壁を越えて連携する様子をいくつかの例を上げて考察する。大企業を中心としたグローバル化における情報戦略を考えてみる。

教科書 /Textbooks

スライドとプリントを併用して行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮川公男編著：「経営情報システム」、中央経済社 (1994)3000円
 泉英明著：「わかりやすい生産管理 基礎が身に付く15講義」、日刊工業新聞社 (2015)2000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目	情報経営の意義	情報経営の役割、評価
第2回目	情報の特徴と情報生産	経営と管理に役立つ情報
第3回目	経営・管理・作業情報	管理階層と情報
第4回目	情報システムの機能	業務効率化と情報システム
第5回目	情報・知識の形	暗黙知と形式知の相互補完
第6回目	情報システム制作と活用	情報システム制作
第7回目	情報システム普及の背景	コンピュータの小型化、低廉化、高性能化
第8回目	ユビキタス社会とIoT経営戦略	流通効率化・サービス化、インターネットによる物の管理
第9回目	意思決定支援システム	意思決定支援システムの変遷
第10回目	電子商取引	対消費者 (B to C)、対企業 (B to B)
第11回目	SCM,VCM	企業間連携 (供給連鎖、価値連鎖)
第12回目	顧客管理のデータベース (CRM) (SFA)	顧客管理システム、営業支援システム
第13回目	モノづくりの効率化	CAD/CAM、NCデータ、ロボット
第14回目	国際化・グローバル化時代の情報経営	多国籍企業の情報戦略
第15回目	情報経営の総括	情報経営の成果と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%、小テスト20%、授業態度 (積極的発言) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1. 次回行う授業の「キーワード」を知らせるので、概要を調べておくこと。
2. 実施した授業内容のポイントを知らせるので復讐すること。

履修上の注意 /Remarks

情報が日常業務に、管理に、経営に、どのように役立つかを常に考えること。企業における情報の在り方について本当はどうあるべきかを考えること。

情報経営【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、専門誌の情報経営に関する記事に興味をもつこと。

キーワード /Keywords

情報の効用、情報コスト、提供タイミング、情報価値、情報生産、情報利用、情報のリスク

システム分析 【昼】

担当者名 /Instructor 江藤 宏 / Hiroshi Eto / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートを掲載する。（掲載場所未定、初回授業時に説明）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
 大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○
 平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習（データ処理）
 - 14回 グループ演習（発表）
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回までの授業内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

システム分析 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム設計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム設計に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム設計の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム設計

INF420M

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートを学習支援ホルダーにアップする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング
Ed Burnette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
- 2回 アプリ開発とは？【Eclipse】【Android Developer Kit】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
- 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
- 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
- 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
- 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
- 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
- 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
- 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
- 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。講義ノートは学習支援ホルダーにアップしておくので、予め予習し、分からない点は講義中に質問すること。

システム設計 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉 1

SOW100M

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会福祉とは何か 【憲法25条】【人間の基本的ニーズ】【ウェルビーイング】
- 3回 生活問題とソーシャルワーク 【社会福祉援助技術】【個人と環境との不適合】
- 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
- 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイスティック】
- 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助 【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 8回 生活保護法 【生存権保障】【救貧】
- 9回 社会福祉の歴史（イギリス） 【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 10回 社会福祉の歴史（日本） 【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
- 11回 社会福祉の歴史(ビデオ) 【日本のセツルメント活動】 【賀川豊彦】
- 12回 福祉改革と日本の動向 【日本型福祉社会論】【規制緩和】【格差社会】
- 13回 日本と世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
- 14回 日本と世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業で配布した学習用問題プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジユメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉とは何か①【オリエンテーションと社会福祉への理解】
- 2回 社会福祉とは何か②【社会福祉の政策・支援・対象】
- 3回 児童福祉政策の主要な論点と課題①【児童虐待の現状と考え方】
- 4回 児童福祉政策の主要な論点と課題②【児童福祉法と児童虐待防止法】
- 5回 児童福祉政策の主要な論点と課題③【児童相談所の役割と機能】
- 6回 児童福祉政策の主要な論点と課題④【子ども・家族・社会のあり方と虐待防止のための課題】③【】
- 7回 障がい福祉政策の主要な論点と課題①【障がいのある人と近・現代社会】
- 8回 障がい福祉政策の主要な論点と課題②【障がいのある人と社会思想】
- 9回 障がい福祉政策の主要な論点と課題③【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 10回 障がい福祉政策の主要な論点と課題④【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 11回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題①【高齢者の福祉とは何か】
- 12回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題②【介護保険法の成立と課題】
- 13回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題③【介護保険制度のしくみと課題】
- 14回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題④【介護保険制度に位置づく専門職者の役割と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、国民の生活実態について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

講義の都度に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会と福祉 2 【昼】

キーワード /Keywords

権利と義務、自立、生活問題

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1 Credits 単位 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉に関する理論と現場理解を基盤に、地域と対象者の抱える問題の本質を分析できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における社会福祉活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 1

SOW260M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域と対象者の抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に主体的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 2

SOW261M

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。また、授業ごとに配布されるレジュメを見直すこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%
3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習として教科書に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は、概ねテキストに則して進めるので、テキストの該当箇所を精読して復習を行うこと。

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

社会調査の基礎【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基本的考え方等について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	ネットワーキング等の具体的な支援技術、問題解決へのコーディネート力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	多面的な視野から地域福祉問題の本質を見抜き、その解決策を提案する力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、地域福祉活動に積極的に取り組む姿勢を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法 1

SOW210M

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程 1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程 2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 日常の授業への取り組み20% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 政孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基礎的・専門的な理解ができる。
技能	専門分野のスキル	●	地域福祉の援助方法について理解ができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域福祉の諸課題を分析し、解決のための方法を検討することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考えを適切な方法で表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域福祉の諸課題を自らの生活に引き付けて理解し、継続して学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法2

SOW211M

授業の概要 /Course Description

少子高齢化や地域の連帯感の希薄化、都市部での地域社会の脆弱化、中山間部の限界集落の問題等、公的な福祉サービスだけでは要支援者を支援することは困難となっています。授業では、パワーポイント・DVD・配布資料を使用して、地域福祉に関わる機関、団体、人材状況などを把握し、地域コミュニティの創造に向けて、住民や専門職がどのような役割を果たしているか理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
 必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、講義の理解を深めるために「社協コミュニティワーカー黒子読本」を推薦します。栃木県社会福祉協議会ホームページからダウンロードできます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 第 1 回 オリエンテーション 【傾聴】【自己覚知】
- 第 2 回 地域福祉の推進機関 【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】【共同募金会】
- 第 3 回 地域福祉の人材1 【自治会】【民生委員】【福祉委員】
- 第 4 回 地域福祉の人材2 【ソーシャルワーカー】【NPO】【ボランティア】
- 第 5 回 孤立死防止対策 【孤立死】【ネットワーク】
- 第 6 回 認知症支援 【認知症サポーター】
- 第 7 回 震災からの復興・ゼロからの地域づくり 【災害ボランティア】【生活支援相談員】
- 第 8 回 権利擁護 【日常生活自立支援事業】【成年後見制度】
- 第 9 回 日常生活自立支援事業・成年後見制度事例検討 【相談援助】【他職種連携】
- 第 10 回 集合住宅及び集落における支え合い 【住民参加型サービス】【住民主体】【介護予防】
- 第 11 回 ソーシャルワークの方法 【タスクゴール・プロセスゴール・リレーションシップゴール】
- 第 12 回 事例検討①
- 第 13 回 事例検討②
- 第 14 回 地域福祉計画の実際 【地域福祉計画】【地域福祉活動計画】
- 第 15 回 福祉教育の考え方と推進方法 【社会福祉推進校】【体験学習】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、 期末試験(レポート)... 70%

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：キーワードについて理解を深めておいてください

事後学習：興味関心を持った授業内容について参考書、福祉関係雑誌、新聞などでさらに調べてみてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分が住んでいる地域の、地域福祉に関わる機関、団体、人材、地域行事などを調べておくと、より理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーカー

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	児童や家庭に関わる諸課題を的確に捉え考察し、対応策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

SOW223M

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚機材などを用いることで、その実感が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 児童福祉に関する法律、施設・機関 【児童福祉六法】【児童相談所】【福祉事務所】【児童家庭支援センター】
- 第3回 ひとり親家庭と母子生活支援施設 【母子及び寡婦福祉法】【父子家庭】【母子自立支援員】
- 第4回 DV防止法 【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第5回 乳児院と児童養護施設 【グループホーム】【ファミリーホーム】
- 第6回 里親制度 【養育里親】【専門里親】【自立援助ホーム】
- 第7回 児童自立支援施設と少年非行 【家庭裁判所】【児童相談所】
- 第8回 少年犯罪と厳罰化 【少年院】【少年法】【少年鑑別所】
- 第9回 児童虐待防止法 【虐待の早期発見】【通告】【マルトリートメント】
- 第10回 障害児の福祉 【重症心身障害】【発達障害】
- 第11回 母子保健 【リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】【母体保護法】【出生前診断】
- 第12回 保育所と幼稚園 【幼保二元化】【認定子ども園】【多様な保育ニーズ】【待機児童】【夜間保育所】
- 第13回 児童健全育成と児童厚生施設 【児童遊園】【児童館】【学童保育】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法 【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（授業への参加度、提出物など）... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業中に配布した学習用問題プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

参考文献『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論 1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度 1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2017年版
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程 1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程 2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2017年版
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、戦後の障がい者福祉施策を俯瞰しながら地域生活、施設利用などでの問題を取り上げ、以下の点について吟味する。

- ①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
- ②障がい者の権利保障とは何かについての検討する。
- ③また障がいのある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
- ④さらにはこれまでタブー視されてきた障がい者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立とは何か】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【障害者総合支援法の概要と課題】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【地域生活】
- 5回 障害者施策の現状と課題④ 【ケアマネジメント】
- 6回 権利擁護システム① 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム② 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、障がいのある人の生活実態について理解を深めること。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

履修上の注意 /Remarks

その都度配布する講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自立、地域生活、施設生活、恋愛と性、生命倫理

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人と環境の相互作用に関する専門知識に加え、相談援助の対象と実践モデルについて理解する。
技能	専門分野のスキル	● 地域で相談援助活動を行っていく上で必要とされる、具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から状況を判断し、個々人が抱える問題の本質を見抜く力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 1

SOW262M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士が行う相談援助に関する理論や技術を学ぶ。「人」と「環境」の交互作用という観点から対象を把握し、援助をおこなうソーシャルワークの方法について学ぶ。ソーシャルワークで重視する人と環境との関係性やソーシャルワークが捉えるニーズについて理解する。相談援助のプロセスや、さまざまな実践モデル・アプローチについて学ぶ。また、クライアントとケースワーカーとの援助関係や原則、相談援助で用いる面接技法について、事例やロールプレイなどを用いながら、その技法について理解を深める。

教科書 /Textbooks

特になし。
適宜資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法I』中央法規(最新版を使用する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 相談援助とは何か
- 3回 相談援助技術体系 【ジェネリックソーシャルワーク】【システム理論】
- 4回 相談援助におけるニーズ 【人と環境との交互作用】
- 5回 相談援助の対象 【生活問題】【ミクロ、メゾ、マクロの視点】
- 6回 相談援助の過程 【アセスメント】【プランニング】【インターベンション】【モニタリング】【エバリュエーション】
- 7回 実践モデルとアプローチ 【伝統的モデル】【社会心理的アプローチ】【機能的アプローチ】
- 8回 実践モデルとアプローチ 【問題解決アプローチ】【課題中心アプローチ】【行動変容アプローチ】
- 9回 実践モデルとアプローチ 【生活モデル】【エンパワメント】【ストレングス】
- 10回 相談援助のための援助関係 【バイステックの原則】
- 11回 相談援助のための援助関係 【ラポール】
- 12回 相談援助のための面接技術 【援助者の基本的態度・ロジャーズ】
- 13回 相談援助のための面接技術 【生活場面面接】
- 14回 相談援助のための面接技術 【傾聴】【受容】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験、レポート等の提出物、授業の参加状況等を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習は授業で学んだことの復習をすること。

相談援助の理論と方法 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を望みます。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相談援助の対象と集団を活用した実践モデルについて総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 多職種連携や多機関連携等の具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 個人や集団が置かれた状況を判断し、人々が抱える問題の本質を見抜く力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのキャリアラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法2

SOW263M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワーカーがクライアントに対して行う相談、助言・指導・連絡・調整・その他の援助に関する「理論と方法」について学ぶ、相談援助演習や相談援助実習指導、および相談援助実習に関連する重要な科目の一つである。特に個人から家族・小集団・組織・地域社会というマイクロからメゾ、マクロまでをクライアントシステムとして捉え、理解することを目的とする。具体的には「相談援助の対象の理解」、「ケース（ケア）マネジメント」、「コーディネーションとネットワーク」、「実践モデルとアプローチ」、「スーパービジョンとコンサルテーション」等についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

中央法規「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II 第3版」社会福祉士養成講座編集委員会編
ミネルヴァ書房「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房編集部編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内にて適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 相談援助の対象の理解
- 第2回 ケア（ケース）マネジメント（1） ケアマネジメントの概念と援助過程
- 第3回 ケア（ケース）マネジメント（2）ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴
- 第4回 ケア（ケース）マネジメント（3）ケアマネジメントの特徴
- 第5回 グループを活用した相談援助
- 第6回 コーディネーションとネットワーク
- 第7回 社会資源の活用・調整・開発
- 第8回 さまざまな実践モデル・アプローチ（1）
- 第9回 さまざまな実践モデル・アプローチ（2）
- 第10回 さまざまな実践モデル・アプローチ（3）
- 第11回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 第12回 ケースカンファレンスの技術
- 第13回 相談援助における個人情報保護
- 第14回 ケースカンファレンス（事例検討）（1）
- 第15回 ケースカンファレンス（事例検討）（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70%
講義に対する取り組み・・・20%
課題・・・10%

相談援助の理論と方法 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目単独での学びだけでなく、他の科目との関連性にも留意しながら学習すること
テキストを中心に、多くの相談援助技術に関する書籍にも目を通すこと

履修上の注意 /Remarks

評価は3分の2以上の出席がある者を対象とする
講義開始後30分以内は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとする
また中途の退室も減点の対象とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

ケアマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法 3 【昼】

担当者名 /Instructor 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	相談援助に関する基礎的・専門的知識と技術を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	初任者段階での相談援助の知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	●	生活問題に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間の暮らしと社会問題の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 3

SOW264M

授業の概要 /Course Description

- 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - ソーシャルワーク・アプローチ（実践モデル）の多様性について学ぶ。
 - 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
 - 少子高齢化の加速、人口減少社会への突入といった社会構造の変化と影響についての認識を深める。
- 次の6つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。授業内容のメインは、コミュニティソーシャルワークです。
 - 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革、施策・事業の統合と再編等を軸とする関連政策動向（大状況）の分析を行い、地域福祉実践の今日的な位置・役割や課題についての認識を深める。
 - 住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - 地域福祉を進める援助技術の全体像について理解を深める。
 - 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けて事前にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
 参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等の資料を必要に応じて（抜粋し）配布・紹介します。
 参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保紘章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻、⑧岡田知弘「『自治体消滅』論を超えて」、⑨コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」⑩森山彰・小池信行「地域後見の実現」⑪NPO法人ノンラベル・田井みゆき「パスポートは特性理解」。

相談援助の理論と方法 3 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 個別支援と地域支援(1)点から線へ、そして面への展開を考える
- 2回 個別支援と地域支援(2)地域福祉ソーシャルワーカーが行う個別支援の基本を考える
- 3回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(1)基本的視座と機能を考える
- 4回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(2)コミュニティアセスメントと社会資源開発を考える
- 5回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(3)地域づくりによる介護予防を考える
- 6回 地域福祉ソーシャルワーカー実践事例の解説【無縁社会の克服と社会的孤立の解消】
- 7回 地域包括支援体制の確立と中間支援組織のあり方を考える・・・地域福祉活動計画から
- 8回 地域福祉の推進主体(1)主体形成を考える
- 9回 地域福祉の推進主体(2)個人情報の共有を考える
- 10回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜を知る
- 11回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の発展と類型を知る
- 12回 コミュニティ・オーガニゼーション(1)原理・原則と理論の問題点、過程を考える
- 13回 コミュニティ・オーガニゼーション(2)合意戦術と専門ワーカーの役割を考える
- 14回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)社会福祉の3元構造論と自治型地域福祉論に学ぶ
- 15回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)住民主体の地域福祉の推進に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、あらかじめ配布したプリントを読み、授業内容についてのイメージづくりを行ってください。
事後学習は、毎回授業の始めに行う前回講義のポイント解説に基づき、重点的に行ってください。

履修上の注意 /Remarks

講義のメモを丹念にとること(特に、黒板に板書した内容)。
授業中の私語は禁止します。
講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、いつでも注文をつけてください。努力します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動(主権者運動・当事者運動)、住民自治、地域分権、主体形成
- 援助技術の核心は・・・ソーシャルアクション、エンパワーメント
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括推進体制の確立
統合化、社会変革と政策提言
- 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標、社会的背景

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日本を中心とした社会保障制度の基礎について理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代日本における社会保障制度の抱える課題に気づくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障

SOW240M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の課題（20点）+ 期末試験（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険（年金、医療、介護、雇用）について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

社会保障【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

低所得者に対する支援と生活保護制度 【昼】

担当者名 /Instructor 大西 清文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	低所得者に関する諸課題を的確に捉え、支援策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に対する関心を高め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成する。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M

授業の概要 /Course Description

- 1) 今日の日本が抱える大きな問題、「貧困」。その当事者である人々が必要としているものは、貧困から脱するための様々な支援施策や支援活動はもとより、その制度や活動に適切につなげてくれる相談者・支援者である。日本では、その人材を養成する仕組みとして、福祉系国家資格の社会福祉士がある。
- 2) 本講座では、社会福祉士カリキュラム「低所得者に対する支援と生活保護制度」に則しながら、低所得者支援、生活保護、困窮者自立支援などの制度を学んでいく。
- 3) 特に、生活保護は、社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットであり、ケースワーカーはもとより、福祉施設職員、病院ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解を求められる制度である。
- 4) さらに実際の現場では、「人と人の関わり」から制度活用が始まるので、困窮者や各支援者等の思いや考えの尊重した上で、援助展開を図らなければならない。そこで本講義では、厚生労働省監修ケース事例や各自が考えた想定事例等を活用し、当事者・支援者の様々な立ち位置の人間の気持ちの思い慮りながら援助展開を検討するグループワーク学習を行い、福祉に携わる人としての気持ちの醸成を図っていく。

教科書 /Textbooks

生活保護のてびき 平成29年度版（第一法規）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉士試験対策として
- ・ 低所得者に対する支援と生活保護制度（久美出版・中央法規・弘文堂・みらい他）
- 貧困問題の理解を深めるために
- ・ 絆を伝えるソーシャルワーク入門-社会福祉・児童家庭福祉・相談援助のサブテキスト（宮武 正明著 大空社）
 - ・ 子どもの貧困-貧困の連鎖と学習支援（宮武 正明著 大空社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 学習ガイダンス～自分と貧困・低所得者問題の関係を見つめなおすために
- 2 貧困を考える～低所得者支援に関わる人々の諸相
- 3 公的扶助の歴史（イギリス他）と欧米の福祉国家
- 4 公的扶助の歴史（日本）と今日の行政施策
- 5 生活保護制度の原理・原則～各自治体の「生活保護のしおり」から
- 6 低所得者・貧困層への相談援助活動～困窮者自立支援法に基づく取り組み
- 7 生活保護制度の現状（機関と実施体制・動向と課題等）～厚労省、各自治体の制度・統計資料をみながら
- 8 自立を捉える～個別作成による想定事例の検討から捉える自立障壁と支援の実相
- 9 生活保護基準・種類と費用・被保護者の権利義務・援助活動～厚労省監修のケース事例を通して
- 10 世帯類型(母子世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 11 世帯類型(高齢者世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 12 世帯類型(障害・傷病者世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 13 世帯類型(その他世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 14 グループワークによるケース検討①～当事者の課題に焦点を当てた検討
- 15 グループワークによるケース検討②～①の課題に対応する支援の取り組みとまとめ

低所得者に対する支援と生活保護制度 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況 10%、レポート（想定事例制作と検討）40%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 生活保護や低所得者支援に関するニュース報道を読んでおくこと。※世論を知ることは、学習の視点を豊かにします。
他の社会福祉に関する既学習内容を見直しておくこと。※本講義との関連性が高いので理解が深まります。
事後学習 授業で説明した支援ポイントや専門用語の整理と理解。※あとに続く授業と社会福祉士試験に生かします。

履修上の注意 /Remarks

レジメ等の配布資料のバインドを確実に持ち参ってください。参考資料として、必要の都度にご利用します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メッセージを二つ。
一つ目は、身近な感覚が持ちにくい低所得者支援や生活保護制度ですが、実は、皆さんの真上・真後・真横の問題です。
二つ目は、「貧困解決に向けての学び」の土台は、皆さんの貧困問題への感情や感性です。
この二つの上に立って、「低所得者に対する支援と生活保護制度」の学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人体の構造と機能及び疾病についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）	●	疾病が発生する要因を社会生活のあり方との関連で理解することができる。
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力	●	疾病の発生とライフサイクル上の健康の課題を理解することを通して、人間の生活課題に対する関心を高める。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人体の構造と機能及び疾病

SOW231M

授業の概要 /Course Description

医学一般を理解するため、人体の基礎的な解剖、生理を学び臨床医学へと講義を進めてゆく。最後に超高齢化社会に伴い医療と介護、福祉の連携や医事法制や保健医療などを理解してもらう。

教科書 /Textbooks

黒田研二、住居広士著 人体の構造と機能及び疾病、ミネルバ書房 ￥2600

プリントも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長、発達と加齢、老化
2. 器官と臓器：呼吸と循環、身体の仕組み、人体構造
3. 消化器
4. 肝臓、胆嚢、膵臓
5. 皮膚、泌尿器、骨筋肉、内分泌など
6. 生活習慣病：悪性腫瘍、癌など
7. 循環器疾患
8. 脳血管疾患
9. 糖尿病、高脂血症、痛風、メタボリック
10. 感染症
 11. 精神障害
 12. 神経疾患
 13. 骨関節、結合組織
 14. 先天性疾患
 15. 医療と介護

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 出席があること。全欠席での試験のみは認めない。
2. 期末試験に持ち込みはなし。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

【事前・事後学習の内容】

事前学習：教科書や配付プリント、雑誌など病気・医療に関する理解を深めておくこと。
 事後学習：講義中にメモをとるなどし、講義で取り扱う視聴覚教材について復習すること。

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 保健医療サービスに関する専門知識に加え、生活に関わる福祉の専門知識について、総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 保健医療サービスに関する理論と現場理解を基盤に、課題解決に取り組む力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

保健医療サービス

SOW230M

授業の概要 /Course Description

医療保障には診療報酬などを含む医療保険制度としての政策と医療専門職養成を含む医療保障制度を実施する医療機関や医師、看護師等の専門職の役割などがあります。これらを含む保健医療サービスについて多職種との連携や協働も視野に入れて講義を進める予定。これにより、学生は相談援助に必要な医療保険制度について説明することができる。

教科書 /Textbooks

福祉臨床シリーズ編集委員会編「保健医療サービス(第3版)」(社会福祉士シリーズ17)弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の内容、進め方、医療保障の位置づけ
- 第2回 医療保障制度の歴史1(昭和20年まで)
- 第3回 医療保障制度の歴史2(昭和20年以降)
- 第4回 医療保険制度の保険者
- 第5回 保健医療対策の概要
- 第6回 診療報酬制度、高額療養費制度等
- 第7回 専門職の役割1(医師の役割 特別講師を予定)
- 第8回 専門職の役割2(保健師、看護師の役割 特別講師を予定)
- 第9回 医師、保健師、看護師等専門職との連携(特別講師を予定)
- 第10回 専門職の役割3(作業療法士、理学療法士等の役割 特別講師を予定)
- 第11回 専門職の役割4(医療ソーシャルワーカーの役割)
- 第12回 インフォームドコンセントの意義と実際
- 第13回 医療施設の概要
- 第14回 地域の社会資源との連携
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポートなど 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

保健医療サービス【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画

SOW242M

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト・中間まとめ含む）... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

福祉行財政と福祉計画 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスのあり方は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし、社会保障費の増加や社会福祉従事者の増加は、日本が築いてきた社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の問題等、規制改革とともに新たな福祉経営がもたらされる時代となった。福祉施設は、人生のリスクに対するセーフティネットである。利用者の自立を運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に信頼が築ける施設経営が求められている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営は何かを学習する。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステムも視野に入れながら21世紀型の地域福祉及び福祉経営について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利理解
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、事後学習としてテキストの振り返りが大切です。

福祉サービスの組織と経営【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。担当教員は福祉施設の施設長(社会福祉士・主任介護支援専門員)ですが、その立場から経営論を市民、地域、行政、関連事業者のニーズを踏まえて論じます。

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業に関する基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	権利擁護の取り組みに関する関心を高め、成年後見制度と日常生活自立支援事業に取り組むための問題解決能力を形成する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業を活用することで、権利擁護が具体化できることに関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

権利擁護と成年後見制度

SOW250M

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

権利擁護と成年後見制度【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と社会保障（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
権利擁護と社会福祉協議会の役割（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（法人後見と日常生活自立支援事業③）（社協職員）
- 第14回目
事例（精神障害のある人への権利擁護活動）（PSW）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート（30%）および筆記試験（70%）を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、権利とは何かについて問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な成年後見制度のあり方と、権利擁護のために働く専門職について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権、権利条約

心理学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学概論

PSY100M

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

発達心理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 老化に伴う心理的側面の変化について基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 老化による心理的側面の変化に伴う課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

老年心理学

PSY213M

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方や認知機能(知能、記憶・学習・情報処理)、パーソナリティと社会的適応について、老化に伴う変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、老年期の心理的問題や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の心理的問題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方、社会学的捉え方
- 第3回 老年期に関する学説
- 第4回 老年期の認知機能の変化を見る枠組み
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 知能の測定方法【横断的方法、縦断的方法、系列法】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 知能の二つの側面【結晶性能力、流動性能力】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化に影響する要因
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 1【記憶のモデル】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 2【再認と再生、固有名詞と一般名詞、初頭効果と新近効果】
- 第10回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 3【日常生活における記憶、記憶機能の変化の要因】
- 第11回 老年期のパーソナリティと適応 1【社会適応・時代背景・社会環境】
- 第12回 老年期のパーソナリティと適応 2【成熟したパーソナリティとパーソナリティ変容の要因】
- 第13回 老年期のパーソナリティと適応 3【OldestOldと社会関係】
- 第14回 老年期の心理的問題【うつ、認知症など】
- 第15回 まとめとして - 適応と要求水準【個人と社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知能、記憶、パーソナリティなどの心理学の基本領域を学習しておく。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

老年心理学 【昼】

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。
 とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習することを通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を育てること」を目標とする。
 講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書 /Textbooks

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：なぜ教育心理学を学ぶのか 教育を心理学で考える
 - 第3回：記憶に関する理論 認知心理学の理論
 - 第4回：学習とは何か 教えて考えさせるということ
 - 第5回：学習の理論 学習心理学・発達心理学の理論
 - 第6回：子どもの発達を考える 発達心理学の理論
 - 第7回：学習意欲とは何か 学習意欲の構造論から
 - 第8回：子どもをいかに評価するか 学習意欲の観点から
 - 第9回：「学力」について考える 学習意欲と態度
 - 第10回：教育測定・評価（1） 評価の尺度について
 - 第11回：教育測定・評価（2） 教師の視点と生徒の視点
 - 第12回：学校カウンセリング スクールカウンセラーの役割
 - 第13回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
 - 第14回：学習の方法と意欲 学習方略の理論
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 20％
 講義でのミニレポート・・・ 30％
 最終試験・・・ 50％

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簡易レポート・授業で扱うプリントについて、その都度指示をする。

事後学習：講義内で学んだ心理学的手法について学校現場の課題や実践と関連して考えるよう、都度指示を出す。

教育心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

対人心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版 1600円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、提出用の用紙に事例の概要をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理学 【昼】

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	カウンセリングについての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	カウンセリングに関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

カウンセリング論

PSY232M

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理アセスメントと心理療法に関する基礎的知識の習得を目指す。心理アセスメントでは、初回面接のあり方や心理アセスメントの諸技法について概観する。心理療法では、三大心理療法の精神分析、行動療法、クライエント中心療法について概観する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理療法とは何か
- 第2回 心理アセスメント(1)：初回面接と見立て【初回面接】
- 第3回 心理アセスメント(2)：精神医学的診断【病理水準】
- 第4回 心理アセスメント(3)：テストバッテリー【構造化面接法】
- 第5回 精神分析の理論と実践(1)【無意識】
- 第6回 精神分析の理論と実践(2)【メタ心理学】
- 第7回 精神分析の理論と実践(3)【自由連想法】
- 第8回 クライエント中心療法の理論と実践【受容】【共感】
- 第9回 認知行動療法の理論と実践(1)【行動療法】
- 第10回 認知行動療法の理論と実践(2)【認知療法】
- 第11回 認知行動療法の理論と実践【第三世代の認知行動療法】
- 第12回 三大心理療法の共通点と相違点【洞察】【自己一致】【学習】
- 第13回 学校カウンセリングの実際【スクールカウンセリング】
- 第14回 心理療法の実際（ビデオ学習等）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（4回） ... 40% 試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、前もって配布された資料に目を通して自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、心理療法の各技法の要点を整理しておく。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講されることを薦めます。

カウンセリング論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霜山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を困む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト・ユング・アドラー】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 アドラー心理学について 【ライフスタイル】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理的な負荷を感じて追い詰められている人が増えている。精神疾患を発症した労働災害の請求が1515人と初めて1500人を超え過去最高になった(厚生労働省発表2015年度のまとめ)。認定の原因は「心理的な負荷が極度に高い出来事」が最多である。日頃から自分の周りに観られる心理的な負荷に関する事案を意識して生活してほしい。さらに学習した内容や心構えを生活の中で実践して方法や考え方を体得するよう望みたい。

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」「アドラー心理学」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

心理療法論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

森田療法 認知行動療法

コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コミュニケーションにおける心理学の基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	心理学におけるコミュニケーションの視点から社会の諸問題を分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	心理学におけるコミュニケーションの観点から諸問題について主体的に学習する。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニケーション論

PSY212M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合，メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え，メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

○松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 比留間 太白・山本 博樹(編集)『説明の心理学-説明社会への理論・実践のアプローチ』ナカニシヤ出版
- 海保 博之(編)『わかりやすさとコミュニケーションの心理学(朝倉実践心理学講座)』朝倉書店
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習を必要とします。

コミュニケーション論【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
 評価は、試験の結果のみで行います。
 試験は、全て持ち込み可とします。
 講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
 欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
 その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
 単位が欲しいだけの人、空きコマ潰しに何でもよいから履修しようとする人は絶対にやめよう。
 シラバスをしっかりと読んで、自分に合うかを見極めてから受講した方がよい。正直、教科書は難解で、理解するには時間がかかる。この教科書を勉強するためにある程度時間をかけられる人に勧める。
 グループワークなどで実際にコミュニケーションを行うわけではないので注意。
 講義内容は難しく、考えることが不可欠だが、毎回のミニレポートで具体性を求められることもあり、考えることが習慣化できる。
 コミュニケーションがどう成り立っているのか、人間の思考回路の仕組みを理論や実験を基に知ることができる。知っていて損することは絶対にない内容。
 勘違いが起きる原因など、興味深い事が学べる。日常生活でも「これがコミュ論で学んだことが！」という発見ができて面白い。
 実験のグラフや表の読み方を学べる。
 わかりやすい文章の書き方を心理学的な概念から学べる。(単なるハウツーではなく基礎理論に基づく説明なので、その基礎理論の理解は必須)
 しっかりと筋の通った仮説を立てられるようになるから卒論を書く際に役立つ。
 心理学に関連した動画や映画や本、勉強するのに役立つサイトなどを知ることができる。
 毎回「私は今学んでいる！」と実感させられる授業。大学に来てまで学んでいる意味を改めて感じさせられる。
 とにかく予習と復習。少しでもいいから毎回行うこと。
 他の心理学系の科目とは違う内容なので新鮮。
 これまでの人生で聞いたこともない専門用語や概念が飛び出してくるので、予習復習して、講義中はしっかりメモを取ること。「絶対に理解してやる！」というくらいの意気込みが必要。
 二年生で受講すれば心理学に不可欠な図表の読み方を学べ、ゼミ選択の参考にできる。三年生や四年生にとっては紹介される実験がゼミ研究や卒論の参考になる。
 二年生からも受講可能だが、認知心理学や社会心理学の基礎をある程度修めた三年生での受講をお勧めする。ゼミや卒論で使えるネタがたくさんあり、研究に発展できる。
 わからないことはミニレポートで質問すれば丁寧に説明してもらえるので質問すべし。
 シラバスを読んで受講をためらう人も多いと思うけど、授業は面白いしわかりやすい。しかし、評価はテスト100%(しかもなかなか大変)なので、楽な科目でないことは確か。

キーワード /Keywords

認知心理学、社会心理学、人間工学、コミュニケーション、スキーマ、スクリプト、メンタルモデル、実験、調査、表やグラフの読み方

観光社会学【昼】

担当者名 /Instructor 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域課題の本質を見抜き、観光社会学の視点から分析かつ解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

観光社会学

SOC216M

授業の概要 /Course Description

日本を訪れる外国人の数が約2000万人を超えるまで増加し、観光は日本の重要な産業の一つとなろうとしている。しかしながら現在、観光が注目されているのは産業としてだけではない。観光は私たちのプライドの問題とも大きく関わっている。世界的なグローバル化の進展は、ローカルの価値を活性化させる役割も果たしてきた。現在、観光はグローバルなまなざしによってローカルの価値を再発見する「メディア」になろうとしている。人間は、他者に見られることによって自分とは何かを確認する。観光者に見られることによって、私たちは社会的アイデンティティを獲得している。

このように産業の問題、プライドの問題が関わる日本の観光化は全てが順調なわけではない。観光化による自然破壊、文化破壊、社会的分裂等、観光は社会に矛盾ももたらす。この授業では観光を社会科学の一分野として客観的に捉え、観光を文化創造や社会創造につなげてゆくにはどのようにしたらよいかを考える。

本年は特に、観光客、地元住民等が「参加」する観光について焦点を当て、現代社会における文化消費（特に「リアルの消費」）のあり方、その問題点、そして可能性について考える。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』（ナカニシヤ出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』（明石書店）
 その他、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 観光とは何か（オリエンテーション）
- 2回目 消費社会と観光1—観光と非日常消費
- 3回目 消費社会と観光2—観光と参加、自己承認、コミックマーケットから地下アイドル、音楽フェスまで、体験参加型観光の意味
- 4回目 テーマパーク化する観光地と都市、そしてその変容—ディズニランド（の変容）、ショッピングモール
- 5回目 観光の歴史—前近代（巡礼、湯治）
- 6回目 観光の歴史—前期近代（大衆観光、産業労働と観光、ナショナリズム）
- 8回目 観光の歴史—後期近代（特化する観光、オタク観光）
- 9回目 北九州市の観光の歴史
- 10回目 観光化と観光の理論—ブーアスティン、マキアーネル、リッツァー
- 11回目 観光地と社会分裂—観光者と観光地住民
- 12回目 映画『ザ・ビーチ』からみる観光者と観光地住民
- 13回目 温泉観光地、由布院について考える—NHKの番組（プロジェクトX）を批判する
- 14回目 観光消費と「虚構」/「現実」—「リアル」へと向かう観光（ダークツーリズム、アートツーリズム、まんが・アニメツーリズム）
- 15回目 参加する観光客及び観光地と共同性の再編成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度20%、レポート80%

観光社会学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを熟読しておくこと、学習した内容を現実の観光地に当てはめよく考えること

履修上の注意 /Remarks

観光（旅が好きでもよい）、観光文化（ディズニーランド、オタク、アイドルツーリズム等も含む）、観光まちづくりに興味があること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

おおいに議論し、語り合おう。

キーワード /Keywords

観光、観光地、観光客、自己承認、ポストモダニズム、メディア、イメージの政治

ボランティア活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ボランティア活動に関する専門知識を、地域現場との関わりの中で理解できる。
技能	専門分野のスキル	●	ボランティア活動を行う上で必要な地域での実践方法について理解できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ボランティア活動に関する理論を基盤に、活動の課題について考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域において積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を養うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ボランティア活動論	RDE111M
-----------	---------

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の現状と概念を整理・確認し、地域社会での位置づけや活動の意義について考えます。ボランティア活動を狭義ではなく、広義に捉えたNPO(公益団体)として課題を定義することにより、組織運営の課題を理解・分析するとともに、地域・社会における生活の質を高める多様な課題(子育て支援・対策、高齢者支援・対策、雇用対策、環境保全・対策、新エネルギー・省エネルギー促進方策、商店街活性化対策、自治会加入促進対策等)の解決に結びつくことを考えてみたいと思います。地域・社会の多様な課題の解決に向きあうには組織の自立した持続的な運営と、代表者としての取り組む姿勢・資質が不可欠であり、その要素の実現に必要な条件について考えます。住みよい地域・社会の実現には、ボランティア活動を慈善的な活動から発展的な発想により、持続的な自立したボランティア活動へと成長し、継続的に地域・社会と関わることで、人の意識変革を促し、人間力を高め、地域力を高める必要があります。さらに、組織運営における発想の拡大により、地域・社会の課題を解決する新しい社会ビジネス手法「コミュニティビジネス(市民事業)」「ソーシャルビジネス(社会起業)」の概要を理解することにより、生活の質を高めることを目的とする公共サービスの担い手としての社会的意義について考えてみたいと思います。

この講義での到達目標の具体的な内容は以下の通りです。

- ①. ボランティア活動の全体理解を得て、社会での位置づけや意義を学ぶと共に、組織運営の課題を分析する。
- ②. ボランティア活動・NPO・NPO法人の社会的な役割を理解し、組織運営の違いを理解する。
- ③. 地域・社会の課題を分析することにより、ボランティア活動に求められる社会的な意義を理解する。
- ④. 人間力・地域力を高める目的を担う、コミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)の概論を理解し、地域・社会との関係性を考察することにより、社会性と経済性との調和による新しい地域・社会環境をイメージする。
- ⑤. 新しい生活支援サービス形態と称される「公共サービス」としての関係性を理解する。
- ⑥. 対話授業を取り入れることにより、授業での主体性を高め、協調性を基本とする「ボランティア活動に取り組む姿勢」を高める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

ボランティア活動論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ボランティア活動の現状理解と、社会的な意義
- 2回 ボランティア活動とNPO(任意団体)・ NPO法人の概念整理
- 3回 ボランティア活動とNPO(任意団体)の組織運営の課題分析
- 4回 特定非営利活動法人(NPO法人)の組織運営の課題分析
- 5回 ボランティア活動の自立化によるコミュニティビジネス(市民事業)への成長
- 6回 地域・社会の課題発見 その1
- 7回 地域・社会の課題発見 その2
- 8回 人間力(教育的影響)の現状理解と課題分析
- 9回 地域力(社会的影響)の現状理解と課題分析
- 10回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その1
- 11回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その2
- 12回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その1
- 13回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その2
- 14回 地域での雇用創出を目的とする、ソーシャルビジネス(社会起業)概要の理解
- 15回 ボランティア活動からコミュニティビジネス(市民事業)・ ソーシャルビジネス(社会起業)への発展的可能性と、地域・社会からの期待(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(80%)、授業レポート(5%)、対話討論を含む授業での積極性(15%)を評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席することが前提である。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ ボランティアセンターの関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. 身近なボランティア活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域に関する様々な専門知識に加え、スポーツ指導に関する理論を総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域に関する理論やスポーツ指導の現場理解を基盤に地域のスポーツが抱える問題や本質を見抜くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	性差や年齢に関係なくスポーツをとおして地域活動に積極的に参加する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ指導論

HSS110M

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容（ルール、マナー、エチケット）カナダのフェアプレー委員会とは
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは（ジョン・ウッデンに学ぶ）
- 3回 スポーツ指導の心構え（法的知見を含む）
- 4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者（指導の行き過ぎから起こる問題点）
- 14回 日本武道の必要性（抑制の美とは）
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度... 70% レポート... 30%
 (遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する

スポーツ指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツは世界共通のルールで繋がっている。
日本で活躍する外国人アスリートや世界で活躍する日本人アスリートの活躍などを盛り込みながら授業を進めていきます。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害者スポーツ指導の理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域活動において必要な障害者スポーツ指導技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域課題の本質を考察し、障害者スポーツ指導の視点から解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害者スポーツ指導に常に挑戦する姿勢をもち、粘り強く取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ指導論	HSS120M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツは、最近ようやく社会に認められハンディキャップを持つ人々の意識も高まりスポーツやレクリエーションを通して社会参加することができるようになってきたが、反面それらを支える支援者の数が不足しているのも事実である。本講義では「障害とは何か」、「様々な障害状況に対してどのようにアプローチすればいいのか」などを考えその意義や指導論を学習していく。さらにこの講義では、障害者スポーツの現場で活用できる内容を重点的に取り入れ自分の考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 障害者スポーツセンターの役割
- 3 障害者スポーツの意義と理念
- 4 障害者スポーツの発展の歴史
- 5 障害者福祉施策の具体的恩恵
- 6 障害者スポーツ指導者制度
- 7 障害状況に応じた車いすの種類
- 8 常用車いすの介助・体験
- 9 肢体障害とスポーツ 脊髄損傷・頸椎損傷
- 10 肢体障害とスポーツ 脳血管障害
- 11 肢体障害とスポーツ 脳性麻痺・切断
- 12 視覚・聴覚障害とスポーツ
- 13 知的障害・精神障害とスポーツ
- 14 障害者スポーツ指導員の心得
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

障害者スポーツ指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒にいる行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報を知りたいければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域に関する様々な専門知識とスポーツ・ボランティア指導に関する理論を、実践をとおして総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	高齢者や子供がスポーツ実践活動を円滑に行うための指導技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断し創造的に考える。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、地域のスポーツや社会活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア指導論

HSS101M

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。
例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える(1)
- 4回 地域スポーツを考える(2)
- 5回 スポーツイベントの運営(1)
- 6回 スポーツイベントの運営(2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
- 9回 中高年者とスポーツ(実技を含む)
- 10回 中高年者とスポーツ(実技を含む)
- 11回 女性とスポーツ(セクシャルハラスメント等を含む)
- 12回 小学生のスポーツ活動(実技を含む)1
- 13回 小学生のスポーツ実践(実技を含む)2
- 14回 障がい者スポーツの支援(1)
- 15回 障がい者スポーツの支援(実技を含む)2

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...70% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する

スポーツ・ボランティア指導論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツ心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	心理学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	スポーツの諸問題を心理学の観点から主体的に学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ心理学

HSS221M

授業の概要 /Course Description

さまざまなスポーツ活動について心理学的な観点から理解を深め、スポーツ指導やスポーツ実践に活かせるようになることを目的とする。スポーツコーチングの心理、メンタルトレーニング、スポーツにおける動機づけ、スポーツの社会心理、スポーツとメンタルヘルスなどの内容について、講義と簡単な実習などにより説明する。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』福村出版
 調枝孝治監訳『運動学習とパフォーマンス』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	スポーツ心理学とは	
2回	コーチングの心理1	【スポーツスキルの分類】【スキルの指導】
3回	コーチングの心理2	【スキルの獲得】【運動の心理的メカニズム】
4回	コーチングの心理3	【運動と注意集中】【運動の記憶】
5回	コーチングの心理4	【合理的な練習方法】【学習の過程】【練習の計画】
6回	メンタルトレーニング1	【イメージトレーニング】【リラクゼーション】【あがりの対処】
7回	メンタルトレーニング2	【心理的スキルの評価】【集中力】【目標設定】
8回	スポーツの社会心理1	【スポーツと攻撃性】【他者の存在とスポーツ行動】【みるスポーツの心理】
9回	スポーツの社会心理2	【スポーツ集団の特徴】【チームワーク】【リーダーシップの機能・役割】
10回	スポーツの社会心理3	【スポーツの楽しさ】【コミットメント】【バーンアウト】
11回	スポーツの動機づけ1	【動機づけ理論】【内発的動機づけ】【運動嫌い】
12回	スポーツの動機づけ2	【動機づけの高め方】【目標設定の理論】【目標志向性】
13回	スポーツと心1	【パーソナリティ】【心の発達段階】【自己概念】【ボディイメージ】
14回	スポーツと心2	【メンタルヘルス】【運動の心理的効果】【心理的障害】
15回	まとめ(スポーツ心理学の指導・実践への応用)	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 30 % 授業中の課題 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関する情報を収集して予習しておくこと
 資料などを見直し、授業内容の復習をすること

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業や、スポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツ心理学 【昼】

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア各論【昼】

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域スポーツに関する様々な専門知識に加えスポーツ指導理論などを総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	地域スポーツの指導に係る安全管理の方法を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域スポーツ指導における課題解決能力の向上に努めることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	失敗を恐れず自ら掲げた計画を最後まで諦めずやりぬくことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ・ボランティア各論

HSS200M

授業の概要 /Course Description

本講義では、地域で実際に運動やスポーツ、レクリエーション指導を行っているNPO法人の活動を通して、主に高齢者に向けての地域スポーツを学習していく。現場の状況・課題などについて考え、安全で効果的なプログラミング、プレゼン能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 NPOとボランティアについて
高齢者の身体特性
高齢者の地域課題
- 5～9回 高齢者の運動指導 (リスク管理・プログラミング、プレゼンテーションなど)
- 10～14回 実習・グループワーク
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み70%、プレゼンテーション30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

高齢者の身体特性や、自分なりに考える高齢者の地域課題について事前の予習を行うことと、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害者スポーツの理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 地域活動において必要な障害者スポーツ実践の技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域課題の本質を考察し、障害者スポーツの視点から解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害者スポーツに対して常に挑戦する姿勢をもち、粘り強く取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者スポーツ各論

HSS224M

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツ指導員とは、障害者が身体を鍛えたり、スポーツやレクリエーションを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をすることができる専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に全国障害者スポーツ大会の概要や競技規則、競技種目や障害状況によって判定される障害区分、競技に使用される用具と基礎知識など幅広く学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 肢体不自由
- 3 視覚障害・聴覚障害
- 4 内部障害
- 5 知的・発達障害
- 6 精神障害
- 7 アダプテッド・スポーツの理解 競技規則
- 8 障害者スポーツ特有の用器具
- 9 補装具の理解 構造とメンテナンス
- 10 全国障害者スポーツ大会の概要 歴史と目的
- 11 全国障害者スポーツ大会 選手団とコーチのあり方
- 12 全国障害者スポーツ大会 競技内容と障害区分
- 13 トップアスリートの大会パラリンピックとは
- 14 世界の動向と日本の立場 今後の国際大会
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。
応用的内容が多いため、基礎的内容を扱う「障害者スポーツ指導論」を受講済みであることが望ましい。

障害者スポーツ各論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒に実施している行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報など知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境（熱中症の予防）
- 13回 運動への行動変容（1）【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容（2）【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストなど）... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体適応論 【昼】

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論 HSS210M

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、スポーツ指導法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントやレジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】
- 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動
- 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
- 5回 運動神経について【運動センス】
- 6回 “ 【遺伝】
- 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
- 8回 “ 【運動軸】、【調整能力】
- 9回 “ 【思春期】、【成熟期】
- 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】、【スポーツ障害】
- 11回 筋線維の種類と特性
- 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
- 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
- 14回 スポーツ指導【コーチング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に次回の内容(キーワード)を知らせるので、情報収集を行うこと。授業の理解に有益な読書やスポーツ報道(大会)などを通して、より理解を深めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

身体スポーツ論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。

現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード

【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】

【アスリート】、【競技スポーツ】

健康科学【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことの一つである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスポモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

健康科学 【昼】

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

トレーニング論【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的な練習計画の作成ができる知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価 身体組成・体力の測定
- 12回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 13回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面
- 14回 発育発達期におけるトレーニング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻) 。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生み出す本能 (上) ・ (下) 』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【機械化の進行】
- 7回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 11回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 12回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 13回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 14回 古代世界の公共空間（1）【ギリシャ概説】
- 15回 古代世界の公共空間（2）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方 【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1 【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2 【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回目：生きている地球3 【プレートテクトニクスとプルームテクトニクス】
- 5回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球地球史を記録する地層と化石1 【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球地球史を記録する地層と化石2 【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
- 8回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
- 9回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
- 10, 11回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
 - 10回目：カンブリア爆発の特徴と原因
 - 11回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
- 12回目：繰り返す大量絶滅1 【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
- 13回目：繰り返す大量絶滅2 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
- 14回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
- 15回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に關係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき關係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小小木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 実存の思想(6)【補足】
- 8回 確認テスト
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【フロイト以後】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※第8回に予定している確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則として、このテストを受験していない者には単位を認めない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布した講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）の当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書く留めた穴埋め箇所を中心に復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落したら、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1) 【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2) 【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1 【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2 【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3 【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回「財・サービスの提供機関」としての企業① 【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
- 第3回「財・サービスの提供機関」としての企業② 【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
- 第4回「株式会社」としての企業① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第5回「株式会社」としての企業② 【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
- 第6回「大企業」としての企業① 【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
- 第7回「大企業」としての企業② 【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
- 第8回2-7回のまとめ
- 第9回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象(1) 【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第10回「家」としての日本企業② 人事における日本企業特有の現象(2) 【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
- 第11回「家」としての日本企業③ 株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第12回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第13回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第14回「社会的器官」としての日本企業 【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 中間テスト・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢 IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナルリズム 【美学】 【ファンタジー】 【イデオロギー】 【協力】
- 第3回 アーノルド・ウェイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】 【parks】 【recreation】 【enjoyment】 【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 北 現代アメリカ合衆国の社会(1) 【人種】
- 第7回 北 現代アメリカ合衆国の社会(2) 【移民】
- 第8回 白石 中国の持続的発展の可能性 【経済成長・SNA・投資】
- 第9回 松田 総合商社と海外プロジェクト 【プロジェクトファイナンス・世界銀行】
- 第10回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】 【民主主義】
- 第11回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】 【難民】
- 第12回 尹 在日外国人と多文化共生 【在日コリアン】 【ニューカマー】
- 第13回 尹 在日外国人と多文化共生 【ヘイトスピーチ】 【多文化共生】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】 【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】 【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従って学習を進める。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第6回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第7回 子ども食堂「もがるか」の運営と取り巻く人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第8回 フードバンク運動参加の学生の取組みと討論	【学生】	担当：原田・三宅
第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回 グループワーク「会社を作る」を通してのガバナンスの理解	【グループワーク】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念を考える		担当：三宅・伊野・申
第15回まとめ～ガバナンスに関してのグループ・ワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、マスメディアに見られる「ガバナンス」に関する情報を収集しておき、自らのガバナンス概念を考えておく。事後学習は、授業で習ったそれぞれの「ガバナンス」概念・説をノートに整理しておく。最後のグループワークで活かす。

開発と統治【夜】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 民主主義 フードバンク 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【夜】

担当者名 赤司 友徳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、多彩な経歴を持つ人物である。後藤は入念な調査と分析に基づく、経費積算、計画立案を行うという科学的視点を重視し、「科学的政治家」などと評された。本講義では、後藤の「科学」に着目し、彼が関わった行政・政治・外交の重要な局面において、その科学的視点がどのように活かされたのかを読み解く。またそれらの歴史的転換点において、後藤と関わった著名人の史料もあわせて読みながら、史料に基づいた歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年（復刻版）
 - 北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
 - 鶴見祐輔『決定版 正伝・後藤新平』全8巻、藤原書店、2004～2007年
- この他は講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 愛知県病院長兼医学校長時代：自由党異変【板垣退助】、健康警察医官設置之建白書
- 第3回 内務省衛生局長時代：『国家衛生原理』、万国衛生会議、【北里柴三郎】
- 第4回 内務省衛生局長時代（1）：「医師免許規則改正法案」、伝染病研究所設置問題【北里柴三郎、福沢諭吉】
- 第5回 内務省衛生局長時代（2）：『陸軍検疫部報告書』【児玉源太郎】
- 第6回 内務省衛生局長時代（3）：「台湾阿片二関スル意見」【伊藤博文】【桂太郎】
- 第7回 台湾民政長官時代：台湾公債事業【児玉源太郎】【新渡戸稲造】
- 第8回 南満州鉄道総裁時代：「満州経営作梗概」、【原敬】
- 第9回 国務大臣時代（1）：【桂太郎】【西園寺公望】【山本権兵衛】
- 第10回 国務大臣時代（2）：【水野錬太郎】、シベリア出兵
- 第11回 第一次世界大戦後の欧米遍歴時代：【新渡戸稲造】【原敬】
- 第12回 東京市長時代：「大調査機関設置構想」【原敬】、東京市政調査会【安田善次郎】
- 第13回 在野時代：対ソツフェ交渉
- 第14回 国務大臣時代（3）：関東大震災と帝都復興
- 第15回 まとめ

※【 】の人名は、後藤新平以外に取り上げる史料の作成者

歴史の読み方I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)と平常点(授業への参加態度、コメント等で20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業の終わりに、次回使用する史料を配付するので、よく読んで予習をしておくこと。また授業の中で参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の世界。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と世界。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1960年代の世界。
- 第10回：1960年代のミャンマー。
- 第11回：1980年代の世界。
- 第12回：1980年代のミャンマー
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみることに（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くか決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
- 第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】
- 第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】
- 第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

- 第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
- 第9回 イギリスとEUの関係について
- 第10回 キャメロン首相と国民投票
- 第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか
- 第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か
- 第13回 トランプ候補が勝利した理由
- 第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか
- 第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

メンタル・ヘルスI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また講義の場合には、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。実技のときには、その内容を無理のない程度で、自宅で試してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、ビジネス上のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ビジネス英語 I	ENG131F

授業の概要 /Course Description

日本人大学生が就職活動を経て、旅行代理店に就職！Eメール、電話、会話で英語を使ってツアーコンダクターとして世界各地を駆け回る！

This course will introduce Business English by looking at the life of a Japanese university student through job hunting and employment in a travel agency. Specifically through emails, telephone conversations and dialogues while travelling around the world as a tour guide using English.

教科書 /Textbooks

Working Abroad: Learning to Communicate via Emails & Telephone Conversations by 行時 潔 / 長田 順子 / Nicholas Bovee, published by 松柏社 (Shohakusha)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Takuya's Job Hunt
2. Asking a Favor
3. Decision Time
4. A Lucky Break
5. Fun in the Sun
6. Welcome to the Land of the Rising Sun!
7. Bottoms Up!
8. The World's Most Comfortable City
9. Touching Base
10. The Lion City
11. Heading Down Under
12. Dreams Come True
13. An Unexpected Invitation
14. The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland
15. Back to a Good Old City

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Travel English

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域学入門【夜】

担当者名 /Instructor
 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 石川 敬之 / 地域共生教育センター
 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター, 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
 小林 敏樹 / Toshiaki Kobayashi / 地域戦略研究所, 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
 深谷 裕 / 地域戦略研究所, 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 西田 心平 / 基盤教育センター, 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域社会の多様な側面を理解し、市民として必要な教養を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域における諸問題に対して、生涯にわたり常に高い関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域学入門	RDE100M
-------	---------

授業の概要 /Course Description

地域創生学群専任教員が、それぞれの専門分野から見た地域課題等について講義を行います。「地域」という概念の捉え方、地域に存在する様々な課題等について学び、実習や演習等での活動にもつなげていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はしませんが、各自必要な書籍を読んで授業の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回地域創生学群とは(目的、設立経緯、学部の仕組み等々)
- 第02回各教員の専門分野に関するもの
- 第03回各教員の専門分野に関するもの
- 第04回各教員の専門分野に関するもの
- 第05回各教員の専門分野に関するもの
- 第06回各教員の専門分野に関するもの
- 第07回各教員の専門分野に関するもの
- 第08回各教員の専門分野に関するもの
- 第09回各教員の専門分野に関するもの
- 第10回各教員の専門分野に関するもの
- 第11回各教員の専門分野に関するもの
- 第12回各教員の専門分野に関するもの
- 第13回各教員の専門分野に関するもの
- 第14回各教員の専門分野に関するもの
- 第15回各教員の専門分野に関するもの

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
 出席等の授業への取り組み姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に担当教員のスケジュールを提示しますので、事前に担当教員の分野について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、地域とは何かについて考えを深めてください。

地域学入門【夜】

履修上の注意 /Remarks

各自適宜準備をおこなってください。
なお、状況により授業予定を変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ論【夜】

担当者名 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● コミュニティに関する基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● コミュニティと自らの生活との関わりを認識する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● コミュニティに関心をもち、係わることができる。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニティ論

RDE212M

授業の概要 /Course Description

今日では、コミュニティを場所や集団と特定することが難しく、便利に使用する一方で、一つの理念で説明もできない用語といえる。社会学の視点による伝統的なコミュニティ(血縁・地縁に基づく近隣集団、小規模な町、空間的に限定される地域社会や職業に基づく特定の小規模集団を基礎にした社会組織)以外にも、文化的に規定される集団やイデオロギーの視点からのコミュニティ論も存在する。また、社会・文化・政治・テクノロジー等や、ポストモダン、グローバル化、インターネット等の社会情勢の変化も加味する社会理論的立場からのコミュニティの捉え方もありうる。これらを考慮して、伝統的コミュニティ及び、今日的解釈を通じたコミュニティでの人間関係を理解することをねらいとして講義を進める。これにより、学生はコミュニティの曖昧さと今日の社会関係の多様性と匿名性を理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料配布による

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：社会、地域社会、コミュニティについて
- 第2回 伝統的コミュニティの概念
- 第3回 コミュニティの概念の多様性
- 第4回 今日のコミュニティの基本的な捉え方
- 第5回 地域社会の変化と今日の地域生活①社会環境の研究と精神的健康
- 第6回 地域社会の変化と今日の地域生活②地域における人間関係
- 第7回 社会関係資本としてのコミュニティ
- 第8回 コミュニティ調査研究①【地域活動】
- 第9回 コミュニティ調査研究②【地域の互酬性】
- 第10回 調査結果に見る地域における関係性の多様化
- 第11回 関係性の変化と地域における教育
- 第12回 孤独とつながり【ネットワークコミュニティ、バーチャル・コミュニティ】
- 第13回 文化的・イデオロギーの視点からのコミュニティ
- 第14回 コミュニティ再生への希求と郷愁
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(課題・レポート提出等) 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コミュニティという用語の使われ方と曖昧性に関心を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

コミュニティ論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア形成論【夜】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 自らのキャリアを形成していくための手法や技術を習得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の考えをまとめ、相手に伝わるように表現する方法を習得する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● ディスカッションやコミュニケーションの技法について習得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● ものごとの本質をとらえるために、論理的思考、批判的思考を習得する。
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

キャリア形成論

CAR200M

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化されたタスクをこなすのではなく、課題を発見し解決していくような仕事が求められています。その手順は以下ようになります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いのです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思います。また、社会人学生の皆さんは、普段の仕事で課題や問題点を抱えていらっしゃると思います。そのような皆さんに、即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドゥハウ』野口吉昭編 P H P 研究所
- 『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫
- 『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング(1)【論理的思考とは①】
- 3回 ロジカルシンキング(2)【論理的思考とは②】
- 4回 ロジカルシンキング(3)【演繹法】
- 5回 ロジカルシンキング(4)【帰納法】
- 6回 フレームワークシンキング(1)【ロジックツリー①】
- 7回 フレームワークシンキング(2)【ロジックツリー②】
- 8回 フレームワークシンキング(3)【マトリックス】
- 9回 フレームワークシンキング(4)【フレームワークシンキング演習①】
- 10回 フレームワークシンキング(5)【フレームワークシンキング演習②】
- 11回 クリティカルシンキング(1)【批判的思考とは】
- 12回 クリティカルシンキング(2)【複眼的にみる】
- 13回 クリティカルシンキング(3)【データの見方】
- 14回 クリティカルシンキング(4)【クリティカルシンキング演習】
- 15回 まとめ

キャリア形成論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業の成果物...20% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、実習等の日常的なケースで活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。グループワークを随所に交えながら進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で活用したことは、実習や実際の仕事で使ってみることをお勧めします。そうすることで、知識やノウハウが自分のものになります。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング、演繹法、帰納法、フレームワークシンキング、ロジックツリー、マトリックス、クリティカルシンキング、ブレインストーミング

北九州社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 神山 和久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	北九州地域に関する幅広い知識を修得し、現場との関わりのなかで生かすことを目指す。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会活動に積極的に取り組むことができる素養を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域の諸課題に対し、生涯にわたり高い関心と貢献の志を持ち続けることができる。

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州社会論

RDE214M

授業の概要 /Course Description

この講義は、北九州地域の社会状況について幅広く学び地域理解を深めるとともに、地域が抱えるさまざまな問題点について、発生の背景や取り組みについて共に考えていきます。
具体的には、北九州市の生い立ち、都市環境や産業の姿、行政施策の今と昔について学び、また市民生活に関する諸調査やまちづくり事例研究などについても紹介、解説します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、授業の中で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 都市とはなにか、そして北九州市の紹介
- 2回 北九州市の生い立ち 【時代の節目に登場する北九州】
- 3回 北九州市の地域政策の歴史① 【マスタープラン】
- 4回 北九州市の地域政策の歴史② 【ルネッサンス構想】 【「元気発信！北九州」プラン】
- 5回 統計でみる産業構造と北九州 【事業所統計】
- 6回 統計でみる北九州社会の姿 【社会生活指標】
- 7回 北九州の産業と人物、今と昔① 【北九州の4k】
- 8回 北九州の産業と人物、今と昔② 【北九州の企業家たち】
- 9回 北九州の産業、今日と明日 【北九州発のイノベーション】
- 10回 北九州市（行政）のまちづくり事例
- 11回 北九州市の市民力
- 12回 北九州市の住みよさ評価① 【相対性、フルセット都市】
- 13回 北九州市の住みよさ評価② 【比較の意義、ソーシャル・キャピタル】
- 14回 北九州市政と市民意識の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30% 期末レポート（ミニレポート含む）ト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から北九州地域情報を収集する習慣をつけること。各講義のあとは、配布レジюмеに沿って情報整理を行うこと。とくに自らの実習関連情報に関しては留意しておいてください。

北九州社会論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

主として、「北九州を知らない、だから詳しく知りたい」学生を対象としています。日頃から北九州情報に注目しておいてください。それが皆さん自身の予習となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマを決定するのに必要な知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自ら関心のある課題を発見し、必要な資料を収集する能力を修得する。
	プレゼンテーション力	● 多様な人々に分かりやすく説明できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を、実習等の現場で実際に生かすことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習 A

SEM311M

授業の概要 /Course Description

地域創生に関する文献の輪読と、現実にも動いている地域創生に関するさまざまな話題、ニュースから課題を探ることにより、卒業論文のテーマ設定に向けた基礎的知識の習得、整理を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記書籍を輪読のテキストとして使用予定。
○ジェイン・ジェイコブズ(2010)「アメリカ大都市の死と生」鹿島出版会

その他の参考書については適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回・・・オリエンテーション
第2回～第14回・・・発表とディスカッション
第15回・・・まとめ

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。
また、数回は映像資料等を視聴して議論することも予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

取り組む姿勢(積極性)・・・40%、プレゼン・成果物・・・40%、ディスカッション・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

常に、地域創生に関連する話題、ニュースに着目し、演習に活かすこと。
演習で学んだこと、習得したことをより深く学び、また関連する周辺領域に興味関心の幅を広げること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席する際は事前に教員に連絡してください。
輪読の分担等は学生間で連絡を密にとり、調整してください。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、都市・地域の再生

地域創生演習B (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 卒業論文・卒業実践報告のテーマに関する必要な専門的知識を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自分の主張を論理的に提示する能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 演習で得た知見を現場で生かし、問題点を抽出する能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互批判から、適切な振り返りができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習B

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けた準備として、論文作成の作法を習得する。そのうえで、各自の興味関心のあるテーマについて、発表する。関連する資料、文献や既存研究の収集、整理、読み込みなどが中心となる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の興味、関心に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回・・・オリエンテーション
第2回～第14回・・・発表、他
第15回・・・まとめ

本演習では、各自発表してもらい、その内容について議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

取り組む姿勢(積極性)・・・50%、プレゼン・成果物・・・40%、ディスカッション・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

どういったテーマについて取り組んで行きたいか、各自が事前にある程度考えておく。そのためには、日頃から各自の興味関心のある分野についての情報収集を積極的に行うことが大事。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画、内容については演習を進めていく中で、変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり

地域創生演習C (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 4年次 4年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告で設定したテーマに対し、的確な分析をすることができる。
	プレゼンテーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、説得力のあるプレゼンテーションができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 卒業論文・卒業実践報告の中間報告において、適切な議論ができる能力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習C

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の興味関心のあるテーマについて、卒業論文の執筆に向けた報告、ディスカッションを繰り返し行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
 第2回～第14回：報告およびディスカッション
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度（報告内容）：50%、積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備および、ディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆に向け、各自の興味関心のあるテーマについて報告およびディスカッションを繰り返し行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する報告とディスカッション
- 15回 : 論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度（報告内容）：50%、積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備とディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

欠席については事前連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2年間の演習の総仕上げとして、より専門的で、より高度な報告を期待します。

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 卒業論文・卒業実践報告において、自分なりの結論が導ける能力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの卒業論文・卒業実践報告の内容について簡潔に説明できる能力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 相互の卒業論文・卒業実践報告の内容をふまえ、建設的な議論を展開することができる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域創生演習D

SEM412M

授業の概要 /Course Description

社会福祉関連テーマについて個別に深めた学びを、発表およびディスカッションを通して、卒業論文・卒業実践報告としてまとめていきます。社会福祉の専門性を深めるとともに、関連領域についての幅広い知識や技術を理解していくことがねらいです。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
- 2 - 14回 卒業論文・卒業実践報告についての発表およびディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表担当者は必ずレジュメを作成してくること。
発表担当者以外も、自主的に論文を書き進めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉士としての援助技術の基本を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉士としての現場理解を基盤に、論理的、創造的にものごとを考え、問題解決策を提案するプロセスを理解する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を理解する。
	社会的責任・倫理観	● 社会人としての常識をわきまえて、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 1

SOW380M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の3点をねらいとする。

- ① 相談援助実習の意義について理解する。
- ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

相談援助実習指導 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習の意義
- 2.相談援助実習先の理解① 【相談援助実習が可能な機関施設の紹介・説明】
- 3.相談援助実習先の理解② 【高齢者保健福祉分野①】
- 4.相談援助実習先の理解③ 【高齢者保健福祉分野②】
- 5.相談援助実習先の理解④ 【障害福祉分野】
- 6.相談援助実習先の理解⑤ 【福祉事務所・社会福祉協議会等】
- 7.相談援助実習先の理解⑥ 【独立型社会福祉士事務所・医療機関】
- 8.相談援助実習先の決定① 【希望聴取と実習配属】
- 9.相談援助実習先の決定② 【希望聴取と実習配属】
- 10.相談援助実習先の決定③ 【希望聴取と実習配属】
- 11.相談援助実習先の決定④ 【契約書・個人調書（履歴書）等書類の作成】
- 12.相談援助実習先の理解⑦ 【配属先実習分野・機関施設の利用者理解】
- 13.相談援助実習先の理解⑧ 【配属先の根拠・関連法令、運営・経営に関する理解】
- 14.相談援助実習先の理解⑨ 【配属先実習機関施設のある地域に関する理解】
- 15.相談援助実習先の理解⑩ 【配属先実習分野・機関施設の業務理解】
- 16.相談援助実習に向けて 【実習に向けての不安・課題についての話し合い、自己学習計画】
- 17.相談援助実習先の理解⑪ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解①】
- 18.相談援助実習先の理解⑫ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解②】
- 19.相談援助実習先の理解⑬ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解③】
- 20.実習計画の作成① 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 21.実習計画の作成② 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 22.実習計画の作成③ 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 23.実習先事前訪問① 【事前訪問の目的、方法、内容等についての説明】
- 24.実習先事前訪問② 【事前訪問の内容確認】
- 25.実習記録ノートの理解① 【ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明】
- 26.実習記録ノートの理解② 【ノートの書き方演習】
- 27.巡回指導の理解 【巡回指導の目的と内容・担当教員面接】
- 28.倫理・守秘義務等の理解 【倫理綱領・義務規定・個人情報保護法】
- 29.相談援助実習に向けて最終確認 【事故 / 緊急時対応など】
- 30.実習知識・能力評価 【学習した内容に関する評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%

なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自分の実習配属先に関する福祉領域について、文献を読んだり、施設へ見学に行くなどの自主的な学習をしましょう。事後学習としては、自sh数に臨むにあたってどのような準備が必要なのかを考え、復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（高齢者保健福祉分野であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習に向けた準備科目です。実習で困らないように、しっかりとサポートしていきます。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

相談援助実習指導 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉士としての理論と実践を融合的に理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉士としての現場理解を基盤に、論理的、創造的にものごとを考え、問題解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を理解する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 2

SOW381M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の2点をねらいとする。

- ①社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ②具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 相談援助実習を終えて
2. 相談援助実習の振り返り① 【グループワーク、個別面談】
3. 相談援助実習の振り返り② 【 ” ” 】
4. 相談援助実習の振り返り③ 【 ” ” 】
5. 相談援助実習の振り返り④ 【 ” ” 】
6. 相談援助実習の振り返り⑤ 【 ” ” 】
7. 相談援助実習の振り返り⑥ 【実習報告会に向けての準備、実習総括レポートの作成】
8. 相談援助実習の振り返り⑦ 【 ” ” 】
9. 相談援助実習の振り返り⑧ 【 ” ” 】
10. 相談援助実習の振り返り⑨ 【 ” ” 】
11. 相談援助実習の振り返り⑩ 【 ” ” 】
12. 相談援助実習の振り返り⑪ 【 ” ” 】
13. 相談援助実習の振り返り⑫ 【 ” ” 】
14. 相談援助実習の振り返り⑬ 【 ” ” 】
15. 実習報告会の開催 【実習報告、全体総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%

なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」との連携科目であり、いずれかのみ単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、実習ノートの内容の振り返りをしましょう。事後学習としては、毎回出される課題に取り組み、次回の講義へ備えましょう。

相談援助実習指導 2 【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（例えば高齢者保健福祉分野を希望する場合であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導1」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習を終えて、学んだことをふりかえる仕上げの科目です。実習で学んだことを磨き、自分の宝物にしてください。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

相談援助演習 3 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 個別および集団における具体的な面接技法等を実践的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会問題を多面的な視野から判断し、問題解決に向けた取り組みを提案できるようにする。
	プレゼンテーション力	● 福祉的問題に関わる自分の考えを伝える機会をつくり、プレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と円滑な関係を築くためのコミュニケーション力や、ネットワーキング力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 3

SOW360M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。とくにグループワークとコミュニティ・ワークについて中心に学びます。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
- 2回 グループワーク① - 準備期
- 3回 グループワーク② - 開始期
- 4回 グループワーク③ - 作業期
- 5回 グループワーク④ - 終結期
- 6回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域の問題に気づく）
- 7回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画①）
- 8回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画②）
- 9回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画③）
- 10回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（ネットワーキング）
- 11回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（社会資源の調整と開発）
- 12回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（活動の評価）
- 13回 実践事例検討①
- 14回 実践事例検討②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 40%
積極的な演習への参加 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企画の準備は、授業外の時間も積極的に活用し、話し合いながら進めること。

相談援助演習 3 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 具体的な面接技法や社会資源の開発等を実践的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会問題を多面的な視野から判断し、論理的かつ計画的な問題解決策を提案できるようにする。
	プレゼンテーション力	● 福祉的問題に関わる自分の考えを伝える機会をつくり、プレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と円滑な関係を築くためのコミュニケーション力や、ネットワーキング力を身につける。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 4

SOW361M

授業の概要 /Course Description

実習中の個別的な体験を一般化し、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方および注意点の説明
- 2～14回 事例検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 40%
積極的な演習への参加 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習中に自分がかかわった事例や取り組みについて、ディスカッションの中で発言できるよう、各自振り返り作業をきちんと行つてのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 5 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	多面的な視野から福祉問題を判断し、論理的かつ具体的な問題解決策を提案できる力を獲得する。
	プレゼンテーション力	●	福祉の問題に関わる自分の考えを伝える機会をつくり、効果的にプレゼンテーションする力を培う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション力を身につけ、協力的に仕事を進めるチームワーク力とリーダーシップを発揮できる。

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 5

SOW460M

授業の概要 /Course Description

社会福祉関連テーマについて個別に深めるとともに学びを共有し、相談援助に係る実践的な知識や技術として理解を深めることがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
- 2 - 14回 課題発表（高齢者、児童、障害児者、ホームレス、社会的排除、コミュニティワーク、貧困、施設福祉、少年非行など）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表担当者は、レジュメを作成すること。
各自、必要な関係資料を収集しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	● 自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに沿って、卒業論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：オリエンテーション
2回～29回：卒業論文の執筆指導
30回：最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の準備および、議論、アドバイスを踏まえた事後学習(論文への反映)を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

報告・議論の場であるため、事前準備を十分に行って望むこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	論理的、創造的にものごとを考え、地域が抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究および実践について、簡潔に説明することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文・卒業実践報告

STH410M

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域コーディネートに関する専門知識を、地域現場との関わりの中で理解できる。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域における課題を発見し、地域コーディネートの視点から解決を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域コーディネート論	RDE110M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

地域活動を行う上で必要な視座の一つとして「地域コーディネート」という発想や方法を学びます。まちづくりや地域づくりに取り組む様々な活動の中には、コーディネートという発想が欠かせません。ぎゅくにコーディネートという視点から様々な地域活動を見ていくことで、それらの活動がどのような工夫によって成り立っているのかも分かります。コーディネート (coordinate) とは、一般的に「物事を調整すること」「色や材質などを調和させて組み合わせること」などを意味します。ですが、本講義ではこの「コーディネート」の意味をもう少し単純に、かつ広く考えたいと思っています。

今日、地域や社会の活性化を考えていく上で、一つのやり方で何でもうまくいく、あるいはこれまでと同じやり方ですべてがうまくいくという事はほとんどありません。むしろ、いろいろなやり方を組み合わせてみたり、古い発想と新しい発想を結び付けてみることで、はじめてうまくいくといったことが多くあります。その背景には、私たちが暮らす地域や社会のあり方が、近年、大きな曲がり角にきていることと関係があります。大きな曲がり角にきていることで、これまでは当たり前であったような私たちの考え方や方法が、そのままではだんだんと通用しなくなってきました。その中で試行錯誤しながら生まれているのが、異なる人と人、異なる人とモノを結び付けて、具体的な課題に対応していこうという発想です。従来ならば出会うことがなかったような人と人がつながったり、考えられなかったような人とモノとが組み合わせあって、一つの課題の解決のために力を合わせていくような活動の場面が増えていきます。本講義ではこうした活動場面を「地域コーディネート」という視点から検討することがねらいです。そのことによって、学生一人ひとりが自分たちの地域活動（実習活動）に活かせるようになることを目指しています。

以上の概要からこの講義での具体的な到達目標は次のとおりです。

- ①北九州を一つの事例としながら、近年の地域・社会のあり方の曲がり角をマクロな視点から把握することができる
- ②近年の地域・社会の現状を踏まえつつ、活性化の意味を自分なりに理解することができる。
- ③その上で、コーディネートの視点から地域活動の工夫や成り立ちを検討することができる。
- ④地域と社会の課題を発見し、コーディネートの発想から解決方法を探ることができる
- ⑤対話やディスカッションを取り入れることにより、授業での主体性を高め、様々な意見を出し合いながら地域活動に取り組むという姿勢を培う。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

地域コーディネート論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「地域」における「コーディネート」について（オリエンテーション）
- 第2回 北九州地域の「今」と「これから」：地域の活性化とは何か？
- 第3回 地域における「問題」と「課題」の区別
- 第4回 地域における「無駄なもの」と「貴重な資源」
- 第5回 地域活動での「コーディネート」の意味
- 第6回 コーディネートの事例を検討する①（人と人を結び付ける）
- 第7回 コーディネートの事例を検討する②（人とモノを結び付ける）
- 第8回 コーディネートの事例を検討する③（課題と課題を結び付ける）
- 第9回 コーディネートの事例を検討する④（再度・課題と課題を結び付ける）
- 第10回 地域と社会の課題発見①
- 第11回 地域と社会の課題発見②
- 第12回 課題の中の資源の発見
- 第13回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる①
- 第14回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる②
- 第15回 地域活動におけるコーディネートの重要性（まとめ）

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席すること。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの 関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. ボランティア活動など身近な地域活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論【夜】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域調査に関する幅広い知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 職場や地域で必要とされる調査技法と分析能力などの技能を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 総合的、多面的な視点で地域課題の析出に努め、論理的に解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域調査の知識を実践的場面で応用する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域調査論

INF242M

授業の概要 /Course Description

まちづくりや地域の課題の解決のために必要とされる地域調査について、まずその背景や基礎知識を習得する。
次に、グループワークを通して、地域調査を行っていくうえで必要となる各種資料、データの収集、整理を行う。
さらに、特定のテーマについて、収集したデータ、資料等をもとに実際に現状、課題の分析や考察を行うとともに、今後の政策の具体的な方向性について検討する。
また、実際のまちづくりの現場でいかに地域調査が行われ、どのように実際のまちづくりに反映されているのか、行政、民間等の実務担当者からお話を伺い、地域調査についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○西村幸夫・野澤康編(2010)「まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門」朝倉書店
○パトリック・ゲテス(2015)「進化する都市：都市計画運動と市政学への入門」鹿島出版会
その他、必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・・・オリエンテーション
 - 第2回・・・地域調査が必要とされる背景(1)
 - 第3回・・・地域調査が必要とされる背景(2)
 - 第4回・・・地域調査の基礎
 - 第5回・・・グループワーク1-① 資料の収集、整理
 - 第6回・・・グループワーク1-② 資料の収集、整理(つづき)
 - 第7回・・・グループワーク1-③ 資料の収集、整理(つづき)
 - 第7回・・・グループワーク1-④ 発表
 - 第8回・・・外部講師による講義(行政担当者)
 - 第9回・・・外部講師による講義(まちづくりコンサルタント)
 - 第10回・・・グループワーク2-① 収集した資料に基づく分析
 - 第11回・・・グループワーク2-② 収集した資料に基づく分析(つづき)
 - 第12回・・・グループワーク2-③ 収集した資料に基づく分析(つづき)
 - 第13回・・・グループワーク2-④ 発表
 - 第15回・・・まとめ
- * 外部講師による講義は講師の都合により前後する可能性あり

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークの成果物・・・40%、中間および期末レポート・・・40%、積極性・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域の特徴、まちの小さな変化などを感じ取れるような観察力を身につける。

地域調査論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークの進捗等により、授業計画、内容を変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

地域調査、データ、資料、まちづくり、政策立案、RESAS (地域経済分析システム)

景観まちづくり論【夜】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 景観まちづくりに関する専門的基礎知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 景観まちづくりを行う際の基礎的な調査手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 景観まちづくりの本質を理解し、景観について自分なりのとらえ方を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 景観まちづくりの実践手法の基礎を修得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

景観まちづくり論

ARC233M

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、「景観」と「まちづくり」です。景観まちづくりの思想や法制度について様々な視点から学び、各地の事例についてレビューすることで、景観を通じたまちづくりのあり方、景観まちづくりの本質について考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本建築学会 著『まちづくり教科書 第8巻 景観まちづくり』
日本建築学会 編『景観法活用ガイド 市民と自治体による実践的景観づくりのために』
日本建築学会 著『まちづくりデザインのプロセス』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 都市の景観について【景観】【調査指標】
- 3回 都市デザインのプロセス①【都市】【デザイン】
- 4回 都市デザインのプロセス②【都市】【デザイン】
- 5回 都市デザインのプロセス③【都市】【デザイン】
- 6回 景観法について①【景観】【法制度】
- 7回 景観法について②【景観】【法制度】
- 8回 景観法について③【景観】【法制度】
- 9回 特別講師による講義【設計】【都市美】
- 10回 事例紹介①【景観まちづくり】
- 11回 事例紹介②【景観まちづくり】
- 12回 意見発表会①【プレゼン】
- 13回 意見発表会②【プレゼン】
- 14回 事例紹介③【景観まちづくり】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組み課題の達成度 ... 50%
期末試験もしくはレポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 参考図書に目を通しておいください。
事後) 毎回の内容を復習してください。

景観まちづくり論【夜】

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものづくりマネジメント論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 生産活動の環境変化や基本事項を理解するための基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 生産活動を取り巻く諸課題を多面的な視野から分析する力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ものづくりマネジメント論

BUS317M

授業の概要 /Course Description

工業先進国であるわが国の「ものづくりの現場」が、どのようなしくみで、どのようなことを行い、利益を産み出しているのか、ものづくりの基本を学びます。

また、新興国の台頭や工場の海外移転、地域経済統合など、ビジネス環境が目まぐるしく変化する中で、わが国のものづくりがどのように変貌していこうとしているのか、新聞記事などを用いて一緒に考えます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ及びプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学習の意義と内容
- 2回 ものづくり環境の変化
- 3回 新興国(ベトナム)の実状
- 4回 地域産業の再生
- 5回 外部講師(技術者)による講話
- 6回 ものづくりと女性
- 7回 先進国が目指すべき方向(ライクスタイルの創造、ビデオ視聴)
- 8回 中小企業が目指すべき方向
- 9回 ものづくりの基本:機能、組織
- 10回 ものづくりの基本:加工方法
- 11回 生産管理
- 12回 品質管理と品質保証
- 13回 原価管理とコストダウン
- 14回 その他の管理(外注管理・購買管理・在庫管理など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習状況... 30% 期末試験... 70%

ものづくりマネジメント論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃からものづくりに関心を持つようにして下さい。例えば、身近な製品がどうやって作られているのか。新聞・雑誌・TVなどのメディアを通じて、ものづくり企業に関する情報を収集して下さい。
また講義終了後、適宜レポートを課します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術立国「日本」の繁栄を牽引してきたものづくりの現場が大きく変わろうとしています。ものづくりの現場が海外へ移転しつつあります。このことは雇用を喪失させ、ひいては技術・技能を弱体化させます。この機会にもものづくりについて考えてみませんか？

キーワード /Keywords

まちづくり実践論【夜】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● まちづくりの実践に際し必要となる多様な視点と専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● まちづくり実践時の課題を抽出し、専門的知識に基づく解決策を考察できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

まちづくり実践論

RDE312M

授業の概要 /Course Description

これからの日本社会においては、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会など、地域の多様な主体がそれぞれの役割を担ってまちづくりに参画する新しい地域経営の仕組みづくりと、その仕組みに基づいたまちづくりの実践が必要です。

本授業では、現在のまちづくりを取り巻く諸状況や課題を踏まえた上で、今後の地域経営のあり方や、地域の各主体が果たすべき役割等について、実際の政策や事例に学びながら考えていきます。

このことを通じ、履修者が今後、まちづくりを実践していくに際し必要となる「多様な視点」と知識を得るとともに、直面する諸課題の解決策を考察する上で求められる柔軟な応用力を涵養することを目指します。

※注意： 「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な用い方が行われています。本授業では、都市・地域において、多様な主体が関わるハード・ソフト両面の幅広い政策や行動を「まちづくり」と位置づけます。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業で紹介する各種概念・事例の出典等は授業中に明示しますので、各自、より深く学びたい場合は参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ~本授業における「まちづくり」の考え方
- 2回 新しい地域経営を巡る動き(1)【協働】
- 3回 新しい地域経営を巡る動き(2)【新しい公共、PPP(官民連携)】
- 4回 ディスカッション① ~協働のまちづくりの課題と今後の展望
- 5回 まちづくりにおける合意形成(1)【合意形成の重要性】
- 6回 まちづくりにおける合意形成(2)【震災を事例に考える】
- 7回 ディスカッション② ~合意形成の理想と課題
- 8回 まちづくりとビジネス(1)【コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス】
- 9回 まちづくりとビジネス(2)【ソーシャルインパクト】
- 10回 まちづくりと“経済効果”
- 11回 ディスカッション③ ~新たなまちづくりビジネスを展開する上での課題
- 12回 まちづくりにおける「現状把握」の重要性
- 13回 まちづくりにおける「専門家の活用」の重要性
- 14回 まちづくりにおける「コーディネータ」の重要性
- 15回 ディスカッション④ ~小倉のまちづくりを考える

※ 可能な限り、各回の授業時点で社会的に話題となっているトピックや最新の政策動向を取り入れた授業を心がけます。そのため、授業の構成については変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への積極的参加(ディスカッションでの姿勢等) 50%
- ・ 期末レポート 50%

まちづくり実践論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めてください。
ディスカッションを行う回の授業前には、各自による報告準備が必要になります（準備内容についてはディスカッション回の前の授業で指示します）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から、まちづくりへ幅広い関心を持ち、自分なりに書籍、報道等を通じ情報収集を行うよう意識してください。

キーワード /Keywords

地域経営、協働、合意形成、地域活性化

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』（有斐閣・2005年）
 山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成29年版』（有斐閣・2016年）
 ※基本的に配布するレジユメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』（有斐閣・2010年）(図書館蔵書：○)
 笹倉秀夫『法学講義』（東京大学出版会・2014年）(図書館蔵書：○)
 ※このほか、講義中に板書・レジユメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か（1）【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か（2）【法と道徳】 【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か（3）【法と強制】 【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法（1）【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法（2）【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法（3）【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法（1）【憲法とは何か】 【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法（2）【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】 【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法（1）【財産と法】 【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法（2）【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】 【経済法】 【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30%）
 2. 講義全体の内容についての期末テスト（全体の70%）

法学総論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

【諸注意】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

憲法人権論【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論と呼ばれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が憲法上の権利として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）
- 芦部信喜『憲法 第6版』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法 第6版』（新世社、2014年）
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由と表現の自由①
- 第8回 思想・良心の自由と表現の自由②
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①
- 第14回 社会権②
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

憲法人権論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を予め履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

社会法総論【夜】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

現代社会では、大学卒業後あるいは高校卒業後に何らかの仕事に就いて生計を立てることになる人が多く、仕事を取り巻く法規制をどのように考えるかが重要な問題となっています。本講義では、仕事にかかわる法規制（労働法）、失業期間中の所得保障や仕事から引退した後の所得保障に関する法規制（社会保障法）の基本的な仕組みを理解することに主眼を置きつつ、仕事にかかわる法規制がなぜ必要なのか、憲法や民法といった基本法が労働法や社会保障法といった先端法学とどのように関わっているか等を学びます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 社会法とは—市場、契約、資本主義とSocialism
- 2 社会法とは—雇用、所得、社会保障
- 3 雇用への編入—男女差別、障害差別、年齢差別
- 4 最低限度の労働条件
- 5 労働組合への加入
- 6 キャリアの展開と人事異動
- 7 職務発明
- 8 育児、介護と労働市場
- 9 解雇と失業保険
- 10 雇用関係の脱統合化
- 11 生活保護
- 12 格差社会と社会法の再編
- 13 引退と公的年金
- 14 社会法は必要か？
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに (事前学習)、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること (事後学習) が重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会法総論 【夜】

キーワード /Keywords

行政法総論【夜】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第14回 行政裁量(2)【裁量の所在】
- 第15回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第16回 行政契約
- 第17回 行政指導
- 第18回 行政計画
- 第19回 行政の義務履行確保(1)【行政上の強制執行】
- 第20回 行政の義務履行確保(2)【行政罰】
- 第21回 即時強制と行政調査
- 第22回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第23回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第24回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第25回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第26回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第27回 行政情報(3)【個人情報保護制度】
- 第28回 公法と私法
- 第29回 進度調整
- 第30回 まとめ

行政法総論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

会社法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

会社法II 【夜】

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 本年から『北九州NPOハンドブック(第6版)』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』(法律文化社、2017年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

NPO論【夜】

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

地方自治論【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】【主務大臣の包括的指揮監督権】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【首長と議会】【二元代表制】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【中央地方関係】
- 6回 縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
- 7回 縮小する地方財政の中で②【地方債】
- 8回 縮小する地方財政の中で③【ふるさと納税】
- 9回 合併の価値は①【市町村合併】
- 10回 合併の価値は②【自治体内分権】
- 11回 地域の戦い①【外発型発展と内発型発展】【交流人口】【定住人口】
- 12回 地域の戦い②【外発型発展】【原子力発電】
- 13回 地域の戦い③【交流人口】【インバウンド】
- 14回 地域の戦い④【アニメ聖地巡礼の事例比較考察】
- 15回 地域の戦い⑤【定住人口】【婚活支援】【恋愛と結婚】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

地方自治論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

福祉政策論【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 児童虐待
- 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から3点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

経済学入門 A 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社、2005年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【夜】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

経済学入門B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

金融論I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引—国際金融&国際投資—）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになるだろう。

<本講義の到達目標>

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基本理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ—国際金融の視点—から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】 【グローバル・インバランス】 【トランプショック】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
【英国のEU離脱】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】
【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】 【アベノミクス】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済 【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
【経常収支黒字】 【資本収支赤字】 【外貨準備率】 【世界経済の不均衡問題】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度 : GATT&WTO、及びFTA (EPA) TPP
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点 : 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 定期試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した記事 (雑誌記事、新聞記事etc) を収集して、授業のさらなる理解に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキストと一緒に事前・事後学習に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 グローバル・インバランス BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 米ドル ユーロ 円高・円安
 経常収支 資本収支 外貨準備 アベノミクス 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放 対外
 債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

地域経済I【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 裕哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

近年、地域経済を取り巻く環境は大きく変化し、「地方消滅」や「地方創生」といった言葉に示されるように注目を集めている。本講義では、身近な経済事象を取り上げ、地域との関わりについてみていく。また、本講義を通じて、地域の見方を身につけ、地域が抱える諸問題（特に経済面）に対して自分なりの解決策を考えて欲しい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川端基夫 (2008) : 『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。(○)
 松原 宏編 (2002) : 『立地論入門』古今書院。
 松原 宏編 (2013) : 『現代の立地論』古今書院。
 その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域と経済（講義の概要）
- 2回 コンビニと地域
- 3回 ファストフードと地域
- 4回 ファミレスと地域
- 5回 ファッション産業と地域
- 6回 コンテンツ産業と地域
- 7回 自然災害による生産への影響と地域
- 8回 エコタウンと地域
- 9回 農業と地域
- 10回 観光業と地域
- 11回 商店街の変遷からみる地域
- 12回 自動車産業と地域
- 13回 化学産業と地域
- 14回 製鉄業と地域
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コンビニやファストフード店など身近にあるものが「どこに立地しているか?」、「それはなぜか?」ということを普段から意識しておいて欲しい。また、授業後に学んだことがどの程度当てはまるか、身近な地域で確認して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

地域経済I 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業立地、労働力、自然環境

環境経済学【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・藪田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

環境経済学 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。

経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

日本の企業経営について考える。
「失われた20年」の間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、その原因を探っていく。

教科書 /Textbooks

テーマに関連した資料を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のねらいについて解説する。
- 2回 - 14回
一つ一つの企業を取り上げ、その経営内容について考えていく。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、討論50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に配布した資料に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

- ① この授業では、企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明したい。企業概念や種類、株式会社の仕組みといった基礎的な内容を学んだうえで、近年における最大の企業問題である、「企業統治（コーポレート・ガバナンス）」と「企業の社会的責任（CSR）」について、事例を通じて学習する。
- ② 授業の進め方としては、ケースメソッドやグループ学習など、アクティブラーニングを取り入れて実施する予定である。
- ③ 毎時間、ミニツツペーパーに書かれた受講生の質問や意見を紹介し、理解の共有を図る。

教科書 /Textbooks

「なし」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 汪志平『企業論テキスト』中央経済社(2015年) 2,700円+税
- ・ 守屋貴司・近藤宏一編著『はじめの一歩経営学 入門へのウォーミングアップ 第2版』ミネルヴァ書房(2012年) 2,400円+税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション（講義の概要や目的、評価方法等の説明）
- 2回 企業の諸形態（1）【企業とは何か】【企業の変遷】
- 3回 企業の諸形態（2）【企業の分類、企業の種類】
- 4回 企業の諸形態（3）【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 5回 企業の諸形態（4）【株式会社の仕組み】
- 6回 株式会社の所有と支配（1）【米国における会社の支配構造】
- 7回 株式会社の所有と支配（2）【日本における会社の支配構造】
- 8回 企業統治（1）【企業統治とは何か】
- 9回 企業統治（2）【日本の企業統治】
- 10回 企業統治（3）【企業統治改革】
- 11回 企業統治（4）【企業統治の国際比較】
- 12回 企業と社会（1）【企業とステークホルダー】
- 13回 企業と社会（2）【企業の社会的責任（CSR）】
- 14回 企業と社会（3）【企業倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 予習：（学習支援フォルダ等を通じて）事前に配布される授業資料には必ず目を通して授業に望むこと。
- ② 復習：その日のうちに重要な内容や用語などを整理・理解するようにすること。

企業論基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経営学入門」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態（企業の種類） 株式会社 株式会社の所有と支配 企業統治（コーポレート・ガバナンス） 企業の社会的責任（CSR）

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回解説する実務のうち記帳練習は必ず復習すること。また、簿記体系の理解も重要なので理論書を熟読を期待する。

履修上の注意 /Remarks

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

簿記論I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム	INF220M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
 - 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
 - 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デジジョンテーブル】
 - 11回 モデル化の演習
 - 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
 - 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

コンピュータシステム【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示された用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

人的資源管理論【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経営的な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行います。本講義では、担当教員も執筆者として参加している上林(2015)を教科書として用いるので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できると思いますが、講義の順序は教科書の配列とは少し変えています。

教科書 /Textbooks

上林憲雄編(2015)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。(2,592円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文眞堂)
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人的資源管理論へのプロローグ
 - 2回 人的資源管理入門【企業経営】【人的資源】
 - 3回 モチベーション理論【やる気】【モチベーション】
 - 4回 リーダーシップとコミットメント【リーダーシップ】【コミットメント】
 - 5回 組織構造論【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【採用】【異動】
 - 7回 人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 昇進管理【昇進】【出世】
 - 9回 賃金制度【属人給】【仕事給】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 国際人的資源管理【多国籍企業】【海外派遣者】
 - 12回 人的資源管理学説の変遷(1)【科学的管理法】【人間関係論】
 - 13回 人的資源管理学説の変遷(2)【行動科学】【戦略人事】
 - 14回 人的資源管理と組織能力の連関【組織能力】【ダイナミック・ケープビリティ】
 - 15回 近年における人的資源管理の動向、総まとめ【ダイバーシティ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。

事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといよいでしょう。
- (2) 教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と同じです。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退会をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

中小企業論【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2016年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣
 中小企業庁編「2016年版小規模企業白書」日経印刷

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
 授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム分析 【夜】

担当者名 /Instructor 江藤 宏 / Hiroshi Eto / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートを掲載する。（掲載場所未定、初回授業時に説明）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○
平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習（データ処理）
 - 14回 グループ演習（発表）
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回までの授業内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

システム分析 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉 1

SOW100M

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会福祉とは何か 【憲法25条】【人間の基本的ニーズ】【ウェルビーイング】
- 3回 生活問題とソーシャルワーク 【社会福祉援助技術】【個人と環境との不適合】
- 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
- 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイスティツク】
- 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助 【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 8回 生活保護法 【生存権保障】【救貧】
- 9回 社会福祉の歴史（イギリス） 【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 10回 社会福祉の歴史（日本） 【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
- 11回 社会福祉の歴史(ビデオ) 【日本のセツルメント活動】 【賀川豊彦】
- 12回 福祉改革と日本の動向 【日本型福祉社会論】【規制緩和】【格差社会】
- 13回 日本と世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
- 14回 日本と世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業で配布した学習用問題プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジュメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

見島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓 / 編集『現代社会と福祉』東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2016』中央法規出版
- ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策と社会問題・現代的課題【社会問題】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 4回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 5回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 6回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 7回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 8回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 9回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 10回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 11回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 12回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法】
- 13回 福祉サービスと援助活動【地域福祉への展開】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出（20点）+ 期末テスト（80点）= 100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
- 事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

現代社会と福祉 2 【夜】

履修上の注意 /Remarks

第1学期開講の「現代社会と福祉 1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を自分で学んでおくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学びます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉に関する理論と現場理解を基盤に、地域と対象者の抱える問題の本質を分析できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における社会福祉活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 1

SOW260M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域と対象者の抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に主体的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 2

SOW261M

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。また、授業ごとに配布されるレジュメを見直すこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

社会調査の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%
3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習として教科書に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は、概ねテキストに則して進めるので、テキストの該当箇所を精読して復習を行うこと。

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

社会調査の基礎【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基本的考え方等について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	ネットワーキング等の具体的な支援技術、問題解決へのコーディネート力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	多面的な視野から地域福祉問題の本質を見抜き、その解決策を提案する力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、地域福祉活動に積極的に取り組む姿勢を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法 1

SOW210M

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程 1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程 2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 日常の授業への取り組み20% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史とともに変遷をたどってきた障害者施策を概観することと併せて、「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を読み解くことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び昨年4月に施行された「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への「合理的配慮」の意義と目的を理解する。その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第5版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守ること① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守ること② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め教科書に目を通し疑問点を整理しておくこと。授業終了後には配布したプリントを復習しファイル化して反復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

履修上の注意 /Remarks

テレビ・ラジオ、新聞等のメディアや書籍に取り上げられる障害者に関する情報を意識的に収集すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人と環境の相互作用に関する専門知識に加え、相談援助の対象と実践モデルについて理解する。
技能	専門分野のスキル	● 地域で相談援助活動を行っていく上で必要とされる、具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から状況を判断し、個々人が抱える問題の本質を見抜く力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 1

SOW262M

授業の概要 /Course Description

「相談援助の理論と方法I」では、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論及び相談援助における援助関係構築に関する理論を学習し、相談援助とは何かを深める。その学習をもとに実践する場合の展開過程を丁寧に辿り、各段階の目的や内容を理解する。さらに相談援助を実践するために重要な視点や必要な技術について理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「新 社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法I 第3版」
中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて 授業の中で紹介する。
その他 適宜 資料プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「相談援助の理論と方法I」で何を学ぶのか。全体の講義の概要。
- 第2回 相談援助とは 「ソーシャルワークの定義と枠組み・対象の理解」
- 第3回 相談援助の構造と機能 「ソーシャルワーカーの役割」
- 第4回 人と環境の相互作用 「システム理論とソーシャルワーク」
- 第5回 ジェネラリスト・ソーシャルワークについて
- 第6回 相談援助における援助関係 「援助関係の構造や援助者の自己覚知について」
- 第7回 相談援助の展開過程I 「ケース発見から問題把握・ニーズ確定まで」
- 第8回 相談援助の展開過程II 「アセスメントからプランニングまで」
- 第9回 相談援助の展開過程III 「プランニングから支援の実施へ」
- 第10回 相談援助の展開過程IV 「モニタリングから地域の課題表出へ」
- 第11回 相談援助のための面接技術について 「面接技法の意義と目的」
- 第12回 相談援助面接の実際
- 第13回 相談援助のためのアセスメント技術について 「アセスメントの方法と留意点」
- 第14回 相談援助における記録の技術について 「記録の意義と倫理」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テレビや新聞などのメディアや書籍で扱われている、貧困や労働、高齢者や障害者に関すること等様々な社会問題に関心を持って情報を収集すること。関連する制度について調べる。

相談援助の理論と方法 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相談援助の対象と集団を活用した実践モデルについて総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 多職種連携や多機関連携等の具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 個人や集団が置かれた状況を判断し、人々が抱える問題の本質を見抜く力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法2

SOW263M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワーカーがクライアントに対して行う相談、助言・指導・連絡・調整・その他の援助に関する「理論と方法」について学ぶ、相談援助演習や相談援助実習指導、および相談援助実習に関連する重要な科目の一つである。特に個人から家族・小集団・組織・地域社会というマイクロからメゾ、マクロまでをクライアントシステムとして捉え、理解することを目的とする。具体的には「相談援助の対象の理解」、「ケース（ケア）マネジメント」、「コーディネーションとネットワーク」、「実践モデルとアプローチ」、「スーパービジョンとコンサルテーション」等についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

中央法規「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II 第3版」社会福祉士養成講座編集委員会編
ミネルヴァ書房「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房編集部編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内にて適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 相談援助の対象の理解
- 第2回 ケア（ケース）マネジメント（1） ケアマネジメントの概念と援助過程
- 第3回 ケア（ケース）マネジメント（2）ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴
- 第4回 ケア（ケース）マネジメント（3）ケアマネジメントの特徴
- 第5回 グループを活用した相談援助
- 第6回 コーディネーションとネットワーク
- 第7回 社会資源の活用・調整・開発
- 第8回 さまざまな実践モデル・アプローチ（1）
- 第9回 さまざまな実践モデル・アプローチ（2）
- 第10回 さまざまな実践モデル・アプローチ（3）
- 第11回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 第12回 ケースカンファレンスの技術
- 第13回 相談援助における個人情報保護
- 第14回 ケースカンファレンス（事例検討）（1）
- 第15回 ケースカンファレンス（事例検討）（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70%
講義に対する取り組み・・・20%
課題・・・10%

相談援助の理論と方法 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目単独での学びだけでなく、他の科目との関連性にも留意しながら学習すること
テキストを中心に、多くの相談援助技術に関する書籍にも目を通すこと

履修上の注意 /Remarks

評価は3分の2以上の出席がある者を対象とする
講義開始後30分以内は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとする
また中途の退室も減点の対象とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

ケアマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日本を中心とした社会保障制度の基礎について理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代日本における社会保障制度の抱える課題に気づくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障

SOW240M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の課題（20点）+ 期末試験（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険（年金、医療、介護、雇用）について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

社会保障【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 低所得者に関する諸課題を的確に捉え、支援策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に対する関心を高め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M

授業の概要 /Course Description

近年の貧困と格差の拡大傾向を背景として、生活保護費保護者数は史上最高数に達し、また、ワーキングプア、ネットカフェ難民、孤立・孤独死、DVなど、貧困に伴う問題状況も多様化し、生活保護と他の所得保障制度との連携や被保護世帯に対する社会福祉的援助の強化が求められています。

この講義では、低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得すること、低所得者に関する諸問題を的確にとらえ、支援策を導く能力を習得すること、および、低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に関する関心を深め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成することを目的として、講義を行います

具体的には以下の学習到達目標に従って講義を行います。

1. 低所得者層の生活実態と福祉需要について説明できること
2. 福祉需要を有する者に対する相談援助において必要となる生活保護制度について説明できること
3. 生活保護と関連する他の低所得者支援制度について説明できること
4. 低所得者に対する自立支援の意義と課題について説明できること
5. 公的扶助制度の歴史と近年における世界の公的扶助制度の改革動向について説明できること

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田正美監修・著 「公的扶助論-低所得者に対する支援と生活保護制度【第3版】」 MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 ￥2,600
 岩田正美「現代の貧困」筑摩書房（格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困に迫るものです。）
 小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会（立案者による生活保護法の逐条解説です）

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15回の講義について、以下の計画に従って授業を行います。

- 第1回 貧困の概念 → 絶対的貧困と相対的貧困、相対的貧困率
- 第2回 現代の貧困問題 → 貧困に伴う問題、低所得層の福祉需要
- 第3回 福祉国家と生存権 → 福祉国家の意義と変容、社会的包摂
- 第4回 公的扶助の意義と役割 → 社会保険の定型性と公的扶助の補足性
- 第5回 貧困対策の歴史 → 救貧制度の歴史、生活保護法の成立
- 第6回 生活保護制度（Ⅰ）法の目的、保護の原理・原則、受給資格と保護内容
- 第7回 生活保護制度（Ⅱ）保護の行政組織
- 第8回 生活保護制度（Ⅲ）保護の実施
- 第9回 生活保護制度（Ⅳ）被保護者の権利・義務と費用
- 第10回 生活保護制度（Ⅴ）権利救済と援助活動
- 第11回 生活保護制度（Ⅵ）被保護者の動向と公的扶助の課題
- 第12回 海外の公的扶助制度改革の動向
- 第13回 社会保険と社会手当の動向 → 母子世帯と児童扶養手当制度
- 第14回 第二のセーフティネット → 求職者支援制度、生活困窮者自立支援制度、ホームレス自立支援法
- 第15回 住宅保障と生活福祉資金貸付制度

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（30％）、定期試験（70％）により、評価を行います。
定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、その知識の正確さないし説明の適切性について筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 以下の点に留意して履修してください。
- ・ 疑問点は積極的に質問するよう心がけること
 - ・ 講義では要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、予習および事後の学習に心がけること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ、拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、興味を持てるテーマを選択して自分なりの問題関心を持って授業に臨んでほしいと思います。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

相対的貧困、絶対的貧困、「見えない貧困」、「貧困の連鎖」、社会的排除
 エリザベス救貧法、恤救規則、社会保険の定型性、公的扶助の補足性、生存権
 生活保護基準、資産調査、福祉事務所、自立支援プログラム、第二のセーフティネット
 生活困窮者自立支援

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 /Instructor 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人体の構造と機能及び疾病についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	疾病が発生する要因を社会生活のあり方との関連で理解することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	疾病の発生とライフサイクル上の健康の課題を理解することを通して、人間の生活課題に対する関心を高める。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人体の構造と機能及び疾病

SOW231M

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。
 食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要が学ぶ内容の主な柱となる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長・発達と老化①・・・身体の成長・発達 精神の成長・発達について学ぶ
2. 人の成長・発達と老化②・・・老化について学ぶ
3. 身体構造と心身の機能①・・・人体の部位の名称について 水分と脱水 血液の成分 心臓の構造について学ぶ
4. 身体構造と心身の機能②・・・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・運動支持器の構造と機能について学ぶ
5. 身体構造と心身の機能③・・・内分泌器・神経系・感覚器・皮膚・生殖器・その他の構造と機能について学ぶ
6. 国際生活機能 (ICF) の基本的な考え方と概要・・・国際障害分類 (ICDH) から国際生活機能分類 (ICF) への変遷について学ぶ
7. 健康の捉え方・・・健康の概念について、WHO憲章による健康の定義、その他の定義について学ぶ
8. 疾病の概要①・・・生活習慣病の病態・診断治療法について学ぶ
9. 疾病の概要②・・・神経精神疾患・先天性精神疾患の病態・診断・治療法について学ぶ
10. 疾病の概要③・・・悪性腫瘍・難病の病態、その他高齢者に多い疾患 終末期医療と緩和ケアについて学ぶ
11. 障害の概要①・・・視覚障害・聴覚障害、平行機能障害、肢体不自由について学ぶ
12. 障害の概要②・・・内部障害・発達障害・認知症について学ぶ
13. 障害の概要③・・・高次脳機能障害、精神障害について学ぶ
14. 障害の概要④・・・精神疾患の診断・統計マニュアルの概要 その他について学ぶ
15. リハビリテーションの概要・・・リハビリテーションの定義、対象、リハビリテーションの障害評価、諸段階、4つの側面について学ぶ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題レポート 20% 出席・授業参加度 10%の割合で評価する。

課題レポートのテーマは授業内で提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で配布した資料などを活用し、授業内容の確認、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め教科書に目を通しておくこと。

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画	SOW242M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

福祉行財政と福祉計画 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスのあり方は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし、社会保障費の増加や社会福祉従事者の増加は、日本が築いてきた社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の問題等、規制改革とともに新たな福祉経営がもたらされる時代となった。福祉施設は、人生のリスクに対するセーフティネットである。利用者の自立を運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に信頼が築ける施設経営が求められている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営は何かを学習する。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステムも視野に入れながら21世紀型の地域福祉及び福祉経営について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利理解
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、事後学習としてテキストの振り返りが大切です。

福祉サービスの組織と経営【夜】

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。
担当教員は福祉施設の施設長(社会福祉士・主任介護支援専門員)ですが、その立場から経営論を市民、地域、行政、関連事業者のニーズを踏まえて論じます。

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 /Instructor 小鉢 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業に関する基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	権利擁護の取り組みに関する関心を高め、成年後見制度と日常生活自立支援事業に取り組むための問題解決能力を形成する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業を活用することで、権利擁護が具体化できることに関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

権利擁護と成年後見制度

SOW250M

授業の概要 /Course Description

知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学びます。介護保険法・障害者総合支援法により提供される、本人の権利擁護のための福祉サービスや、本人に対する権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、本人の財産管理能力を補完するための成年後見制度等、福祉職にとって不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「権利擁護と成年後見制度」(弘文堂)～社会福祉士シリーズ～

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エピローグ(基本的人権と権利擁護)
- 2回 民法1(権利能力と行為能力)
- 3回 民法2(契約の自由とその修正)
- 4回 民法3(親族と扶養)
- 5回 民法4(相続)
- 6回 福祉サービス～措置から契約へ
- 7回 介護保険法の仕組み
- 8回 総合支援法の仕組み
- 9回 成年後見制度1(法定後見)
- 10回 成年後見制度2(任意後見)
- 11回 後見人の仕事とその限界
- 12回 日常生活自立支援事業
- 13回 虐待防止(高齢者虐待防止法・障害者虐待防止法)
- 14回 周辺の法律(差別解消法等)とあるべき権利擁護
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・70%
 期末試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉小六法は、毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

権利擁護と成年後見制度 【夜】

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

発達心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、提出用の用紙に事例の概要をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理学 【夜】

キーワード /Keywords

心理療法論【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

本講義では、こころの問題に対する援助の基本姿勢を学びます。また、さまざまな心理療法の共通基盤としての援助的コミュニケーション技法として、マイクロカウンセリングを用いた演習を行います。その後、心理療法のロールプレイを実施し、援助的コミュニケーション技法の基本姿勢を身につけます。

教科書 /Textbooks

なし。資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、対話による心理療法の基本姿勢
- 第2回：心理療法の導入①（出会いの技法）
- 第3回：心理療法の導入②（治療同盟）
- 第4回：心理療法の導入③（質問による関わり）
- 第5回：心理療法の展開①（感情の扱い方）
- 第6回：心理療法の展開②（葛藤への触れ方）
- 第7回：心理療法の展開③（効果的な助言）
- 第8回：心理療法の展開④（面接関係の扱い方）
- 第9回：心理療法のロールプレイ
- 第10回：ロールプレイの振り返り
- 第11回：発達に応じた心理療法（子ども・思春期への援助）
- 第12回：心理療法の様々な技法（精神分析的な心理療法）
- 第13回：心理療法の様々な技法（認知行動療法）
- 第14回：心理療法の様々な技法（動作法）
- 第15回：心理療法の様々な技法（集団療法）、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

心理療法論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リハビリテーション論【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● リハビリテーションに関する理念や定義などの基礎的概念を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● リハビリテーションに関わる多様な主体の関係性や役割を踏まえた包括的なリハビリテーションの実践法を身につける。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

リハビリテーション論

HSS330M

授業の概要 /Course Description

リハビリテーション論では、リハビリテーションの歴史や理念を理解した上で、障がい者や高齢者、スポーツ選手の怪我等、さまざまな場面における実践方法を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リハビリテーションの基本理念
- 3回 リハビリテーションの歴史の変遷
- 4回 疾病と障害①身体障害
- 5回 疾病と障害②知的障害
- 6回 疾病と障害③精神障害
- 7回 障がい者のリハビリテーションの概要
- 8回 障がい者のリハビリテーションの実践
- 9回 高齢者のリハビリテーションの概要
- 10回 高齢者のリハビリテーションの実践
- 11回 アスレティックリハビリテーションの概要
- 12回 アスレティックリハビリテーションの実践①
- 13回 アスレティックリハビリテーションの実践②
- 14回 地域リハビリテーションの実際と課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常授業への取り組み（ミニレポートを含む）・・・60%、小テスト・・・20%、期末レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明しますので、第一回目から出席してください。また、基本的には講義形式で行いますが、実践法を身につける際には、実技形式で行うこともあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

リハビリテーション論【夜】

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域で行うスポーツ活動についての基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	地域で行うスポーツ活動を通じて専門分野の基礎的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域スポーツ活動においての諸問題を的確に捉え、運営や企画がスムーズに行えるよう導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域のスポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニティスポーツ論

HSS220M

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 7回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 8回 スポーツ事業のプロモーション
- 9回 スポーツイベントがもたらす効果
- 10回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 11回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 12回 地域スポーツの将来像
- 13回 文化としてのスポーツ
- 14回 スポーツと社会(まとめ)
- 15回 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(ミニレポートを含む)・・・60%、小テスト・・・20%、期末レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

4分の3以上の出席を必要とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

コミュニティスポーツ論 【夜】

キーワード /Keywords

身体適応論 【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境（熱中症の予防）
- 13回 運動への行動変容（1）【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容（2）【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストなど）... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体適応論 【夜】

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【夜】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的な練習計画の作成ができる知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価 身体組成・体力の測定
- 12回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 13回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面
- 14回 発育発達期におけるトレーニング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
 携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

トレーニング論【夜】

キーワード /Keywords